都城市の
地域福祉2020

都城市地域福祉実践報告書

令和２年度
「我が事・丸ごと」の地域力強化推進事業
社会福祉法人都城市社会福祉協議会
令和３年3月31日

『都城市の地域福祉 2020』

もくじ

もくじ …… 1
はじめに …… 2

第１章　都城市の地域福祉実践トピックス 2020 …… 3
１．地区社協ってどんなところ？ …… 4
２．福祉教育ガイドブックを日本福祉教育・ボランティア学習学会にて発表 …… 4
３．第４次地域福祉活動計画完成 …… 5
４．みやこんじょボランティアフェスティバル 2021 …… 6
第２章　都城市の地域福祉実践―地区社協編― …… 7
１．各地区社協のトピックス（姫城地区社協～高崎地区社協） …… 8
２．各地区の第４次地域福祉活動計画の完成に向けて …… 23
第３章　都城市の地域福祉実践 - その他各事業実践編 …… 25
１．地区社協なんでも相談員研修会 …… 26
２．都城市社会施設等連絡会研修～はじめての Zoom 研修編 …… 29
３．福祉教育プログラム検討委員会 …… 30
４．第２層生活支援コーディネーター研修会 …… 32
５．ファミリー・サポート・センター設立 10 周年 …… 34
６．帰庁報告会人事交流を通して …… 36
７．みやこんじょボランティアフェスティバル 2021「オンラインだよ！全員集合！」 …… 44
８．冒険遊び場（プレーパーク in 縄瀬） …… 46
９．社協職員のための「ザ・社協塾」 …… 47
10．共通研修他部署業務体験研修 …… 49

第４章　地域福祉実践報告会 …… 52

資料編 …… 67
１．さちこだより～生活支援コーディネーター通信～各地区社協広報紙 …… 68

奥付 …… 96

はじめに

住民の身近な圏域で、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり及び市町村における育児、介護、障害、貧困、さらには世帯全体の複合化した課題を包括的に受け止める総合的な支援体制づくりの支援、推進を目的に「『我が事・丸ごと』の地域づくり推進事業」が実施されています。都城市においても、2018 年 4 月からその一環である「地域力強化推進事業」に都城市社会福祉協議会（都城市社協）が取り組んでおり、今年で 3 年間の受託が終わるところです。

そのような中、令和 2 年 3 月から「新型コロナウイルス」により日常が大きく変わり“当たり前”の生活が失われ、地域の様々な活動にも影響を及ぼし、都城市においても、15 地区社会福祉協議会（地区社協）を基盤とした様々な活動が制限され、「住民同士が顔を合わせる機会」が激減する事態になりましたが、地域福祉のあり方を再考し、模索することで新たなつながりの形も見えてきました。

また、15 地区社協を中心に「第 3 次都城市地域福祉活動計画」（行政計画）を具体的に行動していくための活動計画（アクションプラン）「第 4 次都城市地域福祉活動計画」づくりに取り組み、住民自ら熱心な協議を重ねる中で、地域課題や地域福祉の未来が描かれました。

この報告書は、受託最終年度の実践として、15 地区社協で地域共生社会づくりに尽力いただいている方々の「自分たちの地域は自分たちでつくる」という思いのもと、地域への発信とともに、次なる実践に向けた気づきの一助となるよう作成したところです。

第１章

都城市の地域福祉実践トピックス 2020

都城の地域福祉実践トピックス2020

1．地区社協ってどんなところ？

地区社会福祉協議会（通称：地区社協）は15中学校区に設置されており、地域活動に取り組んでいるさまざまな団体により構成されています。すべての人が安心して生活できるように地域の課題を話し合い、いろいろな事業に取り組んでいます。

その中でも、「福祉なんでも相談」は、相談員が地域の皆さんの生活上の困りごとや悩みの相談に応じ、市社会福祉協議会や地域包括支援センターなどの専門機関と協力しながら、地域の身近な相談窓口として、15地区で週１～２回開設されています。

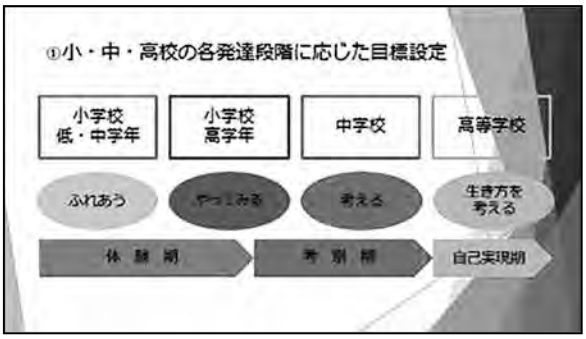
なんでも相談員研修会

中郷地区社協役員で議論の様子

2．福祉教育ガイドブックを日本福祉教育・ボランティア学習学会にて発表

令和２年11月、日本福祉教育・ボランティア学習学会オンライン大会で「福祉教育ガイドブック」について発表しました。

小・中・高校の各発達段階に応じた福祉教育プログラム開発への取組みやガイドブックの内容、教員と一緒に取組む中での成果について、アドバイザーとして関わっていただいた日本福祉大学 教授の野尻紀恵氏と共に発表しました。その中で、全国の参加者より、ガイドブックに対する期待の声や貴重なご意見をいただきました。今後は、地域や学校現場で周知啓発しながら、積極的に活用していきたいと考えています。



３．第４次地域福祉活動計画完成

令和元年度、都城市におけるこれからの福祉のまちづくりの方向性を示した「第３期都城市地域福祉計画」（行政計画）が策定されました。それを受けて、令和２年度は、その行政計画を具体的に行動していくための活動計画（アクションプラン）「第４次都城市地域福祉活動計画」づくりに取り組みました。

今回の計画は、①市圏域での活動計画、② 15 中学校区圏域での 15 地区活動計画、③市社会福祉協議会の経営基盤強化計画の３本柱になっており、計画の実施期間は、令和３年度から令和７年度までの５年間です。

今回の計画の目玉は、15 地区社会福祉協議会を中心に、住民自ら熱心な協議を重ねてまとめ上げた、「15 地区の地域福祉活動計画」が令和版としてリニューアルされたことです。15 地区の地域住民の皆さんの熱い想いを施策として、計画書に落とし込みました。

いよいよ、令和３年度から計画の実践です！

こだわらないに　こだわって「いいが　いいが」の　みやこんじょ
未来につながる　地域の輪

～第４次都城市地域福祉活動計画スローガン～

各地区これからの５年間に向けて、熱い意見が交わされました。

４．みやこんじょボランティアフェスティバル 2021

今年度のみやこんじょボランティアフェスティバルは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となりました。しかし、これまでのボランティアフェスティバルで築かれた“つながり”“絆”を次年度につなげるために、「みやこんじょボランティアフェスティバル 2021 オンラインだよ！全員集合！」として、テーマを“つながりを絶やさない～みんなで集まれる、その日まで～”として、動画をインターネット配信することになりました。

また、昨年度まで実施してきた「ものものトレード」「フードドライブ」では、物をとおして誰かのために自分にできることで繋がりを深めていければと考えています。

第２章

都城市の地域福祉実践ー地区社協編ー

姫城地区社会福祉協議会

トピックス１

「あなたの夢を叶えましょう」

例年、姫城地区土曜学習会の最終日に、参加児童生徒の将来の夢を応援するために「夢のランチ会」を実施しておりましたが、今年は新型コロナウイルス感染症防止のため、学習会自体が中止となりましたので、代替え事業を行いました。

コロナ禍の中でも、地域でのつながりやふれあいを通して、子ども達を応援するために、合格祈願も兼ねて姫城中学校の３年生 82 名に姫城地区社協の名入りのボールペンとクリアファイルをお渡ししました。

今年度は「夢のランチ会」は実施できませんでしたが、来年度以降も開催方法を工夫して継続的に取り組んでいきます。

岩佐副会長（右）より永野校長先生へ贈呈

姫城地区社協の名入り文具

トピックス２

「妻ケ丘地区社協との意見交換会」

●日　時　令和２年 11月 30日
●対象者　18名

妻ケ丘地区公民館にて意見交換会を行いました。それぞれの活動を紹介しあい、自分たちの地区のいいところを改めて感じたり、他地区を知ることができました。

なんでも相談の相談者が少ないなど共通の課題もあり、ＰＲ活動の強化が必要であると改めて認識することができました。

両地区が向かいあい活動を紹介

妻ケ丘地区社会福祉協議会

トピックス1

「子育てサロン“にじ”」

●日　時　令和２年 12月 16日
●対象者　11名

毎月第４水曜日に開催している子育てサロン“にじ”は、コロナウイルス感染拡大を防ぐため、中止を余儀なくされていました。「それでも何とか開催できないか」と、12 月は地区公民館の玄関口でクリスマス会を決行しました。初めて参加の親子を含めて 11 組の親子が参加し、晴天の寒空の中、屋外で絵本の読み聞かせやサンタクロースの歌を歌い、短い時間でしたが、楽しいひと時を過ごすことができました。サンタさんより子ども達にはプレゼント、お母さん達には、ペチュニアの花鉢を用意。それぞれの家庭で育てて楽しんでもらいたいと思います。

クリスマスの絵本の読み聞かせ

サンタさんからプレゼント

お母さんにはペチュニア花鉢

トピックス2

「在宅介護者訪問事業」

毎年 10 月に行ってきた、「在宅介護者のつどい」を感染予防対策として、集わずに介護者を労うため、日常的に必要なマスク、消毒液、ハンドソープ、ミニお茶セットを準備して個別に訪問しました。民生委員児童委員の調査をもとに、11 月に 44 世帯へ配布しました。

コロナ禍で、介護する人もされる人も、心身ともに気が抜けない日々が続いているため、少しでも力になれればと、メッセージと地区社協のお知らせなども同封しました。

訪問先の介護者からは「私たちのことを気にかけてくれてうれしい」との声もいただきました。

介護者を訪問する民生委員

感染予防を考慮して、マスク、消毒、ソープなどを差し上げた

小松原地区社会福祉協議会

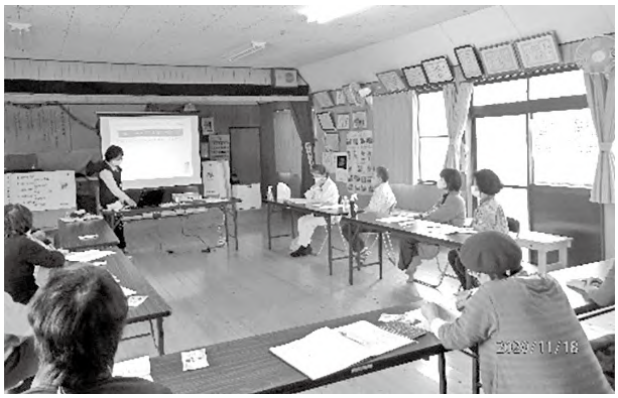
トピックス１

「在宅介護者のつどい」

●日　時（１）令和２年７月15日（水）平江自治公民館
　　（２）令和２年11月18日（水）志比田北自治公民館
●参加者（１）15名　（２）15名

ご自宅でご家族の介護をされている方が、他の参加者と共に日頃の思いを共有し、介護の疲れやストレスをリフレッシュできるよう開催されています。今年度は新型コロナウイルスの感染対策を行いながらの開催でした。１回目のつどいでは、社会福祉法人まりあさんに講師をお願いし、怒りをコントロールするためのアンガーマネジメントや座ってできる体操を教えていただきました。２回目のつどいでは、ヤクルト出張講座で腸のはたらきに関するお話をしていただき、ヤクルト使用済み容器を使った万華鏡づくりを行い、皆さんと一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

足の裏のマッサージも教えてもらいました。



腸の大事なはたらきについて学びました。

トピックス２

「いきいき 90 歳写真展」

地域で元気に暮らしている90歳のご自宅を訪問してお写真を撮り、地区まつりで展示するという取り組みです。この取り組みは、民生委員の方々と一緒に進めています。昨年は残念ながら地区まつりが中止となりましたが、写真を撮って額縁に入れてプレゼントしました。カメラマンは小松原地区社協事務局長。趣味で作った手芸作品やお庭、玄関をバックに…ご本人がこれまで生活してきた背景を、見る人が想像できるような素敵な写真となりました。ご家族と一緒に撮った写真も現像してお渡し、皆様からとても喜ばれました。

旅行先のお土産や思い出の前で、
娘さんと一緒にパシャリ！

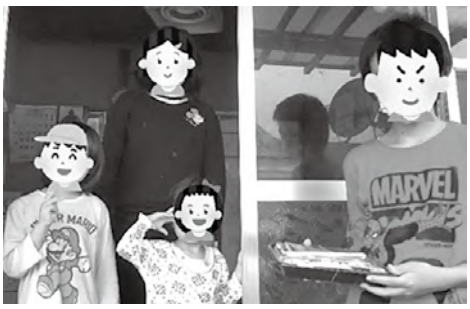
祝吉地区社会福祉協議会

トピックス1

「スマイルカフェ祝吉弁当配布」

祝吉地区では地域住民同士のつながりづくりを目的に会食や交流の場「スマイルカフェ祝吉」を平成30年度から月1回実施しています。今年度は「つながりを切らしてはいけない」という想いで、弁当や食材配布を実施しました。季節感があり、親子や家族のコミュニケーションができるようなものを考え取り入れています。毎回楽しみにして、大変喜んでくれています。短い時間でも顔を見て話しをすることを大切に活動しています。

クリスマスには手作りケーキセット



毎回楽しみに出迎えてくれます

トピックス2

「ボランティア視察研修」

●日　時　令和2年12月8日
●対象者　15名

祝吉地区では茶ってぃサロンや預かり保育など子育て事業にも力を入れており、16年目となった茶ってぃサロンの経緯や活動を振り返る中で、昔のような“わくわく”がまたできたらいいなという声があがりました。そこで、「こどもが中心。こどもが主体。自分らしい“わくわく”を」をテーマにしているおおむたこども園と縄瀬保育園で視察研修を行いました。

参加者からは、「こどもたちの主体性、自分で考えを持って行動できるのがいいな」「茶ってぃサロンのお母さんたちも連れて行ってあげたい。」などの声が聞かれ、来年に向けて勉強になる視察研修でした。毎年ボランティア学習会をする中で、多くのものを学び、地域がより活性化する活動をすすめていきます。

焚火を囲んでゆったり時間

いきいきと過ごしている様子に
元気をもらった

五十市地区社会福祉協議会

トピックス１

「ふれあい訪問事業」

●日　時　令和２年 10月から 11月（全 23自治公民館で実施）
●対象者　350名

毎年、高齢者を対象に「ふれあい交流のつどい」を実施していますが、今年度はコロナウイルスの影響により、集まることが難しくなったため、訪問事業に変更して実施しました。五十市地区内の 80 歳以上一人暮らし高齢者（約 350 世帯）に保存食やレトルト食品などを配布しました。事業の実施には、自治公民館長や民生委員の協力をいただきました。また、お見舞い品と一緒に地区社協事務局の案内や生活支援コーディネーターの名刺も同封することで、地区社協のＰＲにもつながりました。

公民館長・民生委員・生活支援コーディネーターが一緒に訪問

トピックス２

「先進地視察研修～三股町社協の取り組み～」

令和２年 12 月 16 日（水）に、地区社協役員で三股町社協の視察研修を行いました。同年４月に地域の居場所としてオープンされた「コメーキングスペース　コメ」（三股町上米地区）で行われました。「コメ」には、１ヶ月におよそ 800 人が来ており、一般の地域住民はもちろん、認知症の方にチケットを配布して認知症カフェとしての役割も果たしています。「コメ」の設立や運営についてだけでなく、三股町内で行われている子ども食堂や買い物支援、さらにそれらの事業の周知方法（チラシはデザイナーが作成、インターネットや SNS を活用）まで学ぶことができました。さまざまな工夫があるからこそ、町内外問わず多くの方が三股町社協のサービスを求めていることがわかりました。

社協の職員さんから説明

先駆的な取り組みを熱心に聞く役員さん

横市地区社会福祉協議会

トピックス1

「みそ汁の会」

●日　時（1）令和２年 11月 15日（日）中蓑原自治公民館（炊き出し訓練合同開催）
　　（2）令和２年 12月 21日（月）尻枝自治公民館（初開催！）

昨年度より、地区社協として全 18 館での活動を推進している「みそ汁の会」ですが、中蓑原自治公民館と尻枝自治公民館にて、３密防止、手指消毒を徹底して実施しました。中蓑原地区は、炊き出し訓練とコラボ企画で実施し、青空の下、「早く元通りの生活になるといいね…」「地域が元気なのが一番やがね…」最後にそんな声が聞こえました。新しい形で模索しながらのみそ汁の会×炊き出し訓練でした。

また、尻枝地区では初めて開催されました。ボランティアさんのとっても美味しいみそ汁を囲んで、参加者の笑顔が花咲くみそ汁の会となりました。「即席みそ汁を食べることが多いので、こんなに美味しいみそ汁は久しぶり！」「近くにいても中々会えないご近所さんに会えて嬉しい」「これで安心して年が越せる…」と満足の声が聞こえました。

中蓑原地区　青空の下、準備中！

尻枝地区 ホクホクよか匂い！

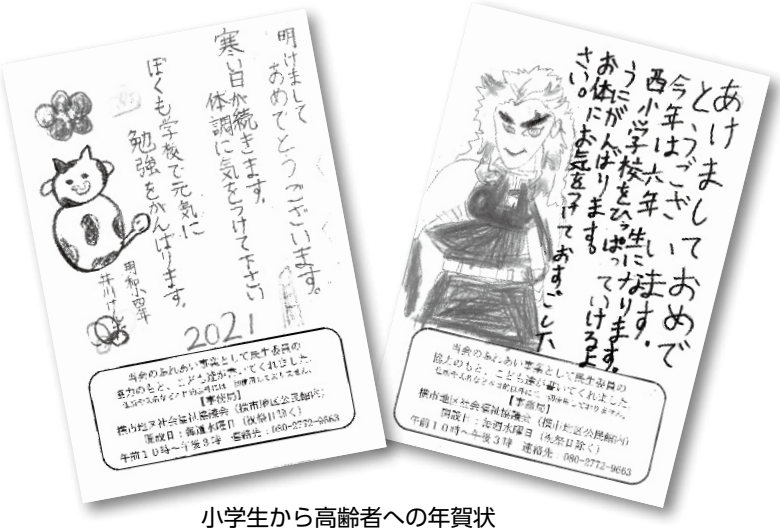
トピックス2

「小学生から年賀状をお届け！」

西小学校・明和小学校などの子ども達から一人暮らし高齢者の方々へ年賀状をお届け。

たくさん素敵な年賀状を書いてくれました。コロナ禍でなかなか集まることができない状況の中、少しでも繋がりを保って、笑顔を届けたいとの思いから実現しています。

受け取った方から何件もお礼の電話をいただき、「心が温まった」「涙が出るほど嬉しかった」などと嬉しいお言葉もいただきました。会えないけれど、繋がっている地域の強さや温かさを感じました。



小学生から高齢者への年賀状

沖水地区社会福祉協議会

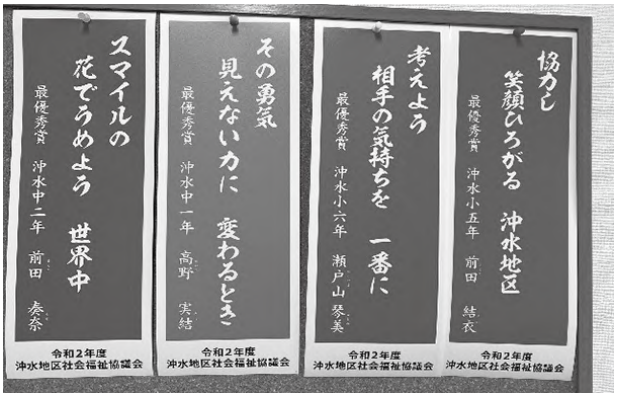
トピックス1

「福祉標語の表彰」

●日　時　令和２年 11月 19日（沖水中学校）
　　令和２年 11月 25日（沖水小学校）

今年度はコロナ禍の影響でおきみず祭りが中止になりましたが、沖水地区社協役員が小学校と中学校へ出向き、福祉標語の優秀作品の児童・生徒の方に賞状と参加賞をお渡ししました。どれも素敵な作品ばかりで、選ぶのもどれにしようか迷うくらい、子どもたちから福祉に対する熱い思いが伝わりました。優秀作品は地域の公共施設等へポスターを掲示し、この福祉標語を通して、沖水地区の子どもから大人までが福祉に対して考える場となっております。今後も地区社協と共に取り組んでいきます。

沖水小学校で表彰



優秀作品の標語

トピックス2

「子育てハッピーサロンおきみず」

沖水地区の民生委員を中心に未就学児のいる親と子どもさん、妊婦さんを対象に地域での交流や情報交換会を目的に子育てサロンを実施しています。コロナ禍の影響で中止となった月もありましたが、七夕飾りやリース作りなど、季節の行事に沿ったプログラムを行い、大人も子どもも楽しみました。毎月、必ず自由遊び（ブロック、積み木等）と紙芝居があります。参加者からは「子どもと一緒に楽しめる」や「ママ友と気軽に行きやすい」などと声が挙がっており、子育てのリフレッシュになっているようです。

大人も子どもも紙芝居に夢中

リース作りは沖水地区以外の親子も参加

志和池地区社会福祉協議会

トピックス１

「在宅介護者のつどい」

●日　時　令和２年 10月 14日
●会　場　志和池地区公民館
●参加者　28名（介護者８名、関係者 10名）

志和池地区では、在宅で介護をされている方が日頃の悩みを分かち合い、また、介護の仕方や制度について学ぶことを目的に毎年開催しています。今年度は８月に予定していましたが、都城市でコロナウィルスの感染者が確認されたため、志和池地区公民館が閉館となり 10月に延期し開催しました。

前半は、包括支援センターから介護認定の仕組みと介護の仕方について実践的な講習を受け、後半は在宅で介護されている方を囲み、意見交換会を実施しました。夜に何度も起こされる等、介護の悩みや苦労話が多く出され、みなさんで情報の共有を図る事が出来ました。

介護の仕方についての講習

意見交換

トピックス２

「小学生年賀状作戦」

●日　時　令和３年１月７日～ 15日
●作成者　志和池小、丸野小全生徒 393名
●配布先　志和池地区高齢者宅　　配達員：民生委員児童委員 13名

コロナ禍で出かける機会の少なくなっていた高齢者の方々に、民生委員が見守りを兼ねて、志和池小・丸野小の全校生徒 393 名が書いた年賀状を届け、大変喜ばれました。中には枕元に貼ってくださっている方もいます。次年度以降も続けていきたい活動です。

子ども達が書いた年賀状

民生委員が訪問し手渡す

庄内地区社会福祉協議会

トピックス１

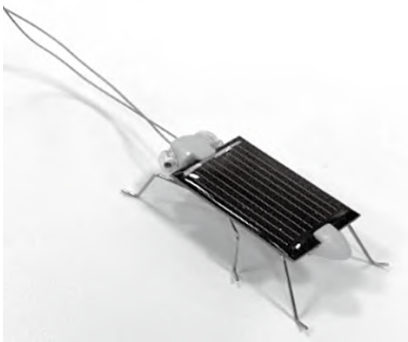
「冬休み！庄内わくわくスクール♪」

●日　時　令和２年 12月 26日
●対象者　庄内小学校３・４年生　17名

庄内地区社協の初めての試みとして、庄内小学校３・４年生を対象にした学習支援事業「庄内わくわくスクール」を 12 月 26 日に行いました。この事業は、学習支援だけでなく地域交流を通じて庄内の未来を担う子どもたちを地域で育む！ことを目的としています。当日は 17 名の児童が参加し、冬休みの宿題やソーラーバッタ工作、ひむかおひさまネットワークさまを講師とした「地球温暖化防止について」の講話など大変充実した時間となりました。晴天にも恵まれ、太陽光で動くソーラーバッタの相撲大会では、大人も子ども達も興味津々でたくさんの笑い声に溢れました。

冬休みの宿題に取り組む様子

ソーラーバッタの相撲大会


ソーラーバッタ

トピックス２

「生活課題解決に向けた事業」

元気高齢者「支え隊」では、毎月１回、昼食交流会「おじゃったもんせ」を開催しています。令和２年度はコロナウイルスの影響で例年通りの開催ができませんでしたが、友愛訪問「めあげもそ」の回数を増やして地域のつながりを絶やさない活動に取り組んでいます。コロナ禍でも皆さんが少しでも明るい生活が送れるよう、支え隊の皆さんが郷土料理や折り紙、生花などをお届けしています。玄関先での短い時間ですが、皆さんからの「いつもありがとう」の言葉が支え隊のエネルギーになっているそうです。

めあげもそ♪
【意味】ごめんください～

〈支え隊〉　お弁当づくり、折り紙製作の様子

西岳地区社会福祉協議会

トピックス1

「忌明け寄付弁当配布サービス」

●日　時　令和２年 10月 24日～ 11月７日　各週土曜日
●対象者　332名

本年度はなかなか事業ができず、何か地域のためにできないか…ということで 80 歳以上の方を対象とした弁当配布を行いました。忌明け寄付を地域のために有効に使ってほしいということで、費用は、西岳地区の忌明け寄付から。お弁当作りは地域づくり部会（はるおさんげぇ）の方々にお願いしました。真心のこもったお弁当は地域の方に大変喜ばれました。民生委員にも配布のお手伝いをいただき、「訪問する理由ができてよかった」「久しぶりに顔を見られて安心しました」という声が上がりました。

メニューには“がね”も

配達の準備

おいしい弁当を届けました♪

トピックス2

「新燃岳噴火 10 年に伴うランタン配布」

2011 年 1 月 26 日、新燃岳が噴火し西岳地区では大きな被害を受けました。1 月 26 日は毎年、防災の日ということで地域住民の防災の意識を高めてもらおうと研修を行ってきました。今年はコロナ禍で人が集まっての研修の実施は難しいと判断しました。

地域の方に防災について何か啓発できなか…ということでランタンの配布を行いました。台風などの停電の時に使っていただきたいです。ランタンには、避難を促すメッセージを添えて。

配布は、自治公民館の館長さん方に手伝っていただきました。自治公民館に加入していない世帯の分の配布もしていただきました。地域の把握や見守り活動にもつながりました。

新燃岳噴火から 10 年
自分の命は自分で守りましょう。
2021 年 1 月 26 日
西岳地区社会福祉協議会

配付したランタンとメッセージ

中郷地区社会福祉協議会

トピックス１

「お元気じゃひか？なかんごう♬」

コロナ禍で様々な地域の行事が中止される中、地区社協は、「高齢者に地域とのつながりを感じて、元気を出していただきたい」との想いから、中郷地区の小学生から高齢者へ手書きの絵手紙を届ける「お元気じゃひか？なかんごう♬」を企画し実施しました。

地区内２つの小学校（梅北小学校及び安久小学校）や地区公民館、生活支援コーディネーター及び自治公民館長等の協力で地区の高齢者へ敬老の日にあわせて約1,300枚もの絵手紙を届けることができました。

小学校には自治公民館長からのお礼の電話や絵手紙を受け取った地区の高齢者からもお礼の手紙やお電話がある等、たくさんの反響があり、新たなつながりが生まれた事業となりました。この取り組みは、企画から実施までが僅か３週間弱という短期間でしたが、それを実現できたのは、地区社協のフットワークの軽さと関係機関の連携の良さでした。

小学生手作りの絵手紙

トピックス２

「金御岳スクール～冬の陣～」

●日　時　令和２年 12月 25日(金) 26日(土)

小学校３年生を対象として、昨年度から開始した学習支援事業です。

特徴としては、地域ボランティアに加えて中学生ボランティアが毎回参加してくれることで、多世代交流の場としても役割も果たしています。学習後の体験活動は、毎回児童に好評で、本年度は、コロナ禍で２日間のみの実施でしたが、参加した児童からは、「とても楽しかったです」「みんなでいろんなことができたから良かったです」との嬉しい声が聞かれました。

学習の様子

体験活動の様子

山之口地区社会福祉協議会

トピックス1

「いきいきサロン全体研修」

●日　時　令和２年 12月 17日・18日
●対象者　28名

山之口地区社協では、各地域で、いきいきサロン活動を通して高齢者の生きがいづくり、健康づくり、見守り等を目的とした活動を推進しておりリーダーを中心に年間を通して愉しい活動が展開されています。また、全体研修も実施しています。今年度の全体研修は、コロナ禍で人数を制限し 2日間に分けてフラワーアレンジ教室を実施しました。参加者からは、花に癒された愉しい時間だったと喜びの声があり、地域のサロンでも実施したいと希望がありました。

生花に癒された愉しいひとときを過ごされました。

トピックス2

「中学３年生 VO 活動受入れ」

山之口中学校３年生の郊外奉仕活動を受入れました。「中学校を卒業するにあたり、地域への感謝の気持ちで奉仕活動を行う。」ことを目的として山之口地区内の７か所で３年生の 56 名が３月 10 日から 11 日の２日間にわたり奉仕活動を行いました。山之口地区社協では、２日間でそれぞれ 10 名の生徒を受入れシルバーヤングふれあいの里の中庭の清掃や花植えを行ってもらいました。地区社協の役員も参加して一緒に土いじりや清掃活動に汗を流した２日間でした。

山之口中学校の今年度のスローガンは、「地域に笑顔を届ける学校」でした。卒業を目前に控えた３年生 56 人が地域に出向いて奉仕活動に汗しながら、いきいきと笑顔で作業に取り組む姿がとても印象的でした。

地域に笑顔を届けにきてくれました。
また、３月 11 日 14 時 46 分には、
全員で黙とうを行いました。

高城地区社会福祉協議会

トピックス1

「三恭電設㈱地域連携支援金」感謝状贈呈

●日　時　令和２年６月 29日(月)
●会　場　都城市高城総合支所

５月中旬、高城地区社協は三恭電設㈱（岡山県倉敷市。代表取締役社長：瀬戸口香氏）より寄付金 100 万円をいただきました。瀬戸口氏が高城町石山地区出身で、地元の皆様の地域福祉活動に役立ててください との趣旨で、寄付をお寄せいただきました。

６月 29 日、瀬戸口香氏に、高城地区社協より感謝状を贈呈させていただきました。いただいた寄付金は、「三恭電設㈱地域連携支援金」とネーミングし、高城地区内で熱心な活動をされている９団体に助成させていただきました。

地区社協会長より感謝状の贈呈

令和２年５月オープンの放課後等デイサービス
LOKAHI さん・・・助成金で看板を作成された

トピックス2

「車いす・アイマスク体験 in 高城小学校」

高城地区ボランティア連絡協議会･福祉用具貸与事業所㈱ウエルライフの協力を得て、11 月 10 日（火）、13 日（金）高城小学校３年生 63 名の体験事業をサポートしました。

従来は２クラス同日に実施していましたが、コロナ感染症予防のため、車イスの消毒等に配慮し、２日間に分けて、実施しました。アイマスクは共有せず１人１枚を使用し、車イスも２人１組で、介助者・車イス利用者が交代するごとに消毒を行いました。

体験終了後、高城地区ボランティア連絡協議会新原明義会長より「街中で困っている人を見かけたら、声かけしてくださいね。」とまとめていただきました。

スロープを使って車いすを押してみる

廊下でアイマスク体験

山田地区社会福祉協議会

トピックス1

「子どもボランティアひまわり隊」

山田子どもボランティア「ひまわり隊」は 1年を通して様々なボランティア活動を行っています。今年度はコロナ禍で様々な活動が制限される中、間接的なボランティア活動を行い、地域とのつながりを絶やさないように工夫しながらボランティア活動に取り組みました。環境美化活動も兼ね、〝フラワーアレンジメント〟に挑戦して福祉施設にプレゼントをしたり、交流活動が出来ない代わりに、誕生日を祝う〝はがき〟や〝手紙〟お正月には年賀状を高齢者施設へ送り、つながりを絶やすことのないような活動を行いました。入居者の皆さんからは大変喜ばれ、お礼にと手作りの「栞（しおり）」が届きました。

交流が制限される中ですが、お互いの想いが通じ合い会えなくても交流を深めています。今後もつながりを大切にし「できる事」に取り組み交流を継続していきたいと思います。コロナが終息し、いつか会える日を楽しみにしているひまわり隊の子ども達です。

フラワーアレンジメントに挑戦！

お正月は年賀状を寄せ書きで作りました！

トピックス2

「学校支援ボランティア霧っこ隊」

学校支援ボランティア「霧っこ隊」は、山田の中霧島地区を中心に、児童が安心して登下校できるよう見守り活動や、校内の花壇の手入れ、草取りなどの環境美化活動など、学校を地域で支援する活動を行っています。また、支援の一環として学校行事にも参加。持久走大会では児童が走りやすいようにと早朝よりコースの清掃をし、応援にも加わりました。授業でミシンの使い方を教えたり、習字、校外活動の補助、昔の遊びで世代間交流も行っています。

子どもたちと関りを持つことで、学校と地域の信頼関係を深めることができています。これからも未来を担う子供たちの育成を地域ぐるみで応援していきます。

家庭科の時間ミシンの使い方を教えています。

持久走大会前に清掃をしました。

高崎地区社会福祉協議会

トピックス１

「たかざき今昔物語～昔を語る会～」

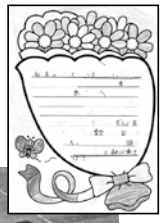
●日　時　令和２年 10月 28日(水)
●対象者　高崎小３年生 45名地域ボランティア９名　計 54名

例年はオープンスクールとして日曜参観もかねて行われますが、今年は、コロナウイルス感染症予防のために平日に実施しました。地域ボランティア９名の方が「語りべ班」と「昔の遊び体験班」の２班に分かれて子どもたちと様々な体験をしました。語りべ班の話しを聞いた子ども達からは、「空襲警報が授業中鳴った」「トイレが外にあった」など初めて聞いたことばかりで、「今自分たちは幸せだと感じる」との声が聞かれました。昔の遊び班は、お手玉、コマまわし、缶ぽっくり、竹馬等を体験し、昔は道具が手作りで、使いながら上手になっていったとのことで、子どもたちからは、「体がうまく動かせなかったがとても楽しい時間だった」との声が聞かれました。

昔の話を聞いています。

竹馬　なかなか難しい。

児童からのお礼状



コマ回し　うまくできました。

トピックス２

「高崎地区社会福祉協議会　研修会」

●日　時　令和２年 12月９日(水)
●対象者　地区社協役員他
●講　演　「認知症を理解しよう」
●講　師　都城フォレスト・クリニック脳神経外科　原田健一院長

毎年実施していた視察研修を感染症予防のため自粛し、その代替として認知症研修会を開催しました。高齢化が進む中で、全国的に大きな課題となっている認知症について住民が正しく理解し、誰もが住み慣れたところで暮し続けることができることを目的に開催しました。

原田院長による講話

質疑応答

２．各地区の第４次地域福祉活動計画の完成に向けて

【概要】

今回策定された第４次都城市地域福祉活動計画の目玉は、15 地区の地域福祉活動計画が、リニューアルされたことです。

コロナ禍で地区社協の事業活動が自粛になる中、感染予防対策を取りながら、15 地区毎月１地区５回以上、トータルで 80 回近くの熱心な話し合いを重ねました。

地域の皆さんが安心して暮らせるまちを目指して、「自分たちの地区の地域福祉活動もこれからどのように進めていくか」を真剣に時には楽しく話し合いました。

そして、ここに 15 地区ですすめるこれからの地域福祉活動のスローガン（※次ページ参照）が完成しました。

【計画づくりを通して地区担当職員が感じた５つの意義】

（１）地域住民と一緒に、地域の強みや弱みを共有することの重要性

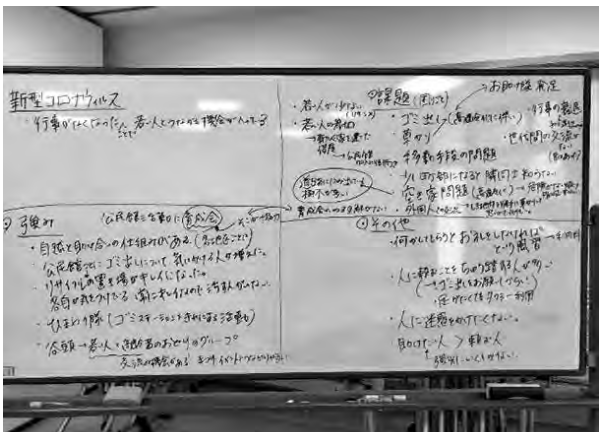
（２）施策を考えるためには、それなりの時間と労力を必要とすることへの再認識

（３）住民主体のまちづくりの重要性

（４）地域住民の熱い想いに応えられる専門職としてのスキルと姿勢のあり方

（５）地域住民と語り合い、新たな取り組みへつながっていくことの楽しさ

地域の課題や強みを出し合う



課題を整理し、活動計画に落とし込む

15地区地域福祉活動計画　地区別スローガン

姫　城／地域の宝に磨きをかけて！みんなでつくるひめぎの輪

妻ケ丘／やってみよう！育てよう！集いつながるつまがおか

小松原／笑顔であいさつ！夢づくり　サンシャイン小松原

祝　吉／みんなちがってみんないい　夢・希望あふれるあやめのまち祝吉

五十市／あんしんで　ゆめひろがる　みんなのふくし

横　市／横一線ですすめる　顔の見える地域づくり

沖　水／相手の気持ちを一番に　協力し　笑顔ひろがる沖水地区

志和池／笑顔あふれる（広がる）志和池の「輪」「和」「話」

庄　内／心もまちもあたたかい　ずーと住みたいまち庄内

西　岳／わいわい　たのしく　げんきよく　西岳

中　郷／サさえ合う心でシあわせの絆を育む なかんごうひろバ

山之口／すべての住民がいつまでも住み慣れた地域で豊かに生きがいを持って生活するために

高　城／ふるさとを愛し　誇りを持ち　新しい時代を拓く高城人を育む

山　田／安らぎとふれあいのなかで　ともに支えあい　だれもが役割を担える福祉のまちづくり

高　崎／星も町もキラキラ“ありがとう”があふれる安心・安全のまちづくり

第３章

都城市の地域福祉実践－その他各事業実践編―

令和２年度地区社協なんでも相談員研修会

総合司会：黒木雄一主査

1　日　時　①令和２年10月22日（木）　13：30～15：00
②令和２年10月29日（木）　13：30～15：00

2　会　場　①志和池地区公民館　多目的室
②市総合社会福祉センター２階研修室

櫻田賢治
地域福祉課長

3　あいさつ　地域福祉課　櫻田課長（地区社協誕生の背景概要含む）

そもそも、なぜ地区社協で「なんでも相談」を受けるのだろうか？と思われる方がいるかもしれません。地区社協には、様々な事業や、事務局開設、事務処理などなど多忙な中、相談対応までは…。しかし、今の地区社協となったのには、こういう歴史的背景があります。

昭和58年ごろより、都城市社会福祉協議会では、地域福祉の推進を進めるために「地区福祉推進委員会」が発足。当時、事務局は各地区の会長さんの自宅。相談を受けるときも、会長宅で行っており、携帯電話もない時代で問い合わせ先も会長自宅で、相談対応を行う環境にするには、様々な課題がありました。

一方、平成５年に、地域住民の相談対応や、見守り体制の強化を行うために「ふれあいのまちづくり事業」という国の事業を受託しました。その中で、市社協内（松元町）に総合相談室を開設。しかし、遠方からの来所が困難との課題がありました。そこで、各地区で相談を受けていきましょう！との方向性を示しました。（⇒今の地区社協の相談機能の先駆け。）

そこで､平成10年に「地区福祉推進委員会」（地域づくり）＋「総合相談室」（相談機能）が合体！祝吉地区と西岳地区をモデル指定し、「地区社会福祉協議会」の事務局が地区公民館に誕生。平成18年には全地区に地区社協事務局が開設し、今に至ります。地区社協の原点は、地域住民の相談を受けながら、事業推進に取り組むことなのです。

4　グループワーク

テーマ１　　もしも、自分がなんでも相談をするとしたら？

テーマ２　　では、身近な相談窓口とは？

【10/22（木）　志和池会場】

地区社協への相談概要やコロナ禍を踏まえた
各地区の取組紹介

黒木主査と、井上主事による他己紹介の様子。
ユーモアな、お二人にみんな笑顔！

地域の方も他己紹介。ペアになった方の名前、趣味、コロナが落ち着いたら行きたい場所を丁寧に聞き取り、
皆さんに紹介しています。新しい一面も知れて、大盛り上がり！

早速、グループワークへ。自分たちが相談したい相談員とは？そして、身近な相談員となるためには、
どうすればよいのか…。熱い話が繰り広げられます。

【10/29（木）　総合福祉センター２階研修室会場】

姫城地区社協×姫城まち協のコラボによる
「コロナに負けるな！」のぼり旗を作成！
姫城地区内の 10 号線沿いや自治公民館に立てられています。

他己紹介に向けての聞き取り中。
名前や趣味など限られた質問ですが、そこから話が広がり、
相手の生活状況や苦労している話など把握されていました。

地区担当も初めて聞く情報も！驚きの趣味や、最近の悩みなどたくさんの情報が飛び交っていました。
何気ない雑談から、自然な流れで悩みごとなどの核心に迫る！さすが、福祉なんでも相談員さんです！

これからの地区社協を考えながら、目指すべき相談員の姿への意見が飛び交います。
皆さん、本当に自分たちの地域を良くしたいという思いでいっぱいです。

都城市社会福祉施設等連絡会

初めての Zoom 研修会開会！

都城市社会福祉施設等連絡会
デイサービス関係施設部会第１回研修会

日　時：令和２年 11 月 10 日（火）17：30 ～ 19：00
場　所：市総合社会福祉センター　２階研修室
内　容：新型コロナウイルス感染症についての意見交換会
　　コロナ禍における各施設の現状、困りごとなど

Web 会議ツール、Zoom を使用した初めての意見交換会で、Zoom での参加６施設、会場での参加６施設で行われた。

Zoom 参加の施設には研修会の開始時間５分前に入室していただくようお伝えしていたが、うまく入れない施設があり、予定していた開始時間よりも遅くなってしまった。姿がない施設にはこちらから連絡を入れたが、セットアップに手間取られたそうで、後半から参加されていた。

会場、Zoom それぞれ２グループに分けた。（Zoom では、ブレイクアウトセッション機能を使用）Zoom の③、④グループには、本職員がそれぞれ入り、Zoom 操作の補佐を行った。前半では「新型コロナウイルス関連で困ったこと」、休憩を挟み後半では「困ったことに対しどう対処し、乗り越えたか。今後に向けてどう備えているか」をテーマに活発な意見交換が行われた。最後はそれぞれのグループで出た意見を発表していただいた。

反省として、Zoom 参加の施設については、研修会開始前に別枠でミーティングを組めばもっとスムーズに開始できたのではないかと思う。

Zoom の 40 分間の時間制限があり最後に途切れたりしないか心配であったが時間通りに終了することができた。

↑参加者もモニターに集中

↑ Zoom に写る坂元部会長

社協内検討チーム

福祉教育プログラム検討委員会

日　時：１回目　令和２年 ９ 月 25 日（金）15:00 ～ 16:30
２回目　令和２年 10 月 30 日（金）10:00 ～ 11:30
３回目　令和２年 11 月 30 日（月）15:00 ～ 16:30
４回目　令和２年 12 月 21 日（月）15:00 ～ 16:30
５回目　令和３年 １ 月 19 日（火）15:00 ～ 16:30
６回目　令和３年 ２ 月 19 日（金）15:00 ～ 16:30
７回目　令和３年 ３ 月 19 日（金）15:00 ～ 16:30

参加者：社協内検討チーム 10 名
（地域福祉課・生活支援課・総務課・子育ち応援課）

内　容：令和２年２月に完成した「福祉教育ガイドブック」の追加プログラムとして、新たに、サービスラーニングの視点を取り入れた様々なプログラムを検討し、教育現場での実践導入を図る。

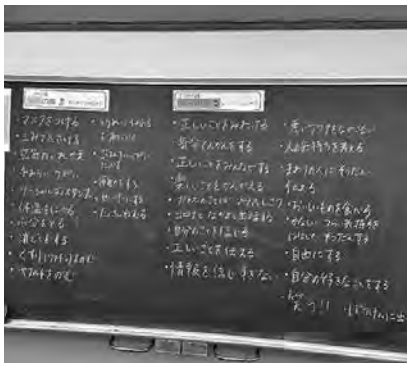
要　点：今年度は、各学校や地域関係者へ配布した福祉教育ガイドブックについて、学校現場で実践し検証を行う予定でしたが、コロナ禍で学校が休校となり、総合的な学習の時間の中で福祉教育を行うことが困難な状況となりました。また、社協側も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「体験型」の福祉教育を制限することとなりました。そこで、社協内検討チームで、体験型に代わる新たなプログラムとして、コロナ禍を通して思いやりについて考えるプログラムや地域福祉の理解・防災等、サービスラーニングの視点を大切にしながら検討を重ね、追加プログラムとしてまとめました。その中で、今年度ご相談があった学校に対しては新たなプログラムを積極的に提案し実践検証を行いました。今回検討したプログラムについても、学校や地域関係者へ配布し、福祉教育ガイドブックと併せて実践導入を図っていく予定です。

２つのテーマに分かれて検討する

各専門部署からの意見を出し協議する

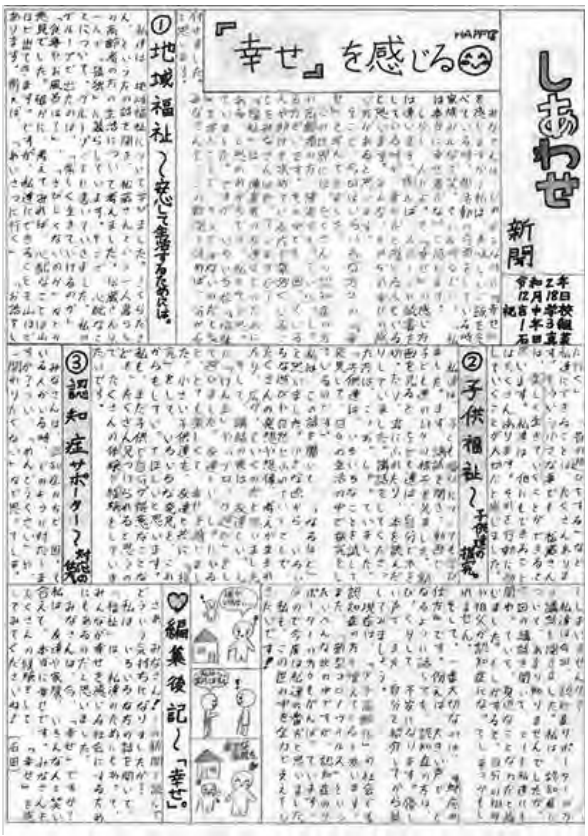
実践１：「思いやり学習～新型コロナウイルスを通して考える～」　対象：小学校３年生

まず始めに、自粛期間中に不安だったこと・うれしかったことを出し合い、「コロナウイルスの人から人にうつる３つの顔」について伝言ゲームを交えながら説明。そして「３つの顔」をなくしていくためにはどうしたらよいかをみんなで考え、一人ひとりが「思いやり宣言」を行いました。授業後、子どもたちは、自分たちにできることの一つとして医療従事者へのメッセージを作成し、医師会へ届けました。



実践２：「地域福祉の理解～ 92 歳一人暮らし高齢者の事例から考える」　対象：中学校１年生

冒頭、92 歳一人暮らし高齢者 松蔵さん（仮称）の事例を提示し、地域福祉の考え方について説明。後半は①松蔵さんにとって今後心配なこと②自分たちにできること③松蔵さんにできること、をみんなで話し合いました。その中で、子どもたちは松蔵さんを支援するだけではなく、地域の一員として巻き込みながら一緒に生きていくことが大切であることに気づき、地域福祉の考え方について理解を深めました。その後、この一年を通しての福祉の学びを、一人ひとりが“福祉新聞”としてまとめました。



令和２年 第２層
生活支援コーディネーター研修会

日　時：令和２年 11 月 26 日（木）14:00 ～ 15:30
場　所：五十市地区公民館
参加者：64 名（第２層生活支援コーディネーター、社協職員、包括職員　他）
内　容：講師：小林市社会福祉協議会
　　第１層生活支援コーディネーター　橋谷　大（はしたに　ひろい）氏

小林市では、暮らしの困り事助け隊や買い物サロンを料金無料で実施されていましたが、利用者がお礼の品を準備したりなど「ただは高けとよ」という声をきっかけに、ちょっとした困り事に対する有償ボランティアが発足されました。進め方として、まずはピンポイントで地域のキーマンに説明し、そこからキーマンが地域住民に呼びかけをしてもらい、料金設定や連絡体制など地域住民中心に話し合われ発足されています。「できる人が、できる事を、できる時に！」をモットーに今では７地区の団体が活動されています。研修では橋谷氏が立ち上がった経緯や進め方、ボランティアや利用者の声などを説明してくださりました。

今回の研修をきっかけに地域に合わせた地域福祉を進めていけたらと思います。

【アンケート結果】

◆研修の感想や印象に残っている内容

・今から先の 20 年後等を見据えて活動を始められたとの事に感動しました。大変ありがとうございました。
・少額でも良いので有償で活動するのがみそだと思いました。
・この地区に住んでよかったと思える地域に自分の元気なうちに立ち上げられたらよいと思う。（ちょっとした困りごと、助け隊。）
・自分のできる事をすれば良いと私にもできるかもと思った。
・地域の方が自分たちで考えて活動していける環境づくりが大切だと思います。本当に困っている事を支援してくださりすごい事だと思います。都城もたくさんのボランティアが増えると良いなと思います。
・地域のつながりを続けるには必要な事業と思いました。
・有償ボランティアで地域の人が暮らせる、気を使わずに頼める。とてもいい取り組みで自分たちの所でもできればいいなあと強く感じました。
・ねばり強い話し合いから生まれた様でその取り組みに意思の強さを感じました。
・高齢化社会で明日は我が身。小林市の「有償たすけあいサービス」理想的な事業ですが、自分たちで立ち上げるとなるとなかなか難しいかなと思います。
・地域住民が地域の方々のために困りごとを解決するために活動されている姿を見てとても胸が熱くなりました。人の優しさで成り立つとても素晴らしい活動をされていて発足から様々な困難があったと思いますが、見本になる生活支援体制事業を構築されていると思います。

・それぞれが“できる事をできる時にやる”というのが、ボランティアを受ける人もする人も無理なく続けることができているんだなと思いました。高齢者でもできること、手伝えることはたくさんあると思うので、それを困りごとに繋げていけるようになると良いなと思いました。
・気軽に立ち上げられそうな印象
・小さな庭の木々の剪定や草取り等、今までできなかった事をやれるのは待ち望んだ事業です。利用する人はたくさんいるはずです。楽しんで働きたいです。
・公民館長さんとの話し合いがされているのかが気になりました。

◆現在の活動に関してご意見、お気づきの点
・なかなか生活支援活動が住民に浸透しない
・チラシは捨てられる
・誰が中心になるのか不明
・人材の掘り起こしが必要であることが大事である。

関心の高さが表れる総勢 64 名の参加者

新型コロナウイルス感染症予防のため、
マスク着用、ソーシャルディスタンスを徹底

早速、地元での活動をイメージした質疑

講師の橋谷氏

都城市ファミリー・サポート・センター
設立10周年

1. 目　　的　地域において、育児などの援助を受けたい方（利用会員）と援助を行いたい方（援助会員）からなる会員組織で、会則に基づく相互援助活動を実施する。併せて、子育てすることに「喜び」と「夢」をもてるような“福祉コミュニティ”を形成することを目的とする。
2. 開　　設　平成23年4月1日
3. 運営主体　都城市（福祉部　保育課）
4. 運営委託先　社会福祉法人都城市社会福祉協議会（地域福祉課）
5. 住　　所　都城市松元町4街区14号　都城市総合福祉会館2階
6. 開設時間　9：00～17：00／月～金（土日祝日年末年始は休み）

【実　績（平成23年4月1日～令和3年2月28日）】

（登録数）	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R元年	R2年
援助会員	113	149	153	173	182	181	197	201	214	210
利用会員	112	206	286	372	436	571	620	736	802	813
両方会員	33	47	52	63	70	76	74	80	84	74
合　計	258	402	893	608	688	828	891	1017	1100	1097

（活動件数）

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R元年	R2年
送　迎	168	296	435	699	1485	1855	3334	4533	3499	4009
援助会員宅（託　児）	264	271	139	169	44	143	398	440	355	247
利用会員宅（託　児）	7	166	139	309	51	398	532	471	108	390
センター内（託　児）	83	132	82	291	209	642	181	354	371	251
そ の 他	37	57	71	49	49	33	219	47	23	7
合　計	559	922	866	1517	1838	3071	4664	5845	4356	4904

【10年のあゆみ】

平成22年10月

〇都城市ファミリー・サポート・センター開設準備開始

平成23年4月1日

〇都城市ファミリー・サポート・センター開設セレモニー

平成24年7月

〇フォローアップ研修会

「こどもの怪我の応急手当の習得

～身近な物を使ってできる応急手当について～」

会場：都城市総合社会福祉センター

講師：日本赤十字社宮崎県支部　椎屋藤雄　氏

平成 27 年 10 月

○フォロー研修会及び情報交換会

「子育て応援のつどいトークショー〝助けられ上手・助け上手な子育てのすすめ〟」開催

会場：都城市交流プラザ

コーディネーター	シャンティプレマ	代	表	外山	與子	氏
パネラー	乙房認定こども園	園	長	刀坂	弘毅	氏
	ほのか助産院	助産師		安藤	直美	氏
	ポン太クラブ	会	長	外山	明美	氏

平成 28 年 4 月

○都城市より利用料金補助（第 1 子のみ 1 時間あたり 300 円）がスタート

平成 29 年 3 月

○ボランティアフェスティバル

子育て応援ひろばにて「ものものトレード」を開催

平成 29 年 7 月～毎年夏に実施

○「子育て応援ミニフェスタ」の開催

会場：都城市総合社会福祉センター

（都城市地区社会福祉協議会連絡協議会との協働事業）

平成 30 年

○援助会員養成講座 24 時間カリキュラム導入

（病児・病後児緊急対応強化事業に向けての事前準備として）

平成 30 年 10 月

○フォローアップ研修会「子育て孫育て応援講座」

会場：都城市総合福祉会館

講話：「生きる力の根っこを育む～教育～遊育～」

講師：一般財団法人プレイパーク協会理事　天野　秀昭　氏

平成 30 年 3 月

○登録会員 1,000 人突破

平成 31 年 4 月

○病児・病後児援助活動事業スタート（現在はコロナ禍の影響を受け活動休止中）

令和 2 年 3 月

○都城市ファミリー・サポート・センター開設 10 周年記念誌発行準備

【開設 10 年の振り返り～そしてこれからの 10 年にむけた展望～】

本センターは、平成 23 年 4 月の開設以来、事業の周知、活動基盤の構築等に力を入れてきた。その結果、登録会員や活動件数の増加へと繋がった。併せて、援助会員の資質向上を目的としたフォローアップ研修会や、会員間の交流を図るために子育て応援ミニフェスタを開催したことで多くの人（会員）がつながり、事業を安全・安心なものへと定着できたことは大きな成果である。

子どもの預かりや送迎などが主な活動であるが、そこには多くの担い手を必要とし、根底は地域での人と人のつながりによって支えられている。また、利用登録された世帯の家庭事情や、子どもの発育等の悩みなどを聞く機会も多い。今後、子育て支援の充実を図るとともに、そういった様々な情報や支援を必要とする方々を専門機関へと繋ぐ役割も果たしていきたいと考える。

都城市社会福祉協議会　職員研修会

帰庁報告会　人事交流を通して

日時：令和２年９月16日（水）
10時～12時
場所：都城市総合福祉会館
２階会議場

登壇者	宮崎県社会福祉協議会地域・ボランティア課	及川達也
	都城市社会福祉協議会　地域福祉課　地域福祉係	黒木雄一
	厚生労働省　社会・援護局　地域福祉課	谷口祐樹
進行	地域福祉課　地域福祉係　係長	内田文子

内田　地域福祉課　地域福祉係の内田です。研修委員長と言う立場で今回コーディネートさせていただきます。まず３名の方に帰庁のご報告をいただきましてありがとうございました。大変学びの多い報告だったと聞かせていただきました。20分という短い時間で語り尽くせない部分もたくさんあったかと思いますので、また質問をいただいた中で説明が足りなかったという部分を補足･説明等していただければと思っております。そしてまたフロアの皆さんにも、忌憚のない質問をしていただければと思います。皆さん身内、仲間ですのでたくさん質問をいただければと思います。よろしくお願いします。まずわたしの方から１点皆さんに共通してお聞きしたい事があります。皆さんそれぞれ谷口さんは１年半、黒木さん及川さんは半年というところで今自分の元いる場所と違うところで仕事をしておりますが、ご報告をいただいた中で良いお話はたくさん聞いたと思うんですけど、ちょっと悩んだなぁというような点もぜひ聞かせていただければと思います。ちょっと弱みを見せていただければと思います。

我が事丸ごとではないんですが、自分のこととして一緒に考えられる仲間かな、その悩みをどのように解決したか、もしくはしようとしているかというところまで良ければお話しいただければと思います。本年度コロナ禍で色々な支障も皆さん出てきていると思います。生活面でも､仕事面でも､そういった面も含めて、何でも良いので悩みを聞かせてください。それでは発表の順番からで及川さんの方でよろしいですか？

及川　悩みというところでお題が出たと思いますが、人事交流が始まる直前に都城社協の前の常務の西河さんに一言最後に耳打ちされた事がありまして、「常に謙虚でいなさい」と。その謙虚というのが取り憑かれたようにずっと頭に残っていて。それで４月１日から人事交流に臨ませていただいたんですが、僕はもともとどちらかというと気使い屋さんな方なので、実際４月１日から仕事を始めて業務にあたって結構気を使っているのですね。気苦労というのが自分ばかり勝手に１人で悩んでいたというか。気疲れしやすいというのが自分の中であったと思います。もちろん、謙虚にいるのが必要、大切なところで常に緊張感を持って仕事に臨むというのも間違いないところなので、気疲れしてもしょうがないというところもあります。

これはもう、解決させていくというよりは、それが原因で倒れないように息抜きをしながらきちんと緊張感を持ちながらこれからも続けていきたいとは考えているところです。というところでプライベートも

充実させながら人事交流の方は取り組んでいる最中です。

そのほかの悩んでいることに関しては今も継続中なんですが、県社協、地域包括、担当課ごとの責任をもって予算を管理し、いるんですけれども、僕が基本的にそういった数字が弱いところもあるので、予算の管理、都城ではそこまで触れていなかったものですからすごく今そこで苦労しているというのが実情でございます。これに関しては、まわりの職員の方に教えていただきながら進めていってもらっているというところで今思いついたところの回答です。

内田　ありがとうございます。それでは黒木さんも悩みがありますか。お願いします。

黒木　直属の上司からの質問ということでなかなか言いづらい所もあるんですど・・・。っていうのはあれですけど､何やかんや振り返ったときに悩みっていうのは少しちょっと触れたんですけど､個別支援っていうところでどこまで地域で支えるべきなのか、どこまで地域の方の力を借りるべきなのかというのが線引きというかそういったところを少し悩んだ所がありました。ただそこは、専門職と地域の方とのすみ分けも難しいところもあるのでとりあえず地域の方に声をかけて巻き込んでいく。そういったところからまた出発すればいいのかということで少し悩んだところもあります。悩み事というとそれくらいしかなくて、いま地区担当制の話しをしましたけど、地区担当以外の地区にも行かせていただいていろんな経験をさせていただいているので大変助かっています。他部署の体験研修についても、いろんな経験をさせていただけるという話も聞いておりますので、逆に言うと少し特別扱いさせていただいているので恐縮な面もあるんですが。せっかく人事交流で来たからにはいろんなところを経験させていただいて研修して帰りたいなというところではあります。４月から変わった点でいうと電車通勤になったということです。朝は早いんですけど朝起きさえすれば、電車の中でゆっくりできるんで別にそんなに負担にはなっていないです。ただ、課長も係長も電車が電車がとよく声掛けいただけるんですけどこそこまで心配されなくても 10 時半まで電車があるので、いくらでも残業が出来ますので大丈夫ですとお伝えしておきたいです。都城市の第４次地域福祉活動計画が策定に取り組んでいてですね、そこにも私も携わっているんですけど、こういった改定の時に住民の方々の反応を見ていくのも楽しいなと思いながらですね。

それぞれの地区ごとに地区社協の計画を作りましょうとなっているので地区でお互いを見ながらいろんな勉強をしているところでございます。市といっても 15 地区、中学校区が 15 地区でいろんな意向があるんだなとすごく印象に残って勉強になっているところです。悩んだ点というのはそれくらいどこまで地域で支えるべきなのかという線引きをちょっと悩んだ所もありました。以上です。

内田　ありがとうございました。言いづらいことがあったかも、ごめんなさいね。ありがとうございます。そして、谷口さんお願いします。

谷口　谷口です。日々悩んでおりますが、まずは帰庁を受入れて下ってありがとうございます。悩んだところと致しましては、及川さんの話でも少しありましたが、文化の違いというところ。市社協から出向に来ている職員というのはいない、基本的に行政の市役所等から来ている方が主ですので、市町村社協の感覚っていうのは違うかなというのを感じていたところです。朝礼も無いですし・・・。ぬるっと始まってぬるっと終わるというようなところが実際のところで、やっぱり市社協にいた時には朝礼があって始まるぞという感覚で臨めていたので国の方だとそれがなくて。係員と係長と出勤時間が 30 分ほど電車の都合等で違いますけど､そこのところも感覚的に違っていたところにはなります。業務面で悩んだところは、来たばっかりの時には専門用語、厚労省用語があってそれがまず分からないので調べるところから始まりました。当然今も主戦力のような形にはならないので、そんな中で自分がどんな形で国の業務に携わっていけるかっていうのを悩みながら日々過ごしているところにはなります。基本的に任される業務というのは、集計作業であったりとか、全国の調査報告であったりとか雑務にはなるんですが、逆に任されているのでそこの部分に関しては正直かなり責任が生じているのかなとというところがございます。ただ、先ほども話しましたけれども、係長や補佐まででだいたいの物事が決まるのでそこのことも係長に自分の意見を話しをしながら意志のすり合わせをしながら進めていけるのはありがたいところだなと思っております。生活面では、東京に今住んでいるところですので、さらには家族で行かせていただいてまして 3 歳の息子も一緒に居りますのでなかなか遊びに行けない。休みの日に遊びに行けないというのは、非常にストレスの発散が難しかったりするところがございます。

また、日々の通勤も以前より満員電車という満員電車ではないんですけれども、恐らくテレワークが増えてだと思いますが。100 人を超える感染者がいる中でウィズコロナと呼ばれる中で生活も精神的にくる時もあります。そういったところが悩みでしょうか。

内田　ありがとうございました。それではですね、皆様の方からそれぞれに質問等ありましたらお願いします。

田村課長お願いします。

田村　生活支援課　田村です。及川さんにお尋ねしたいのですが、先週、研修の際に質問するからねと伝えていたので心構えをしていたと思いますが・・・。色々先ほどの広域の取組みであったりとかこれから社協として取組んでいかないといけないことがたくさんありますということをおっしゃられてたところだったんですが。例えば生活困窮事業の中で任意事業として各自立相談支援機関が手を組むように言われている就労支援事業であったり学習支援事業等を見ても県内でなかなか財源の問題等もある中で実施率が低いという状況にあります。それに伴って学習支援等に関しては相談支援事業所がするよりもむしろ市町村社協が積極的に地域の方々と連携して取組むスタンスのほうがいいのかなと私個人として考えているのですが・・・。

その後押しを県社協そのものが任意事業に手を挙げて県下の市町村社協に働きかけるような取組みを考えられないかなと思っています。

制度的に提案があった事業の推進ということで提案型事業が県社協の中で具体的にどういうことを今現在、事業化する中で関わってくるのかを教えて下さい。

及川　ご質問ありがとうございます。先日、田村課長の方に来ていただいて色々とご注文いただいたりとか、お話をさせていただいたところではあります。先ほどの提案事業に関してなんですがこれは職員提案制度ですね。本年度、情報化、効率化、財源確保、経費削減、「コロナ時代」の新しい働き方等のテーマに職員から意見を出していただいている中で今回提案されている物に関しては研修制度に関してだったりとか、コロナ禍でのＩＣＴの専門職員についてであったりだとか。それこそ、地域福祉の発展の為の何か取組みをというところをしていくということを提案として上がっているところです。

今、田村課長から質問のあった学習支援も県社協が手を挙げて事業をとっていくというところを含めてどの様に地域福祉の発展の取組みを行っていくかに関してはここでは即答が難しいところもありますし、また今いただている件とは確認が必要な部分が出てくると思いますのでこちらは一度検討材料として、すみませんが回答になりませんけど持ち帰らせてもらえればと思います。

吉田　県社協の吉田です。職員提案制度の方を担当している次長になりますが職員提案制度は昨年度から社協が取組んで社協職員の正規職員も嘱託職員も臨時職員も平等に社協の効率化､社協を良くするため、

それから地域を良くするために提案を柔軟に出してそれを経営幹部の方でヒアリングといいますかプレゼンしてもらってそれを評価して来年度でも、緊急性があるとなればその年度に事業として取り組んでいこうという趣旨で始めたものです。話がありました提案が職員の中からぜひ市町村社協の支援のためにぜひやって欲しいという形であれば、それのお話を聞いて。ただ、事業ですから財源等が出てくるんですね。県のお金が使えるのか、それとも自主財源なのか。総合的な話しを聞いて内容が良ければ、県独自で取り組むこともありますし、市町村社協の連携を深めながらやっていくような形でやっていきますので、いいアイデアがあれば県社協の職員、各課がありますので相談していただければと思います。今日、及川さんからも話がありました内容については、最初は県社協でも取り組んではという話もありましたが財源の確保の話で。ただ、地域に根差した市町村社協で取り組むのもいいんじゃないかなという話もあって。事業の中身によっては、市町村社協の財源確保にもつながるそういうような事業であれば一緒にやりましょうよと声かけをすることもあります。柔軟な発想でこの事業をやっていくということになっています。矛盾があったかもしれませんけどそういうような事業です。

内田　他に皆様からのご質問等はございませんか。田村課長お願いします。

田村　再び田村です。谷口くんにお伺いしたいのですが、生活福祉資金貸付の作業が市社協でも大変なんですけどもよく分からなかったのが、１つありましてコールセンターの位置づけが結果的にどうだったのかと。あともう一つあります。おそらく延長になれば導入されると思うんですけど全国で、定点で行ったウェブ申請ですね。それの取り扱いが今の段階でどういう方向になるのかというのがお分かりでしたら教えてください。

谷口　ご質問ありがとうございます。

まず１点目につきましては、コールセンターの位置付けということなんですけども基本的には事業の基本的な内容説明等に止まっておりますのでどういう方が対象になるというものではないという風にわたしは理解しておりますので、そう言った交通整理、市町村社協に直接連絡があってそこで事業説明をする手間の方はコールセンターの方で受け止められているのではないかなと思っているところではあります。ここ毎日、コールセンターの実績の方はだいぶ落ち着いてきてはおりますが、100件前後はやはり日々受け止めておりますので一定程度の効果はあるんじゃないかなと思っているところにはなります。１点目はこちらでよろしいでしょうか。２点目になりますがウェブでの申請について宮崎県の方でも全国で数カ所ウェブ申請というものを試験的に行いまして、今のところ試験的に行ったというところで今後拡大して広げていくという方向性では今のところ担当レベルでは伺っておりませんのでおそらく前回のもので終了かなという風におもいます。が、今後どうなるのかはちょっと分からない。ご参考までにお願いします。

内田　はい、よろしいですか。他に何かございますか。わたしの方から１つ質問してよろしいですか。

谷口さんに質問なんですけど、発表の中で国からも見える社協に都城もなったらいいのかなぁっと言うお話をされたかと思うんですけど、今の時点で国から都城市社協はまだ見えてないんですかって言うのと、どういった思いでその国から見える社協っていうのはどういうものなのかを教えてもらえますか。

谷口　ご質問ありがとうございます。都城市社協がどうと言うことではなく全体的なことでお話しさせていただいたところではありますけれども、好事例という意味合いでやはり上がってくるところについては行政のほうも一体的に市社協と話が進んでいってきちんと事業がシステム化されているところが多い印象がありますので。何と答えれば良いのでしょうか。これから先ほど田村課長よりお話がありましたが、任意事業についても令和３年度から作っていけるようなところもあるかなっていう風に感じておりますので、生活困窮者自立支援事業としても今後宮崎県全体ですね期待しているところではあります。「任意事業をしてくださいね」と話をしているところではありますけれども元々の予定では20箇所の予定でした。コロナ禍の関係もありまして10箇所に絞ったというところもございまして、その20箇所の中には宮崎県も含まれていたというところはお話ししておこうかなと思います。

内田　ありがとうございます。それではもうひとかたくらいあればと思いますがいかがですか。よろしいですか。

それではですね最後になりますけれども、それぞれの方に、あと半年残っているところですけれども、半年後にはまた都城社協に戻ってくると思いますし、黒木さんはまた県社協の方に戻られると思いますが今後自分たちなりの地域福祉、人事交流を通しての学びを深めた自分自身を振り返りながらですね。今後どのように地域福祉を進めていこうかという自分自身の地域福祉観、そしてまた都城市社協、県社協の地域福祉観みたいなものを今の段階で、ですがあれば教えていただきたいと思います。それでは及川さんからよろしいですか。

及川　これからというところで、先ほどの中間報告の中でも少し含んだ報告をさせていただいたところなんですが、残された半年間で一番やっておきたい事としては一番冒頭でお伝えした繋がりをつくるというところで人を知っておきたいというところになります。県社協の職員だけではなくて特に今後、市町村社協、県外の非常にユニークな取り組み活動をやっている市町村もありますのでそういった担当職員、それ以外の職員も含めて出来る限り多くの人との繋がりを作っておきたいというところ。あとはお付き合いのない市町村社協それぞれの地域の特性そういったところと社協の特性、都城との違いを含めながら学んでいければと考えているところです。今後展開していきたい地域福祉に関しては、

繰り返しになるんですけどできれば近隣社協とのつながり、ブロック単位ないしはそれ以外の範囲も含めて何かしらの取り組みができればという風にと考えております。

先ほどの災害計画なんですけども各事業、日常生活支援事業だったりとか基幹センターの事業だったり地域福祉の事業だったりとかそれぞれ社協で色々な事業を行なっていく中で今相談できるのが身近な隣の社協だったりブロック内の社協だったりとか同じ担当職員に相談できる相手がいるのに今それができていないというような現状もありますから、社協の冠をつけているブロック、近隣のつながりをより強くしていきつつの地域福祉の発展を導いていくというところで社協の基盤づくりを行なっていければと思います。で、あとは社協組織そのものの活気というところも念頭に入れながら社協としての盤石化も測りながら地域福祉という取り組みにこれからの社協人生というか進んでいければなと思います。まとまりがありませんけど以上です。

内田　ありがとうございます。それでは黒木さんお願いします。

黒木　私はあと半年というところで、担当制というところで関わらせていただいているので担当している地区の方々からですね、頼ってもらえるような人材・人物をめざしていきたいと思っております。それを踏まえて自分なりの地域福祉の推進というところでは、先ほどから言っている地域共生社会という所でやはり支えられる側と支える側の両方向の役割を持てるようなそんな地域にしていければなというところが私の目標になっております。以上です。

内田　それでは、谷口さんお願いします。

谷口　本日はありがとうございました。今後の目標は、あと半年というところになりましたけれども乗り切る事が絶対値の目標で１つ自分の中ではあります。とはいえ、国とのつながりを作るというところをもって送りだしていただいたという経緯もございますのでそのところを都城社協と国とをつないでいくかというところも未だ見いだせておりませんので、あと半年で見つけていこうかなというところではあります。都城市社協にも戻ってからはですね予算の捉え方とか知らないことが多いまま国の方に行ったことを非常に反省しておりますので、やはりそういったことを学びたいということといまはもうとにかく地域に出たいというところを非常に感じております。

これはもう国に行ってすぐに感じているところでもあるんですけれども、地域福祉を推進していきたいと、当然地域共生社会というところを別に捉えつつですね、繋がれる方法を地域の方と模索していけたらいいのかなと。来年以降もこういった状況が続くと思いますのでそういったところを少し考えていけたらいいなと思います。以上です。

内田　ありがとうございました。本当に大変なそれぞれの持ち場で業務を進めていって苦労も多いかなと思いますが、あと半年しっかりと業務を遂行していただき、また半年後に元気に帰ってきてもらいたいなと思っております。でまた半年後にじゃあこれからというところを、また教えていただけたらと思いますのでよろしくお願いします。黒木さんは帰るんですかねって地域福祉係の中では冗談で言っているのですが・・・。本日会長と次長もいらっしゃるので、よろしくお願いします。

それではこれで、私の方のコーディネートを終わらせていただきます。御三方、ありがとうございました。

日時：令和３年３月 22 日（月）～令和３年９月 30 日（木）

内容：昨年からの新型コロナ感染症拡大防止のため、これまで開催してきたボランティアフェスティバルは中止となりました。そこで今年度はメインテーマを「つながりを絶やさない～みんなで集まれる、その日まで～」と題し、集まれなくても日頃からのボランティア活動や、これまでのボランティアフェスティバルで築かれた“つながり”と“絆”を未来につなげるために動画をインターネット配信します。また、一人ひとり自分にできるボランティアとして自分の持っているものが誰かのためになれば､を形にした「ものものトレード」と「フードドライブ」を実施しています。

想いを集めるコーナー・パート１

（Youtube 動画配信は、５つの動画配信を行っています。）

①「答えて！幸子ちゃん！」

福祉教育を行った小・中学校の児童生徒を対象にボランティアや福祉についての疑問･質問を募集して、その質問に幸子ちゃんが答えます。児童生徒の福祉教育の振り返りとより深い学びにつなげていければと考えます。

②「15 地区クイズリレー」

都城市には中学校区に 15 地区社会福祉協議会があります。今回は、15 地区社協の役員さんが地区社協の PR や地域住民の福祉の意識向上につなげるために、わが町自慢をクイズ形式で行いました。各地区３問ずつ問題を出し合いました。改めて自分の地区のことを調べたり、同じ都城であっても他地区の問題では知らないことも多く、役員さん方にとっても学びの時間となりました。

③「ボランティアやってみた！」

都城市内には様々なボランティア活動を行っている団体・個人・NPO 等が多くあります。その団体の活動を知っていただくために、活動の様子や活動されている方の想い・紹介（PR）をします。これからボランティア活動を考えている方！ぜひ、参加してみてください。

④「今こそ伝えたい！あなたからのメッセージ」

“ありがとう”の想いや今を乗り越える熱い気持ち、さらにコロナ禍が落ち着いたら挑戦してみたいこと、医療従事者･エセンシャルワーカーへの感謝の気持ち、遠方で会えなかった家族・友人へのメッセージなどを募集します。

皆さんからの投稿をおまちしています。(随時募集中！)

⑤「あなたに伝えたい！防災知識！」

平成 23 年 1 月 26 日の新燃岳噴火による災害を経験し、多くのボランティアの方々の支援をいただきました。災害は、いつ発生するかわかりません。そのため、普段からの備え・準備が大変重要となります。そこで、誰にでも役立つ防災に関するミニ知識を発信します。

・非常食
・給水車
・伝　言
・防　寒

想いを集めるコーナー・パート２

（一人ひとり、自分にできるボランティアとして、
自分の持っているものが誰かのためになればいいなぁ～を形にしました。）

①「ものものトレード」

着れなくなったけど誰かに譲れる服、もらったけど使わなかった子供用品など物々交換します。3 月 15 日（月）～ 21 日（日）の間で引き換えを実施しました。コロナ感染症対策でマスク着用・消毒を徹底して行いました。期間中 76 組 165 名の方が来場され気に入った洋服などと交換されていました。

②「フードドライブ」～保存食持ち寄りボランティア～

何かしらの理由により支援が必要な方々へのご提供や地域の子育てサロンでの活用を目的に、下記の食べ物を募集しています。 必要な食べ物は・・缶詰、インスタント食品、レトルト食品、乾燥食品

随時受付をしております。

冒険遊び場（プレーパーク in 縄瀬）

日　時：月一回（第三日曜日）9:30 ～ 13:30
場　所：縄瀬保育園
対　象：誰でも OK（小学生以下の子どもは親子で）

内　容：自己責任のもと、自由に遊びます。
木工遊び、泥んこ遊び、段ボール遊び、じゃぶじゃぶ池、泡たて遊び、コマ遊びなどなど･･･
たくさん遊んで、小腹が空いたら、焚火で焼いたがらんつ･するめ･パン･焼き芋など食べます。

要　点：極力、禁止事項を少なくして、誰もが楽しく・ゆっくりと過ごせる空間です。それぞれが主体的に動く事がこの遊び場のコンセプトで、ぼーっとする事もオッケーなのです。遊びの環境をたくさん準備していますが、どう遊びたいかは参加者の意思におまかせなので、関係者は遊びの勧誘もしません。新しく参加された方は、リピーターさんの様子を見てここの雰囲気を少しずつ感じ取っていきます。
今年はコロナ禍で中止する月があり、再開した時には人数制限の必要があるほど問い合わせがありました。

今後は、各地区の子育て支援や学習支援関係などで、このような活動ができれば、同スタッフがお手伝いをさせていただきたいと思っています。本年度は高城の「かのんクラブ」さんが参加され、近い将来高城のプレーパークが誕生するようです。（要望があれば遊具や道具の貸出しもできます）
今後は縄瀬での活動と並行しながら､他の地区でもボランティアさんの協力をいただきながら、新たな場所でプレーパークを開催したいと思っています。

社協職員（新人等）のための
「ザ・社協塾」

1．主旨

新たに社協で働くことになった職員を対象に、「社会福祉協議会」や「地域福祉」に関する基本的事項を系統的に学ぶことを目的に、「ザ・社協塾」を開講します

2．対象

概ね入職３年程度の職員を対象としますが、特に希望する職員も参加できます

3．基本テキスト

『改訂 概説 社会福祉協議会』（全社協出版部、2018 年 3 月発行）
定価　2,300 円（税込み 2,530 円）
※購入希望者は総務課長までお申し出ください

4．内容

基本テキストに基づく一般論の講義と、一般論に照らした都城市社協の現状を話します
講義 50 分、質疑応答や意見交換 10 分の時間配分で進めます

5．会場

都城市総合社会福祉センター　２階研修室

6．参加方法

参加希望者は、その都度、主宰者に申し出てください
参加にあたっては、すべて業務外とします（希望者のみ）

7．主宰

総務課長

8．日程及び講師

No.	内　容	日　時	講　師
1	社会福祉協議会の基本理解	10月２日(金)	大田　勝信
2	市区町村社会福祉協議会の事業① ・事業展開の基本的考え方 ・住民参加による地域福祉活動と地域づくりの推進 ・在宅福祉サービスの推進	10月９日(金)	田村　真一郎
3	市区町村社会福祉協議会の事業② ・ボランティア活動・市民活動の推進 ・災害対応	10月16日(金)	櫻田　賢治
4	市区町村社会福祉協議会の事業③ ・地域における総合相談・生活支援事業の展開	10月23日(金)	田村　真一郎
5	社会福祉協議会活動の方法と考え方① ・社会福祉協議会に求められる専門性・視点と社協職員のアイデンティティの確立 ・地域支援の仕組みづくり	10月30日(金)	櫻田　賢治
6	社会福祉協議会活動の方法と考え方② ・個別支援と地域支援の融合 ・関係組織との連携・協働	11月６日(金)	田村　真一郎
7	社会福祉協議会活動の方法と考え方③ ・住民参加の計画づくり	11月13日(金)	櫻田　賢治
8	市区町村社会福祉協議会の経営① ・組織運営	11月20日(金)	大田　勝信
9	市区町村社会福祉協議会の経営② ・財務運営	11月27日(金)	大田　勝信
10	市区町村社会福祉協議会の経営③ ・職員育成及び人事管理	12月４日(金)	大田　勝信
11	社会福祉協議会と行政	12月11日(金)	杉元　智子
12	都道府県・指定都市社会福祉協議会の事業と経営	12月18日(金)	黒木　雄一
13	ふりかえり・フリーディスカッション	12月25日(金)	

※時間はいずれも18時～19時

【目指すべき職員像】

みやこんじょ社協職員像

「ハート・アクション・コミュニティ」

～Jojon yokatoko　みやこんじょ～

みやこんじょ社協職員は、あたたかく、熱く、気高く、躍動し、
俯瞰的に、専門的に、夢を持って、地域に向き合います！

私たちは、意識を高く、情熱を持ち、
人の「心（ハート）」に熱く語りかけます。
心を動かすことで、
人が「行動（アクション）」するよう、仕掛けます。
一人の一歩を100人に広げ、
やがて「地域（コミュニティ）」を動かします。
地域がいきいきと輝くときに、
「じょじょんよかとこ　みやこんじょ」になることを願って・・・。

令和２年12月25日

共通研修　他部署業務体験研修

１．主旨

社協内の部署を超えた横断的な業務と総合的な支援ができるような人材育成を図ることを目的とし、社協職員としてそれぞれの業務を理解し連携するために、他部署業務を体験する。併せて、職員間の交流により、お互いを知り新しい視点を持ち業務を遂行し、社協事業のボトムアップを目指す。

２．期間　令和２年10月～令和３年１月の１日間

３．対象者　希望する正職員

【体験者数】15人

【体験部署】総務課2、地域福祉課2、生活支援課3、子育ち応援課5、
点字図書館3（人）

【体験者所属】総務課3、地域福祉課7、生活支援課2、子育ち応援課1
点字図書館1、在宅福祉課1（人）

【階　層　別】課長1、副課長1、係長2、主査1、主事10（人）

【今後の業務に生かしたい点など】

・３つの園が、こどもの個性を尊重しながら、多くの職員が、ひとつの方向性に向かって、同じ業務を行っていくときに、組織の目標を共有化することの重要性を痛感したので、社協全体でもそうありたい。

・援助技術の一手法である「行事」のあり方について、目的や目標を明確にしておくことが大事だと感じたので、今後に生かしたい。

・異年齢縦割り保育の実践や遊びの中から生まれる育ちの原点に徹底して取り組むなど、園のぶれない方針や先生方の真摯に取り組む姿に刺激を受けた。普段の業務に対して、過去の流れを踏襲し、事業を展開するばかりではなく、１つひとつの事柄に対し、考え、疑問を持ち、振り返りながら発展的な意識を持って業務にあたっていきたい。

・一人ひとりに丁寧に向き合う、声掛けのタイミング、家族の方との関わりなど、利用者さん、家族の思いとズレが生じないよう考え、今後の業務に生かして行きたいと思う。

・相談・援助業務を行う際、相談者の意思を尊重する事をこれまで以上に意識したい。子どもでも障がい者でも権利擁護を尊重する為、本人の人権を守りながら必要な支援をしていきたいと感じた。

・それぞれを認め合い学び合うことの大切さを改めて考えることができたので、業務でも意識したい。

・職員のチームワーク、業務の共有化をより強くすること。

・保育観を持って取り組んでいる子育ち応援課の信念（ぶれないための工夫を含め）を見習い、自課でも信念を持ち意識化し、共有する努力をしたい。

・今回の体験で改めて、人と接するうえで大切なことを肌で感じた。一つ一つ丁寧に仕事に取組み、地域との信頼関係にもつなげていきたい。

・懇切丁寧な態度や、気遣い、思いやりを大切にした精神は、担当している事業に大きく活かすことができ、地区社協等において様々な困りごとや、生活に不安を感じている地域住民に対し、安心して悩みごとを打ち明け、相談ができるような地域づくりに努めていきたい。

・相手の立場になって考えること。子供の立場、子育てをしている家族の立場、そして地域の人の立場から。当たり前のことだが、いつも忘れないで日々の業務をしていこうと改めて思った。
・今回、コロナウイルスをテーマにした授業で、打ち合わせから実際の授業を行うまでの中で、従来通りではない新しいテーマや切り口での取組みを研修した。まだまだ点字図書館の啓発も必要だが、今後、点字図書館でも福祉教育を深めていけないかと考えた。そのためにも、自分自身が知識や経験を増やし、協議しテーマを深めた取組みを行えたらと思った。
・日誌回覧の際には、これまで以上に地域での支え合いの可能性を考慮しながら目を通していきたい。また、課の職員にもこのことを伝えていきたい。地域における個別ケース課題を把握した時は、各センターに積極的に相談・つなぎを行っていきたい。
・相談援助業務を行う際は、今回経験したことをもとに信頼関係を築いていきたいと思う。貸付対応も今後、一人でも対応できるようにさらに勉強していきたい。
・１課の中にセンターと呼ばれる事業所が複数ある中で、事業の連携を行うために、毎日日誌を回覧し、情報共有を図っていることは非常に参考になった。
・事業のあるべき姿をイメージしながら事業に取り組まれており、基本的なことではあるかもしれないが、大切なことだと感じた。
・印象的だったのは、音訳や点訳で誤っている部分を指摘する際には、完全無償のボランティア達との信頼関係を壊さないよう配慮しながら、思いを継続して持っていただけるような関わり方をしていること。地域の福祉のため活動されている方々と接する際にも思いを継続して持っていただけるようサポートを心掛けていきたいと感じた。
・視覚障がい者に対する具体的支援を学ぶことができ、日常生活用具購入給付を説明することがあっても、実際にどのような物なのか把握していなかったため、今回の研修で、実際の物を見ることができ、今後の相談業務に活かしていきたい。
・基幹相談支援センターで登録がある方も点字図書館を利用されていることがわかり、日々の情報交換、連携をもっと密にしていくことができればよいのではないかと感じた。
・配慮すること、ボランティアさんや当事者の方とには信頼関係が必要であること。一緒に活動する中で説得ではなく納得してもらうこと。

第４章

地域福祉実践報告会

第４次地域福祉活動計画並びに15地区地域福祉活動計画策定にあたって
～計画づくりを通じての地区担当職員のスキルアップを図る～

地域福祉課　課長　櫻田　賢治

１．事業概要と目的（事業のねらい）

第３期都城市地域福祉計画（行政計画）が策定され、その実践計画として、いよいよ第４次都城市地域福祉活動計画づくりがスタートする。今年度は、本計画と15地区計画を策定し、その策定作業の過程を通じて、地区社協機能の強化と地区担当制における地区担当職員のスキルアップを図ることとする。

２．到達目標（実践仮説）

今回の計画は、これまでの実践活動をさらに充実させるための計画であると同時に、コロナ感染の影響下での新たな地域のつながりづくりが求められる計画になると考える。15地区社協活動の新たなミッションを明確にすることが重要である。併せて、計画づくりは、職員育成の絶好の機会であると考える。過去の計画づくりにおいても、若手職員から中堅職員のスキルアップにつながった。今回も計画本体の策定はもちろん、策定作業を通じて、職員育成をねらいとする

３．実施内容

（１）本計画と15地区計画を策定する。第３次計画を検証し、本市におけるこれからの地域福祉活動の指針を明確にする。

（２）今回の計画策定作業において、15地区における地域福祉座談会等に介在する地区担当職員が、担当地区社協の課題を掘り下げ、これからの目標を明確にする作業等を通じて、地区担当職員のスキルアップを図る。

４．成果（到達度）

（１）については､策定作業の中で､社協内部･行政関係各課と十分な協議が出来たとは言えない｡しかし、15地区の地域福祉活動計画策定に関しては、１地区あたり５回以上の協議を重ねることで、第１次計画策定（平成14年度～平成19年度策定）以来の各地区活動の方向性を明確に示すことが出来た。

（２）については、地区担当職員と地域住民とが同じテーブルで施策を考えることができた。全75回以上の話し合いの中で、地区担当職員は、課題の抽出から、協議のすすめ方、そして、施策のまとめ作業など、様々なスキルを求められたことで、地区担当職員のスキルアップにつながったことは間違いない。

５．考察

地域福祉推進部門におけるアウトリーチと対話力の重要性を感じると同時に、地区担当職員は、以下の５点を、実際に肌で感じ取れたのではないかと考える。

（１）同じテーブルで、地域住民と一緒に地区の課題や強みなど出しあい、共有することの重要性

（２）施策を考えるためには、それなりの時間と労力を必要とすることへの再認識

（３）住民主体のまちづくりの重要性

（４）地域住民の熱い想いに応えられる専門職としてのスキルと姿勢のあり方

（５）地域住民と語り合い、新たな取り組みへつながっていくことの楽しさ

６．今後の課題

計画を作って終わりではない。この計画を地域住民に周知し、計画の実践していくことが大事である。令和３年度からは、地区担当職員を中心に、これまで話し合ってきた過程で得られた地域住民の様々な想いと気づきを糧に、さらに自治公民館単位にアウトリーチしていくことで、この計画の周知徹底と小地域での福祉ニーズを掘り下げていく必要がある。

そのような取組みを、丁寧に実践していくこと自体が地域福祉の推進であり、福祉教育であり、地区担当職員のスキルアップにつながる。さらには、新人職員の登竜門的な部署として、職員育成の役割の一端を担うのではないかと考える。

ボランティア連絡組織のあり方について
～地域活動 ＋ 横の繋がり ＝ ∞(無限大)～

地域福祉課　副課長　都城市ボランティアセンター所長　大牟田　智子

１．事業概要と目的（事業のねらい）

ボランティア（以下「VO」という）組織は、5つのVO連協（サテライトを含む）とVO協会がある。地域VOは昭和58年に旧市内のほぼ全域に地域VOが結成され、小地域を活動基盤とする福祉活動を支え自治公民館を単位としたVOの発掘と組織化が行われてきた。VO協会は個人及び団体相互の連絡調整を図りながら活動を行なう専門的な組織である。これらは平成18年度の合併以前の組織体制で現在も活動をおこなっている。想いを同じくするボランテンィアが活動の充実を目的としてきたが、現在は会員の高齢化や加入者不足による組織の衰退、活動のマンネリ化など多くの課題が表面化してきている。今回、VO組織を再編することでVO同士の横の繋がりが深まり、お互いに顔の見える関係が生まれ、異世代（若者）や企業等とも繋がることの出来る体制が構築できると考える。

２．到達目標（実践仮説）

平成30年度ヒアリングの際には、体制を統一することに対して悲観的な意見が多かったが、当時の悩み（高齢化・役員の成り手不足など）が2年間で更に深刻化してきた。どこの地域も同じ悩みを抱えながらも、それぞれに活動してきた。そのVO連協を一つに統一することで、横の連携（ネットワーク）が強化され、新たな活動や若者世代や企業関係者等の人材確保も期待されると考える。

３．実施内容

統一に向けて平成30年度に4サテライトのボラ連会長・役員に対してヒアリングを実施し、「現状のままでいい」「メリットはあるのか」などの意見があがった。それらを受け、令和２年度に各地区VO連協代表者へ再編の目的や流れ、メリットなどの説明を行い理解を求め、再編に向けての動きをはじめた。再編に向けての具体的な動きとしては、現ボラ連会長による再編準備委員会を立上げ、新組織名称を含め役員体制・規約（他市町村のボラ連規約を参考）等についての協議を定期的に行った。その間、今回のコロナ禍でのＶＯ・ＮＰＯ団体等の活動状況調査を実施した。

４．成果（到達度）

再編準備代表者会を4回（6月・9月・10月・11月）実施し、名称・規約等についての意見をまとめることができた。組織名称についても、これまで活動されてきた人達の長年の想いを汲んだもの、災害時にも連携できる緩やかなもので若い人たちにも参加してもらえるイメージ出来るものということで『みやこんじょボランティアネットワーク』となった。また、設立に対する代表者会を開催し、27団体4個人に対しても説明を行い、新組織への要望･ご意見をいただき、令和3年4月に設立総会を開催することとなった。

５．考察

再編作業の中で、各ＶＯ団体代表者の方々の「ボランティア連協」への想いの強さを感じることができた。その想いが新組織設立により、今まで以上に広がりのある活動や横のつながりの強化につなげ、現行ボランティア組織と新しい市民活動団体・NPO等が顔の見える場・関係を構築することで、お互いの活動に広がりの幅が生まれ、地域活動において地域の困りごと等にも目を配り、自分毎として捉え、解決に導くことができると考える。

６．今後の課題

今後は、新組織メンバーとしてまずはお互いを知り、お互いの活動を理解することが必要である。また、高校生や大学生といった若い世代や企業等の参加を促すことにより、平時での活動協力だけでなく有事の際の協力・連携にもつながると思われる。また、自らの活動だけでなく地域課題にも目を向け、対応できるノウハウやボランティアの人材育成を行い､ボランティア精神･福祉の心を育てるような取り組みを行っていきたい。

地区社協を基盤にした地域づくりの取組み
～事業の再検証から新たなつながりの構築を目指して～

地域福祉課　係長　内田　文子

１．事業概要と目的（事業のねらい）

共生社会の実現に貢献することを社協の使命として、個別の地域生活課題を「我が事」として捉え、立場や世代を超えて「まるごと」つながり支えあう地域の実現に向けて地区社協を基盤に地域福祉の推進を行う。住民が自ら地域の課題を認識し、主体的に協力し合ってそれらの解決を図る意識の醸成と行動を起こすことができるような福祉コミュニティの構築を目指す。

２．到達目標（実践仮説）

地区社協事業が毎年同じ事業を繰り返し、新しい取組みに対して、拒否反応を示す意見も散見され、共生社会の実現につながる事業を推進するためには、住民の気づきや生活上の課題に共感し主体的に動き実感することにより、“やらされる”から“やる”へ、“地域の担い手”から“共感する他者”へ変化し、新たな課題に向き合って活動することにつながるのではないかと考える。そのために、既存の事業を実情に即した活動であるかを明確にし、これまで集まることでつながる地域福祉の形を見直す必要がある。集まることができない中で、孤立や心身の低下に陥ることが懸念されるため、このコロナ禍での新たな地域のつながりを目的とした新たなプログラムの実験・試行の研究を行う。

３．実施内容

地区社協事務局の人的・資金的要素の分析や地区社協事業の内容を整理・再検証し、少人数で集まる活動やつながるツールの検討を行う。例えば一人暮らし高齢者の連絡網を整備して、ふれあい電話で定期的に電話をする、家でできることとして日々のできごとをノートに残してみる、往復はがきにメッセージを書き、子ども達と高齢者等との交流を図る、など“新たなサロン”の可能性を模索する。

４．成果（到達度）

地区社協事務局の体制としては､事務局員･相談員など地区により構成人数､活動内容に違いがあるなか、相談員の複数体制、開設日の増設が必要と感じているものの負担感も感じている地区が多い現状がある。

コロナ禍という生活上の課題がありながら、集い型地域活動から、個別訪問やお便り郵送やオンラインで交流するなどの工夫により、新しいサロンの形を模索した。妻ケ丘地区では、見守り訪問を目的とした「友愛ネット会」の立上げや在宅介護者の訪問実施など、住民同士が“気にかけあう関係”ができている。さらに「地区社協だより」を全戸配布したことで、住民からの反応や新たな意見を聞くことができた。

さらには、より身近な地域で相談を受け止めることのできる「何でも相談」のサテライト開設の検討、公民館単位で生活支援の有償ボランティアの立上げ、どちらも４月より実施予定となる。また、各地区活動の周知を目的として市連協通信「さちこだより」を発行し、各地区社協の発信・共有化による活動支援を行う。

５．考察

コロナ禍は、皆が当事者として受け止めなければならない現実となった。自粛制限下でも、つながりの必要性に気づき、方法を模索しながら住民自ら地域の課題を認識し、主体的に協力し合って解決を図るための新しい取組みを行った結果、できたことへの喜びや地域の好反応を得て、新たなつながりを実感できている。

また、各地区社協事務局体制について、「事務局の仕事は忙しい」と答える事務局長が多い一方で、地区担当に対する評価もあることから、地区担当の支援は欠かせないことが推察される。

６．今後の課題

新しい取組みの広がりの兆しはあるが、課題は、地区社協事務局体制強化（財源確保、人材確保）である。地区社協会費は、地区による格差もあり、活動費の大半は補助金等を充てている。補助金削減が活動縮小化になることが懸念され、自主財源についての検討も急務である。また、人材についても地区担当が地域や人と“つながる力”をつけていくことが、今後の鍵となると考える。

地域福祉活動計画策定作業が及ぼす地域住民の変化
～住民主体の計画策定を目指して～

地域福祉課　主査　黒木　雄一

１．事業概要と目的（事業のねらい）

都城市社会福祉協議会は、平成 28 年３月に第３次地域福祉活動計画（以下、「活動計画」という。）を策定し、地域福祉の推進に努めてきたが、第３次活動計画が令和２年度で最終年度を迎えることから、第４次活動計画策定に取り組むこととした。第３次活動計画策定後も少子高齢化の一層の進展や人口減少による地域の担い手不足、社会的孤立、虐待問題など地域課題は深刻化し、さらに追い打ちをかけるかのように新型コロナウイルスの世界的感染拡大で、経済も衰退し社会生活も変容を余儀なくされてしまうようになった。

このような社会情勢であるからこそ、地域住民がこれまでよりもより主体的に参画する工夫を行い、元気な地域となる計画策定につなげていく。

２．到達目標（実践仮説）

活動計画策定は、限られた住民で作成されることが多く、子育て中の親などの現役世代や子どもの参画が少ない。また､策定作業に関わる人たちもやらされ感が往々にしてあるのではないかと考える。そこで、地域住民が活動計画の必要性を理解すること、地域の課題を我が事と捉える視点を持つこと、わくわくするような仕掛けの３つを念頭に置きながら、具体的な地域の将来像を描くことを到達目標とする。

３．実施内容

（１）わかりやすい資料の作成や策定成果を共有する機会を設ける等、地域住民の主体性を引き出す工夫に取り組む。

（２）市内各地区の地域座談会等の場で､参加者へ策定前と策定後のアンケートと作業中のインタビューをとおして、地域住民の意識変化を検証する。

４．成果（到達度）

（１）各地区に出向く地区担当職員の共通理解を図るための会議を開催した後、課内での協議を重ねながら、地域課題の洗い出しなどのフォーマット作成や前回の活動計画を地区ごとに準備する等の工夫を行い、地域住民に対して計画の必要性を丁寧に説明した。また、住民座談会の代わりに「地域福祉活動計画アンケート」を行い、小学３年生以上の市民約 2,000 名から回答を得ることができた。

（２）コロナ禍のため､インタビューは実施せず､地区社協役員に限定して､策定後に「住民意識アンケート」を実施し、策定前後の変化について分析を行った。

５．考察

コロナ禍で策定成果の共有については予定していた地域福祉推進大会が中止となり、残念ながら機会を設けることが出来なかった。また、地域住民を集めての地域座談会も実施には至らなかった。しかし、その中でも様々な機関に協力をいただきながら、地域福祉活動計画アンケートを実施出来たことは、多少なりとも地域住民が社協や地域に関心を寄せるきっかけになったのではないかと推察する。

住民意識アンケートでは、「地区社協の役割が確認できた」「地域福祉活動計画の必要性が分かった」と回答した人の割合が７割を超え、「地域の課題を自分のこととして考えるようになった」と回答した人の割合も６割を超えた。また、15 地区社協の活動計画も策定できたことから、地域住民が具体的な地域の将来像を描くことに対しては、一定の効果が得られたのではないかと考える。

６．今後の課題

今回の地区ごとの計画を計画作成に協力いただいた地域住民はもちろん、計画策定に携わっていない地域住民に対して、どのように落とし込んでいくのかが直近の課題と考える。

また、地域住民座談会等の地域住民の声を直接聞くための機会について、ICT を活用した取組を検討していく必要もあると考える。

生活おたすけサービス事業の取り組み
～生活援助員の思いに寄り添いながら～

地域福祉課　主事　松永　愛子

１．事業概要と目的（事業のねらい）

本事業は要支援状態または生活機能の低下が認められた高齢者等が、その有する能力に応じ、可能な限り居宅において自立した日常生活を営むことができるよう、日常生活上の軽易な援助を行なうことを目的とする。生活おたすけサービスは、生活援助員が利用者のお宅を訪問し、食事の支援、衣類の洗濯、補修等、住居内の掃除および整理整頓、ごみ捨て（もやせるごみ）、生活必需品の買い物、関係機関等との連絡のサービスのうちから、日常生活上の軽易な援助の範囲で、利用者が希望するものを生活援助員が提供する。

２．到達目標（実践仮説）

養成講座を受講し、登録しているものの活動に至っていない生活援助員が多くいるという課題がある。それに対して、活動されていない生活援助員に、援助員の思いや心配なこと等を共有することにより、生活おたすけサービスの援助に入りやすくなるという仮説を立てた。そのためには、活動されていない生活援助員と活動されている生活援助員との情報共有する場を設け、自分の担当地区以外の生活おたすけサービスの現状を把握する必要がある。

３．実施内容

今回、担当地区である沖水をモデルとし、現在、活動されている生活援助員と、活動されていない生活援助員との意見交換会を年に２回実施することを計画に立てた。また、他の地区で実施されている地区ごとの生活援助員の意見交換会に出席し、地区担当から聞き取りを実施するなどして、他地区社協の生活おたすけサービスの動きについて把握していく。

４．成果（到達度）

沖水地区で２月に開催を予定していた生活援助員の意見交換会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。沖水地区の生活援助員が報告書等を持って来る際に、利用者の状況等を確認し必要に応じて利用者宅への訪問等を行なった。活動されていない生活援助員には、電話で生活おたすけサービスの活動に関しての聞き取りを実施した。

沖水地区生活援助員の意見交換会は実施できなかったが、沖水地区でも生活援助員不足や生活おたすけサービスの必要性が課題に挙がり、３月に沖水地区民児協定例会で生活おたすけサービスの学習会を実施し、民生委員の方に事業の周知や生活援助員について理解や協力を求めることが出来た。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止で他地区でも生活援助員の意見交換会等が実施できない現状もあり、生活おたすけサービスＱ＆Ａを作成している。来年度の４月に生活援助員の他に公民館長、民生委員等に配布する予定である。

５．考察

以上の成果を踏まえて考えられることは、生活援助員の様々な思いを傾聴し、共有することで、事業担当も利用者に対して理解や把握することができ、より良いサービス提供へとつながったということである。

このことから、今後とも生活援助員の思いを共有し、事業を推進していくことは重要であると考えられる。

６．今後の課題

現在も生活援助員の登録をしているが、実際の活動に至っていない生活援助員の方は多くいる。定期的に活動していない生活援助員に対して、連絡をとり今後の活動について確認する必要があると思われる。また、新型コロナウイルス感染症で生活援助員の意見交換会などが出来ないと考えるのではなく、個人個人の聞き取りや少人数での開催等といったように工夫しながら、実施していくことの必要性を感じた。年々、利用者が増加している中、利用者だけではなく、生活援助員にとっても良いサービスになるよう思いに寄り添いながら活動していきたい。

各地区における生活支援コーディネーターの活動について
～地域の「やってみたい」想いを引き出し、形にするために～

地域福祉課　主事　岩﨑　美華

１．事業概要と目的（事業のねらい）

第２層（中学校区）圏域において、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続していくことが出来るよう生活支援コーディネーターを配置し、地域の生活課題の把握や、さまざまなサービス提供主体の把握･創出、関係機関との連携等を図り、第２層圏域での生活支援体制整備を推進する。

２．到達目標（実践仮説）

これまで第２層生活支援コーディネーター（以下 SC）から「何もできていない」「自分でいいのか」など不安を持たれる方もおり、自信を持って活動できる体制づくりが必要であると考える。そのためには、SC の自主性を引き出し地区に対する想いを形にすることが大切である。方法として、SC と顔を合わせて話せる場や、地区社協や行政、地区担当等との連携や地域福祉座談会との連動等により、地域として取り組みやすい環境を整えること、また通信発行等で活動の見える化を行い、SC が情報を得られ自分たちの活動が見えることで、自信をもって活動できるよう支援していくことを目標とする。

３．実施内容

①各 SC と定期的な情報交換会を行うことで、「やってみたい」想いを引き出し活動につなげ、地区社協との連携として担当地区の祝吉をモデルに地域を巻き込んだ取り組みにしていく。また、定期的に活動状況などを通信にて発行することで、SC が情報収集でき、見える化することで SC の自信につなげる。

②集まって交流ができない状況（震災や感染症流行時等）や外出が難しい方、外に出て交流を好まない方に対しても「つながりを切らない」新しいつながり方などさまざまな活動内容を検討する。

③第２層協議体を立ち上げ（目標３地区）、SC の活動を地域を巻き込んだ取り組みになるよう各地区の状況に応じた話し合いを進めていく。

４．成果（到達度）

定期的な情報交換会は各地区実施することはできたが、具体的な活動に取り組めなかった地区もあり、事務局としての活動が不足していた。

SC の活動の見える化として、SC の活動を紹介した「みやこんじょ生活支援コーディネーター通信」の計４回発行と地域住民同士の助け合い活動を掲載した「お宝ブック」を作成した。

集まること等が難しい中新たな取り組みとして、地区社協や民生委員、公民館長との連携による訪問活動や、はがきを通して児童と高齢者を結ぶ活動等が行われた。

第２層協議体立ち上げは、３地区（妻ケ丘、山田、高崎）が具体的活動に向けて話し合いをすすめた。妻ケ丘地区においては、令和３年４月活動開始を目標に有償ボランティアが立ち上がった。

５．考察

活動としては地区社協等との連携等により、新たな取り組みを SC それぞれが活動したことで、新たなつながりや今後の活動へのきっかけ作りになったと考える。また、定期的な情報交換会を行うことで、地域の良いところの発見や地域の課題について考え、解決に向けて取り組むきっかけ作りができた。

事務局としては SC の地区に対する想いを形にしたり、地域としての取り組みやすい環境づくり、特に活動の具体化ができていない地区への働きかけが不足していた。

６．今後の課題

SC だけではなく地区社協や地域の関係機関、既存の活動団体等と連携をし、地域としての活動になるように地区ごとの実態にあった取り組みが必要である。そのためにも､地区社協役員会や地域福祉座談会、第４次地域福祉活動計画と連携する必要がある。

地域力向上に向けオール地区社協で実践すること
～地域の更なる強みを活かして～

地域福祉課　主事　下徳　真吾

１．事業概要と目的（事業のねらい）

これからの少子高齢化社会では、地域のつながりが弱まっている現状において、これまでの行政サービスだけでは限界を迎えつつある。そのためにも、子どもから高齢者まで全世代の人々が、生きがいをもって、住民が主体的に地域課題を把握し、解決に向けた体制づくりに向けて一緒に支援していく。さらに、今年度は第４次地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）を策定するため、本事業と一体的に事業推進を図っていく。

２．到達目標（実践仮説）

１点目は、全地区の活動計画策定と併せて、横市地区の計画づくりの充実化である。横市地区の「みそ汁の会」を通した住民の居場所づくりの推進と、策定座談会を通してその他の福祉ニーズにも気づき、新規事業（子ども食堂、男性料理教室等）への企画に繋がるという仮説を立てる。２点目は、地区社協と市社協地区担当の一体的な事業推進である。個別相談に対する地区社協の支援体制は地区ごとに異なる。そこで、本会地区担当の動きを見える化することで、担当者間の情報共有やスキルアップ、個別課題を地域で捉えることに繋がり、ケース会議や個人宅環境整備、新事業の企画等の件数が１地区１件の１５件を目標とする。

３．実施内容

１点目は、座談会参加者の抵抗感や負担感軽減のために、趣旨説明及び第３次計画の振り返りを丁寧に、かつ参加者の自主的で前向きな発言を促すために、計画策定シートの活用及び、参加者意見の尊重、緊迫した雰囲気にならないように配慮することで上記仮説に繋がるものとする。２点目は、毎月の地区担当日誌により各地区の見える化を図り、相談内容や経路を分析することで、支援体制の整備を図り、地区担当定例会や、地区ごとのチーム定例会などで情報共有。他地区の取り組みを参考に、地域の主体性を重視しつつ、市内全域の地域力向上に繋げていく。

４．成果（到達度）

１点目は、今年度新たに１地区「みそ汁の会」が立ち上がった。また、活動計画策定において「みそ汁の会」の必要性が役員一同で共通理解が図れ、更には地域の子どもたちも巻き込んだ「地域食堂」の要素も入れたみそ汁の会も企画されている。２点目は、上記「３．実施内容」にあるとおり、見える化や情報共有に重きを置いた。コロナ禍により新たに、集合型から訪問型、高齢者に絵葉書や年賀状を届ける事など全地区新たな事業や企画に取り組んだ。毎月の地区担当者定例会では各地区のトピックスを共有することで他地区の新事業につながった事例もある。一人ひとりが「地区担当者」を意識した結果であると考える。

５．考察

１点目は、館長会等でみそ汁の会の趣旨と今後の展望を丁寧に説明することで館長の意識も変わり自主的に活動へと繋がった。そして、横市地区社協広報紙にて他のみそ汁の会記録を周知することで住民の意識はより変わっていく。２点目は、地区社協が連携するためには、地区担当の連携が必須であるということだ。地区担当者定例会を通して、新たな取り組みが広がった事例もある。例えば、中郷地区にて敬老会中止に伴う絵葉書プレゼントを実施。それを受け志和池地区では高齢者へ年賀状配布事業を新たに企画し、定例会の効果があったと考察する。

６．今後の課題

１点目は、地域のサロンと地区社協の相談機能との連携である。併せて本会のサブ担当、地域サポーターがより個々の専門スキル発揮できるような地域の場を整備したい。２点目は、地域力事業推進をどのように行政と一体的に行っていくのかという点である。次年度以降は新事業へ移行していくため、これまでのモデル期間の実績、効果を丁寧かつ迅速に振り返ると同時に成果を明瞭に見せるスキルアップを図る必要がある。

15 地区全体で寄り添う子ども支援
～子ども達が夢と希望をもって成長していける地域の実現～

地域福祉課　主事　松本　あかり

１．事業概要と目的（事業のねらい）

子どもの生活・学習支援事業は、都城市こども課から委託を受けて３年目となる。母子家庭、父子家庭等を含む生活困難世帯の子ども等に対して、親の経済格差によって子どもの学力や進路に格差が生じないよう生活支援・学習支援を一貫して実施し、貧困の連鎖を防止することを目的とする。また、15 地区すべてにおいて、子ども達が抱える特有の課題に対して、生活・学習支援、居場所の提供を行うとともに、地域における関係者や関係機関、学習支援の実施団体と連携・協働しながら教育と福祉が一体となった支援体制を構築していく。

２．到達目標（実践仮説）

学びの場で大人と子どもが信頼関係を築き、子どもが自ら SOS 等の自己表現ができるような“話せる場づくり”を 15 地区全体が意識することによって、地域の新たな課題を発見・解決し、地域福祉の向上につながると仮説を立てた。現在、庄内地区を除く 14 地区で活動している学習支援団体が本事業に参画している。そこで、今年度中に庄内地区で学習支援を立ち上げ、15 地区全体で子どもの生活・学習支援を充実させることを目標とする。

３．実施内容

庄内地区で学習支援を立ち上げ、充実した支援内容にしていくためには地域の力が必要不可欠である。まずは既存の活動や学校等の意見を集めたうえで、庄内地区社会福祉協議会の役員や生活支援コーディネーター等と協議を重ね、先駆的に活動している団体を参考にし、庄内地区のニーズに合った学習支援を夏休み期間に短期的に実施する。また、立ち上げ後も住民主体の活動として継続されるために「こども未来応援連絡協議会」等の場で、参画している団体同士で情報共有・相互研鑽・連携していけるように取り組み、定期的に各団体へのヒアリングも実施する。

４．成果（到達度）

庄内地区社会福祉協議会を主体とした学習支援事業を新たに立ち上げた。年度当初から地区社協役員と立ち上げに向けた協議を重ね、今年度は試行的に庄内小学校３・４年生を対象に実施することとなった。冬休み期間中に１日のみ学習会を開催し、児童 17 名、学習支援サポーター２名、講師３名、その他関係者を含め合計 33 名の参加となった。参加した児童からは「次はこんなことがしたい」などの声もあり、次年度以降も地区社協の事業として継続される予定である。また、次年度は庄内地区まちづくり協議会や地域のボランティア団体が運営する学習支援の拠点が庄内町、乙房町にそれぞれ整備され、子どもの生活・学習支援事業に参画することとなった。

５．考察

今年度実施した庄内地区の学習支援は単発でイベント型ではあったが、この学習会を通して子どもたちが地域の様々な大人と交流する機会となり、地域の新たなつながりをつくることができた。地区社協としては新たな試みであったこともあり、地域主導というよりは、こちら側が道筋を決めて進めた部分もあったため、地域の主体性を妨げてしまったことが反省点である。

６．今後の課題

15 地区全体で子どもを支えていくためには、学習支援の活動拠点は１年を通して常設されていることが期待される。都城市内の各小・中学校に実施したニーズ調査を踏まえ、これまでイベント型や通年型で活動を続けてきた団体の意向を尊重しながら、新たな活動拠点の整備やサポーターの確保など支援体制を整えていく必要がある。

都城市内の福祉施設と地域との繋がりの強化を目指して
～都城市社会福祉施設等連絡会と「市民との協働」による福祉のまちづくり～

地域福祉課　主事　岡村　詩織

１．事業概要と目的（事業のねらい）

都城市社会福祉施設等連絡会は、市内の社会福祉施設や学校、医療機関、行政機関などが相互に連携を取り合い、それぞれの地域において福祉活動をいっそう高めることを目的として結成されている。地域住民の方々に「開かれた施設」を目指し、地域に貢献できるよう、研修を通して福祉についての専門的な知識・技術・機能を学び、施設の職員の人材育成を図っている。今年度は、より一層「市民との協働」による福祉のまちづくりを目指し、事業を展開させていきたい。

２．到達目標（実践仮説）

担当地区である小松原地区では、昨年度から地区社協と社会福祉法人まりあが連携して買い物支援サービス事業を開始しているが、施設職員からは「地域の現状、在宅での生活を知ることができる、新たな発見がある」等の意見が出ており、地域住民との関わりが良い刺激となっていることが分かった。今年度予定している第４次都城市地域福祉活動計画の策定においても、地域の方々と共に地域のことを協議することで、地域の問題を「我が事」として捉え、地域貢献に繋がる取り組みを行うにあたってのきっかけ、繋がりづくりになるのではないかと考える。また、買い物支援サービス事業は、現在新型コロナウイルスの影響で中止しているが、一度に買い物に行く人数を減らすなどの対応策を模索しながら、再開、継続していくことを目標とする。また、この事業をきっかけに、さらなる地域と福祉施設との交流を促進したい。

３．実施内容

前年度にとった加盟施設アンケートでは、現在行っている地域貢献活動、これから地域の団体と協力できること・協力していきたいことを挙げてもらったが、それを地区担当と共有し、例えば既存の地域の事業と繋げられそうなものがあれば、福祉施設と地域とが話し合える場を設けたい。また、地区担当として、小松原地区内の福祉施設に地域福祉活動計画策定にあたって行われる福祉座談会等に参加していただき、その施設で地域の課題に対して何かできることはないかを地域住民の方々と一緒に話し合ってもらう。

４．成果（到達度）

小松原地区の買い物支援サービスについては、二度再開のための協議を行い、感染対策を行いながらの実施が検討されたが、都城市内での感染拡大もあり今年度中の再開は断念することとなった。各施設が感染対策に最大限の注意を払う中、地域の協議への参加を呼びかけることは難しかった。施設等連絡会の各部会の研修会も計画通りに行えなかったが、デイサービス部会では、Web 会議ツール Zoom を使用した意見交換会を行うことができた。また、研修の代わりに各部会でアンケートを実施、その結果を周知し、新型コロナウイルスに対する各施設での対応や困りごとなどの部会内での共有を図った。

５．考察

買い物支援サービスでは、施設との協議に終始してしまい、利用者の現状や声を聞く事ができなかった。また、実施したアンケートでの意見から、地域貢献に対する各施設の思いを知ることができた。記念誌を作成するにあたり募集した加盟施設に向けてのメッセージは加盟施設内で共有することで、改めて当会の、「開かれた施設」を目指し、地域に根ざした福祉施設を目指すという目的に立ち返ることができるのではと期待している。また、活動計画策定のための協議の中で地域の方々の地域をより良くしたいという熱意を感じたが、この地域住民と福祉施設の地域福祉に対する思いをつなぐことが今後の当会の重点課題だと考える。

６．今後の課題

地区担当として、地域の問題を「我が事」としてとらえてもらえるような声かけなど技術を身に着けていきたい。また、現在施設等連絡会は各部会ごとに展開しているが、分野を超えて地域貢献に特化した取り組みや地域に開かれた研修会の企画など、地域住民と福祉施設の繋がりづくりをしていきたい。

民生委員・児童委員協議会事務局の役割について
～民生委員と二人三脚で地域福祉～

地域福祉課　主事　内村　秀平

１．事業概要と目的（事業のねらい）

民生委員・児童委員は、地域福祉の担い手として、住民個々の相談に応じ、その生活課題の解決にあたるとともに、地域全体の福祉増進のための活動にも取り組んでいる。私は都城市民生委員児童委員協議会の事務局を担当しており、民生委員が活動しやすい環境づくりに取り組んでいる。

２．到達目標（実践仮説）

民生委員児童委員協議会事務局として実際の活動を把握することにより、地域の課題に気づき、解決のための支援や、民生委員活動に必要な企画立案等の支援ができるのではないかと仮設を立てた。また、地区担当として姫城地区の民生委員と地域めぐりを実施し、現地を歩き、見聞し、民生委員とともに考えることが、支援の一助に繋げられると考える。達成目標としては、担当地区世帯の実態を把握し、また、他地区の担当者の関わり等とも比較を行いながら民生委員とともに課題発見、解決を目指すこととする。

３．実施内容

民児協定例会で地域めぐりの趣旨について説明をし、担当民生委員と訪問を行う。また、地区担当定例会を活用し、他地区担当者の関わりや実態について調査する。

４．成果（到達度）

姫城地区担当として、地域めぐりという形での実践はできなかった。要因としては、コロナ禍の中で積極的な訪問活動ができなかったことなどが挙げられる。その中でも基幹が関わりを持っていた方の個別支援での訪問やケース会議を通して民生委員の実際の活動を把握することができた。また、定例会や地域での行事に参加し、姫城地区の民生委員との情報交換を行った。他地区の実態把握については直接現地を歩いて調査することはできなかったが、地区担当定例会での各地区の報告を受け、民生委員活動の幅広さを実感することができた。

５．考察

実際に訪問をして地域住民から「いつも頼りにしてます。」との声を聞き、民生委員が地域から頼られている存在ということが認識できた。また、高齢者や障がい世帯の見守りや、朝のあいさつ運動での見守り活動など、活動も多種多様であり、地域住民の身近な相談相手としての役割を担っていることが認識できた。その一方で、男性の民生委員だと一人暮らしの女性宅に訪問するときに門前払いされる地域や、民生委員がいるのになかなか訪問に来ないなどの相談があり､顔の見える関係づくりが必要であると考えた。共同募金助成事業として各地区ふれあい訪問を実施しており、活動報告書を通して民生委員の地域に寄り添う姿勢について考えることができた。また、そういった活動を他地区にも周知していくことが必要だと感じた。

６．今後の課題

今後は、15 地区の定例会に参加し、地区の方々との信頼関係等を築き、その中で地区の課題やニーズを把握し、役割分担を図りながら解決できるように努めていきたい。実際に訪問をする中で、民生委員の相談援助スキルの高さを実感した。私自身、経験が不足しており、相談対応に困る場面が何度かあった。民生委員の立ち振る舞い、言葉遣いなどを学び、今後の業務に活かせるようにしたい。また、姫城地区では買い物に困っている方が非常に多かった。生鮮食品店が少なく、交通手段が少ない現状である。解決するためには、地域住民や福祉施設などの社会資源を巻き込みながら今後展開していく必要があるのではないかと考える。他地区では、欠員地区の見守り活動をどのようにすればよいか？の声が挙がった。各地区での対応に任せている現状であるが、市民児協事務局としても欠員地区を減らしていく取り組みが必要であり、欠員があっても対応していける仕組みを考えていきたい。

発達段階に応じた福祉教育プログラムの実践と検証
～福祉教育ガイドブックの活用を通して～

地域福祉課ボランティアセンター　主事　井上　優子

１．事業概要と目的（事業のねらい）

都城市社会福祉普及推進校連絡会（以下連絡会）では、学校や地域における福祉教育を効果的に推進するために、平成30年度より、小学校・中学校・高等学校の各発達段階に応じた福祉教育プログラム開発に取組み、福祉教育ガイドブックとしてまとめ、連絡会加盟校65校および地域関係者へ配布した。今年度は、福祉教育を行う際にガイドブックを活用し、実践に対する検証を行いながら必要に応じてプログラムを見直すとともに、児童・生徒が自分たちの住む地域の課題に目を向け、積極的に取組むことができるプログラムについても検討し、学校での学びが地域での実践につながるよう働きかける。

２．到達目標（実践仮説）

福祉教育ガイドブックの各プログラムの内容について実践と検証を行い、必要に応じてプログラムの改善や追加を行うことで、学校や地域における福祉教育を、児童・生徒の発達段階や目的に応じてより効果的に実践することができるという仮説を立てた。そのために、ガイドブック活用について啓発し、各学校での実践につなげる。そして、実践をふまえたうえでの修正やガイドブックに掲載されていない多様なプログラムについても検討を行う。

３．実施内容

ガイドブックが学校や地域で活用されるために、各学校からの相談の際に積極的に案内し実践につなげる。そして実践後の気づきをもとに修正を加える。また、従来の車いす・アイマスク等の「体験型」の学習だけではなく、児童・生徒が様々な地域課題に気づき、主体的に考え実践できるサービスラーニングの視点を取り入れたプログラムについて検討を行う。昨年度社協内検討チームで提案された多様なプログラム案についても、完成に向けて検討を重ねる。

４．成果（到達度）

今年度は、コロナ禍による臨時休校等で総合的な学習の時間が削られ、福祉教育の推進やその中でのガイドブックの実践検証が難しい状況となった。そこで、コロナ禍でも出来ること、コロナ禍だからこそ出来ることを考え実践してきた。成果としては以下の４つである。①今年度も社協内検討チームによるプログラム検討委員会を定期開催し、コロナをテーマにしたプログラムや地域福祉の理解・防災等、昨年検討したプログラムも含めて協議を重ね追加プログラムとしてまとめた②相談があった学校に対して、今年度検討したプログラムを実践することで新たな気づきや効果を実感した③オンライン授業について検討し、連絡会加盟校への環境調査や協力者と学校をZoomで繋ぎテストを行った④コロナ禍における各学校の様々な取組みを、社協の広報誌や冊子にまとめて地域や連絡会加盟校へ発信した。

５．考察

コロナ禍により、これまでの「体験型」中心の福祉教育から、地域課題を知り・考え・実践に繋げる福祉教育へと転換するきっかけとなった。コロナ禍で福祉教育の相談が減少する一方で、福祉教育に重点的に取組む学校もあり、新たなプログラムの提案も柔軟に受け入れていただいた。そして、教員と丁寧に打合せを重ね一緒に授業に取組むなかで、児童生徒の「気づく力」が身につき、その後の地域での実践にも繋がった。改めてサービスラーニング型の福祉教育を広げていく必要性を感じた。

６．今後の課題

依然として体験型の福祉教育の相談も根強く、単発的な関りで終わってしまう学校が多いのも現状である。福祉教育で得た「気づき」を地域での実践に繋げる福祉教育を進めていくためにも、事前・事後への関りについても提案したり、今年度検討を行った新たなプログラムや、実際に実践した学校の事例とその効果を示しながら、より効果的な福祉教育について啓発し推進していく必要がある。

山田地区における地域力の向上を目指して
～小地域による取組から～

サテライト統括室　山田・高崎エリアマネジャー　山森　歌織

１．事業概要と目的（事業のねらい）

住民が主体的に地域福祉推進に関わりのある地域づくりを目指しており、山田地区では地区社協を軸に住民主体の地域支援が根付きつつある。これまで培ってきた住民主体の地域福祉推進が後退する事がないよう山田地区の地域力を向上するためにバックアップに取り組んできたが、日々変わる社会情勢の中地域課題は途切れることなく、これまで以上に地域の力が必要になってくる。これを踏まえ現在取り組んでいる「地域力推進事業」や「我が事・丸ごとの地域力強化推進事業」のレベルアップに努め、小地域からの地域力向上を目的とする。

２．到達目標（実践仮説）

これまで、様々な形で座談会を開き地域課題の抽出や意見交換を行なってきた。毎年同じように取り組んでいるが、今年度は、地域で集っている場所に出向き、小地域目線で地域の課題に向き合う事こととする。地域に足を運ぶことで、これまでと違う実情を把握できることや、新しい地域資源などの発見が期待される。小地域の取り組みに寄り添いながら、さらなる地域力の向上ができることを目標とする。

３．実施内容

各地区のいきいきサロンや、こけない体操等の地域の方が集う場所に出向き、地域の課題や、情報を抽出する。地区社協や、地区担当、生活支援コーディネーター等と情報を共有し、山田地区の地域力アップに努める。

４．成果（到達度）

コロナ禍という大変厳しい状況の中、今年度は「集う」という場がなく、自分が想像していた情報収集が思うようにできなかった。そのような状況下ではあったが､サロン活動を行っている地域に出向いたり、地区社協役員会での第４次地域福祉活動計画を協議していく中で、山田の現状と課題を再確認できた。また、生活支援コーディネーターの定例会においても、小地域での取り組みの情報を得るなど、新たな発見にもつながった。

５．考察

地域の方と接する中でコロナ禍という厳しい状況の中､「何もできない」から「何ができるか」という考えに代わっていく様子が伺えた。先にも書いた通り、地区社協を軸にこれまで培ってきた住民主体の地域支援が根付いていると感じる。例えば、ある地区では小学校の学校支援ボランティアが立ち上がり、地域と学校、地域と子どもの距離が近くなることで、地域の活性化が生まれており、近隣住民との関係性が希薄化されている現代の社会において、このような関係性を築けることは、住民同士の顔が見える関係ができ地域課題の早期発見につながると考える。今後、多くの地域でこうした取り組みが実践されるよう、地域福祉ニーズを的確に把握し、仕組みづくりをしていく必要がある。

６．今後の課題

山田地区は地域福祉推進の取り組みにおいては地域の基盤がしっかり構築されつつある地域だが、さらなる地域力向上にむけて今後はどう掘り下げていくか、どのように継続させていくか悩ましいところである。その背景には、どこの地区もサポーターの高齢化や担い手不足の悩みを抱えており、後継者発掘が大きな課題となっている。若い世代に向けての情報発信や意識付けを必要とし、リーダーやサポーターの発掘が急務である。今回地域に出向き、情報収集に努めたり、新たな地域資源を発見出来たことは大きな成果であり、根付きつつある住民主体の地域支援が後退することのないよう、今後の地域福祉推進事業の仕組みづくりに努めたい。併せて、今年度取り組んだ第４次地域福祉活動計画に基づきながら今後も小地域と向き合い地域力の向上を目指すこととする。

地域力共生社会の実現を目指して
～地域の問題課題を発見し地域力を高め、住みよい高崎を目指す～

高崎サテライト　主査　　坊地　清美

１．事業概要と目的（事業のねらい）

人びとの暮らしや地域のあり方が多様化している中、地域に生きる一人ひとりが尊重され、多様な経路で社会とつながり参画することで、皆が役割を持ち、支え合いながら生きる力を発揮できる「地域共生社会」の実現が期待される。今年度は、第４次市地域福祉活動計画策定に伴い、高崎地区の地域福祉活動計画（策定）に向け地区社協を中心に座談会等を実施し、様々な生活課題や困り事を丁寧に拾い上げ、浮かび上がった課題は地域住民や関係機関が共有するとともに、これからの高崎地区がどのような取り組みを実践すれば、住みよいまちになるのか考えていく。

２．到達目標（実践仮説）

座談会等で地域の生活課題や現状の把握を行い、明らかになった福祉ニーズを地域住民が共有することにより、福祉サービスを提供する新たな担い手の発掘や養成に向けての取り組みに結びつけることができる。

それには地域福祉の推進を主体的に実践できうる地区社協と連携し、①住民の主体的な関わりを促す②関わりから地域の生活課題・福祉課題の発見③生活課題等の解決策の協議④解決に向けての取組みを実践する等、丁寧に積み上げていく必要がある。また、生活支援コーディネーターやサブ担当、地域サポーターと連携し地域の実情に合わせた具現化できる活動を提案、地区地域福祉活動計画に反映させることを目標に掲げた。

３．実施内容

地域住民に対して、座談会等を実施する予定であったが、コロナウイルス感染症予防のため地区社協理事や高崎地区担当職員、アンケート結果をもとに意見を集約し、抽出された課題は、区分ごとに整理し地区地域福祉活動計画イメージに落とし込みを行った。

まず、平成 19 年度・平成 27 年度地域福祉活動計画改訂版をもとに、当時の住民の思いを時系列で整理し、遂行できたものできなかったものを取捨選択し住民が必要と思う事業は継続とした。これから取り組むべき課題についても、できうるものに限定し住民に負担のかからない内容とした。

４．成果（到達度）

課題の洗い出しをすることで、地域の実情に合った問題を発見することができ住みやすい地域づくりを目指すことができる。ただ、現状に即した課題が抽出できたが、各地区に回って直接住民に意見を聞くことができなかったため、潜在的な課題は把握できず、根深い問題が残されている感はある。以前からの課題である移動手段の問題が顕著に示されたことで、今後の実践内容が明確化された。

５．考察

高崎地区は住民の助け合いの意識は高く、様々な社会資源があるが、少子化が進み高齢化率は都城市で２番目に高い。このような現状を踏まえ、地域力を向上させるには、住民の主体的な関わりを地域全体で盛り上げていく必要がある。自地域の課題問題を把握することで、今後どのような取り組みをすれば、自らが考え乗り越えていく力が必要になり、そのための企画実践力が重要になってくる。

６．今後の課題

先にも述べたように少子高齢化が進む中で、地域の役員になり手が少なく、役の重複もあり過度の負担がかかり、様々の取り組みを嫌気する気配がある。しかし、物事を俯瞰しできる範囲で住みよいまちづくりを目指して、地域住民が支え合い・助け合いながら地域づくり・仕組みづくりを推進していくことが大切である。生活様式の変容により、今まではこうだったというだけでなく、これからはこのようにしようという気持ちの切り替えが必要になってくる。

多機関協働包括的相談支援体制構築事業の役割
～地域社会を支える多機関の連携～

生活支援課　多機関協働センターすくらむ　相談支援包括化推進員　宮島　多恵子

１．事業概要と目的（事業のねらい）

多機関協働包括的支援体制構築事業は、単独の相談機関だけでは対応できない課題や、既存の福祉サービスでは解決できない課題など、多様かつ複雑化した課題の解決のため、多分野に渡る関係機関の連携体制の構築を図り、対象住民や世帯の自立や、地域との関係の再構築を図るものである。また、分野を超えた連携を図ることによって横断的な相談や包括的な支援を可能とし、いわゆる“相談のたらい回し”を防ぎ、制度の狭間に陥らせない相談支援体制を目指すものである。

２．到達目標（実践仮説）

昨年度に受け付けた相談のうち、最も多かった内容は「生計」に関することであった。そのような状況下、新型コロナウイルスの世界的流行による経済活動の縮小は、地域住民の「生計」に大きな打撃を与えている。そのため、困窮が絡む複合的な課題の相談は、今後さらに増加することが予想される。また、新たに策定された第３期地域福祉計画に､｢包括的な支援体制の仕組みづくり｣が施策の柱として盛り込まれ、複合的な課題を抱える世帯に対する切れ目ない支援体制の構築は、実効性を持って臨まなければならない目標である。そこで、本年度の到達目標を、①生活自立相談センターや地域貢献活動を行う社会福祉法人との協働、②相談支援包括化推進会議をニーズキャッチや課題解決の場として活用する、③地域力強化推進員と連携した相談体制の検討の３点とした。

３．実施内容

多機関協働センターと生活自立相談センターを同じ窓口に置き、両センターに寄せられた相談の中から複合的な課題を抱える世帯を拾い上げ、課題ごとに必要な機関や相談窓口との連携を図った。社協内においては、地区担当者定例会や日誌を活用し、地域力強化推進員と相談事例を共有。個別課題から見る地域課題抽出について検討した。個別事例に対しては、相談者、関係機関、相談支援包括化推進員の３者以上が集まり課題整理や方向性を決定する協議を７世帯の事例において実施した。

４．成果（到達度）

令和３年１月末までに寄せられた相談のうち、最も多かった内容は「財産」に関することであり、全体の２割を超えた。その多くは、法律相談や他機関の専門相談へつなぐことで解決に至っている。当初想定していた「生計」に関する相談は１割に上り、生活自立相談センターと連携し対応することができた。その他、障がい者（児）基幹相談支援センター、児童家庭支援センター、医療機関、介護保険事業所、障害福祉事業所、行政各課など様々な機関と連携し事例を共有することができた。新型コロナウイルスの影響もあり、目標としていた相談支援包括化推進会議や社会福祉法人との協働については方法を再検討せざるを得なかった。

５．考察

生活自立相談センターとの協働によって、困窮が絡む複合的な課題を抱える世帯への気づきや、課題を受け止める体制は強化されたと考えられる。一方で、その他の課題を抱える世帯については、情報共有のみに留まる事例も多くあり、関係機関と共通認識を図った上でどのようにアプローチしていくか、専門職としての働きかけを考える機会となった。

６．今後の課題

今後、本事業は、地域力強化推進事業と一体的に重層的支援体制構築事業への移行を目指している。新事業においては、属性や世代を問わない相談・地域づくりの実施体制が求められている。また、複合的な課題を抱える世帯に対する切れ目のない支援を実現するには、事例ごとの個別支援計画に沿った関係機関との連携が急務である。個別支援計画に合わせた連携や支援の方法について関係機関と共通認識を図ること、地域力強化推進員とともにアウトリーチによるニーズキャッチを今後の目標としていきたい。

資料編

1. さちこだより

2. 生活支援コーディネーター通信

3. 各地区社協広報紙

都城市地区社協連協通信第1号【令和２年11月１日発行】

ささえあう ちいきの こうりゅう さちこだより

すっかり秋めいてきましたが、今年は、コロナウイルス感染拡大防止のために各地区総会をはじめ様々な活動が制限され、新しい生活様式・ソーシャルディスタンスをとっての日常が続いています。

そのような中、地域を元気に！支え合う地域の交流の場となるよう、市地区社協連協事務局として、各地区の活動を発信していきたいと思います。今回は各地区社協の会長と事務局長のメッセージをご紹介いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

生活おたすけサービス援助員養成講座

【令和２年７月１６日（木）】

場所：総合社会福祉センター

今回は、３月に中止となった養成講座に参加される予定だった方々を対象として実施しました。事業の概要と援助活動を行う上での心がけについての説明の後に、生活おたすけサービス事業の現役生活援助員からの話をしていただきました。

時間を短縮して行いましたが、質問や意見等がたくさん出て有意義な養成講座となりました。（受講者２１人、登録者１５人）

生活援助員木下さんのお話

感染対策をしてグループで意見を出し合う

生活支援コーディネーター意見交換会

【７月１３日（月）・７月１７日（金）】

総合社会福祉センター・志和池地区公民館

コロナウイルス感染予防のため、１５地区を３つに分けて、意見交換を行いました。「つながりを切らさないための方法についてみんなで考えよう」をテーマに①コロナで懸念される“高齢者の生活”や“地域の支え合い”の課題②コロナ禍でもできる“つながりを切らさないための方法”について意見を出し合いました。

集まれなくなったことで訪問活動を行ったり、情報発信の仕方を考えたりなど、アイデアを出し合いこれからできることを確認しました。

令和２年度地区社協会長・事務局長メッセージ

姫城

柿木原康雄会長　谷口悦子事務局長

【柿木原会長・谷口事務局長】
お互いに知恵を出し合って共に助けあえる社会にしたい。

妻ケ丘

二見重弘事務局長　渕上澄雄会長

【渕上会長・二見事務局長】
地域住民がいかに健康で普通の暮らしができるように、効果的な地域福祉の活動に取り組んでいるところでもあります。
住みよい福祉のまちづくりは、人と人との関係です。皆様方の積極的な関りに期待し、関係者一丸となって推進したいと思います。

小松原

福重勉事務局長　川路豊子会長

【川路会長・福重事務局長】
共に支えあい、お互いを理解しあい、安心して暮らせる小松原地区を目指して、みんなで頑張っています！

祝吉

荒武春男会長　小堀博子事務局長

【荒武会長・小堀事務局長】
コロナに負けず、地域でできることを見つけながら活動してきます。

五十市

福丸良秋会長　石井澄子事務局長

【福丸会長・石井事務局長】
五十市地区社会福祉協議会は「愛タウン五十市」の活動計画に基づいて取り組んでいますが、今年度はコロナ感染の影響でいろいろな制約の中、活動支援の内容を工夫し実施しています。今後も関係機関と連携して地域から信頼される組織を目指して頑張りますのでよろしくお願いします。

横市

横山一十三事務局長　溝ノ口光男会長

【溝ノ口会長・横山事務局長】
横市地区社協のスローガンでもある、「顔の見える地域づくり」をモットーに地域での支え合い活動に取り組んでいきます。

②

沖水

藤井光英会長　島田由美子事務局長

【藤井会長】
　10月となりコロナはどうなることでしょう。終息を願いたいと思います。みんなで大いに楽しい酒を飲みながらおしゃべりができるようにと期待したいと思います。
【島田事務局長】
　1週間に1回の沖水地区社会福祉協議会の開放で沖水地区の住民の方々の福祉、高齢者に関する困り事等、皆さんとふれあう事が多く自分の勉強にも役立っています。今後もよろしくお願いいたします。

庄内

上柳行雄事務局長　福村修会長

【福村会長・上柳事務局長】
　庄内地区に恩返しする気持ちで、今後も「ふれあい・つながり」を重視し、温かい地域づくりに取り組んでいきます！

中郷

永山かゆみ事務局長　稲元光明会長

【稲元会長・永山事務局長】
　地域の絆を大切にした活動を心がけています！

志和池

吉住洋一事務局長　黒木政信会長

【黒木会長・吉住事務局長】
　若年ながら頑張ります。どうぞよろしくお願いします！

西岳

竹松治男会長　山下輝義事務局長

【竹松会長】
　コロナと戦いましょう！
【山下事務局長】
　座右の銘は「人生、ポジティブに」

山之口

有川俊一郎会長　連城輝子事務局長

【有川会長・連城事務局長】
　新型コロナウイルスの感染拡大の中　何かと不自由を感じながらも身の安全は何物にも代えられないと、地区社協で取り組む多くの事業を中止しております。
　今後もコロナウイルスと共存する生活様式は不便さも多々ありますが、爽やかな気候に誘われて、感染対策を充分にして各事業の再会をめざしたいと思います。

③

高城

石田操会長　畠中和昭事務局

【石田会長】
　新型コロナに負けず、新しい生活様式の中、地域の絆は深めたいものです。
【畠中事務局長】
　地区内の行事が中止になったり、活動が制限されたりしているので、今後は地区内の住民の元気を取り戻せるよう、高城地区社協の活動を工夫して実施していきます。

山田

加覧健三会長　新穂美代子事務局長

【加覧会長】
　秋も深まる中で、新型コロナウイルス感染の早期収束を願うばかりです。厳しい状況下ではありますが、皆様方のご協力を得て様々なアイデアと工夫で福祉活動が続けられることを念願しております。
【新穂事務局長】
　コロナ禍でたくさんの人がネガティブな気持ちになりかけている。何かみんなで楽しいことはないかと考え「かかしっ子フェスティバル」を決断。みんなで成功にむけた準備の日々です。コロナに負けないぞ！

高崎

権堀修一会長　木下夕子事務局会計

【権堀会長】
　会長になり半年たちましたが、コロナの関係で事業が出来ないのが残念です。しかし、内部協議は定期的に実施していますので、状況を判断し感染対策を図りながら効果的な地域福祉づくりを展開したいと考えています。
【木下事務局会計】
　事務局と会計の兼務で、目先の業務に追われています。
　地域の皆様の協力により事業が遂行されており、地域のボランティアさんにはいつも感謝しております。事務局を受けたことで地区の人をたくさん知ることができました。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年の赤い羽根募金運動で活躍してくれたあいこちゃん(犬)
今年も募金運動始まりました！

【お知らせ】過去５年以上にわたり、積極的に地域福祉活動を実践している地区社協として、表彰されました。

「都城市長表彰」
- ●沖水地区社会福祉協議会
- ●庄内地区社会福祉協議会
- ●山田地区社会福祉協議会

「都城市社会福祉協議会会長表彰」
- ●妻ケ丘地区社会福祉協議会
- ●小松原地区社会福祉協議会
- ●高崎地区社会福祉協議会

【今後の予定】

◆11 月 15 日(日)10:00～12:00　山田かかしっ子フェスティバル(山田在住限定 200 名)
◆11 月 26 日(木)14:00～15:30　第2層生活支援コーディネーター研修会(五十市地区公民館)

<発行者：市地区社協連協事務局（地域福祉課/内田）>

④

都城市地区社協連協通信第2号【令和２年12月１日発行】

ささえあう ちいきの こうりゅう さちこだより

今年も早いもので師走ですね。with コロナ！コロナに負けるな！を合言葉に、住みよいまちづくりのために、様々な知恵と工夫で行っている地域の取組みをご紹介いたします。

なんでも相談員研修会開催

熱心に語り合う相談員の皆さん（上）

地区社協の歩みを説明する地域福祉課長（下）

令和２年１０月２２日（木）・１０月２９日（木）になんでも相談員が住民に寄り添い、相談を受け止め、地域で支えていくことを目指して研修会を行いました。

地区社協への相談概要やコロナ禍を踏まえた各地区の取組み紹介をした後、「もしも、自分がなんでも相談をするとしたら？」「では、身近な相談窓口とは？」をテーマに意見を出し合いました。

他己紹介をアイスブレイクとして、ペアになり名前、趣味、コロナが落ち着いたら行きたい場所を丁寧に聞き取り、皆さんに紹介してもらいました。そして、グループでは相談窓口のあり方や周知啓発の必要性について、また相談員のスキルアップについても意見が出され、今後の地区社協の目指すべき相談員の姿をイメージしました。

明らかになった課題もありましたが、各地区の取組みに生かしていただければと思います。

地区の取り組み

五十市地区社協では、毎年、１０月～１１月に開催している「ふれあい交流のつどい」が新型コロナウイルス感染症の影響により開催が難しくなったことから、今年度は「ふれあい訪問事業」を実施しました。対象者は自治公民館に加入している８０歳以上一人暮らし（約３５０名）で、保存のきく食品やレトルト食品などをお渡ししました。対象者の把握やお見舞い品の配布には自治公民館長、民生委員の協力をいただき、生活支援コーディネーターも一緒に訪問しました。

訪問した方からは「久しぶりに民生委員さんの顔を見ることができた！」「集まることもないので訪問してもらえて嬉しい」と喜びの声をいただきました。

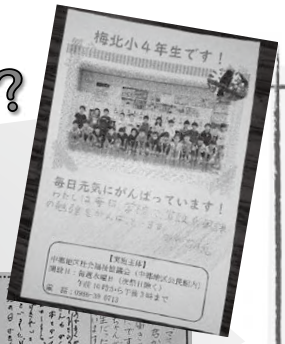
五十市地区「ふれあい訪問事業」

後田民生委員（左）と生活支援コーディネーターの石井さん（右）

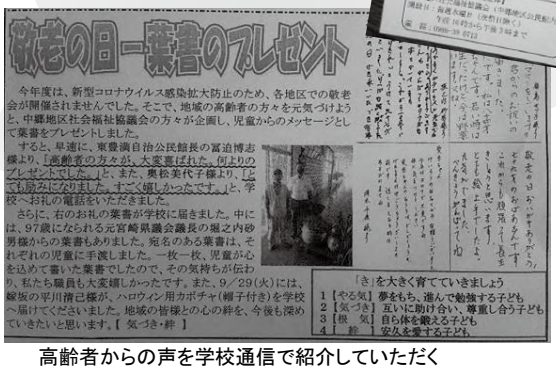
お見舞い品を渡す尾藤館長（左）と坂元民生委員（中央）

①

中郷地区「お元気じゃひか？なかんごう♪」



小学生が書いた絵手紙



敬老の日―葉書のプレゼント

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各地区での敬老会が開催されませんでした。そこで、地域の高齢者の方々を元気づけようと、中郷地区社会福祉協議会の方々が企画し、児童からのメッセージとして葉書をプレゼントしました。

すると、早速に、東豊満自治公民館長の冨迫博志様より、「高齢者の方々が、大変喜ばれた、何よりのプレゼントでした。」と、また、奥松美代子様より、「とても励みになりました。すごく嬉しかったです。」と、学校へお礼の電話をいただきました。

さらに、右のお礼の葉書が学校に届きました。中には、97歳になられる元宮崎県議会議長の堀之内砂男様からの葉書もありました。宛名のある葉書は、それぞれの児童に手渡しました。一枚一枚、児童が心を込めて書いた葉書でしたので、その気持ちが伝わり、私たち職員も大変嬉しかったです。また、9／29(火)には、線坂の平川清己様が、ハロウィン用カボチャ(帽子付き)を学校へ届けてくださいました。地域の皆様との心の絆を、今後も深めていきたいと思います。【 気づき・絆 】

「き」を大きく育てていきましょう
1【やる気】夢をもち、進んで勉強する子ども
2【気づき】互いに助け合い、尊重し合う子ども
3【根　気】自ら体を鍛える子ども
4【　絆　】安心を愛する子ども

高齢者からの声を学校通信で紹介していただく

中郷地区社協では、コロナ禍で地区の行事がすべて中止となり、外出自粛要請もあった中で、人と接する機会が奪われた高齢者に地域との繋がりを感じ、元気を出していただきたいとの想いから、中郷地区の２つの小学校に絵手紙作成の協力を依頼し快諾をいただき、地区社協事務局及び生活支援 Co が中郷地区公民館の協力のもと、自治公民館長を通して敬老祝い対象者に配布しました。（令和２年９月２０日（日）～２２日(火)実施）

受け取った高齢者から小学校にお礼の手紙が届くなど、新たな繋がりが生まれた活動となりました。

小松原地区「いきいき90歳写真展」

小松原地区社協では、地域で暮らす元気な 90 歳のご自宅を訪問して写真を撮り、地区まつりで展示する「いきいき 90 歳写真展」があります。今年は残念ながら地区まつりが中止となり展示はできませんでしたが、できることはしようと、今年 90 歳の希望者の写真を撮り、額縁に入れてプレゼントしました。カメラマンは福重事務局長。趣味で作った手芸作品やお庭、玄関をバックに…ご本人がこれまで生活してきた背景を、見る人が想像できるような素敵な写真となりました。

額縁に入れてお渡しするのはお一人の写真でしたが、ご家族と一緒に撮った写真も現像してお渡しし、中には４世代で撮った写真も！皆様から大変喜ばれました。

撮った写真を持っていただいてパチリ

4世代で記念撮影し、貴重な写真となった

【お願い】

各地区で第4期都城市地域福祉活動計画策定に取り組んでいます。地域の課題や今後の活動について、意見を出し合い、15地区の活動計画ができつつあります。もうひと頑張り、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

【今後の予定】

◆12 月 17 日(木)13:30～14:30　市地区社協連協事務局長会議(福祉センター2階研修室)

<発行者：市地区社協連協事務局（地域福祉課/内田）>

②

都城市地区社協連協通信第3号　【令和３年１月１日発行】

さ さえあう ち いきの こ うりゅう さちこだより

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。
今年は丑年。一歩一歩、着実に、つながり、支え合って、明るい一年にしたいですね。

地区の取り組み

横市地区「みそ汁の会」

昨年より**横市地区社協**では、地区内での「みそ汁の会」立ち上げを推進しています。この会は、皆さんが慣れ親しんだみそ汁を食べて、楽しく語っていただく憩いの場です。メニューはおにぎりとみそ汁。おにぎりを握って気軽に参加できる仕組みです。すでに、４地区で活動しており、炊き出し訓練と合同開催した地区もあります。参加者より、「元気か心配していた近所の方にみそ汁の会で会って安心した」や、「大人数で食べると何倍も美味しい！」「即席みそ汁を食べることが多いので、とても美味しかった」などの声をいただいています。

コロナ禍で満足に活動できないですが、新しいみそ汁の会を模索しながら進めていきます。

中蓑原自治公民館（11/15 参加者 25 名）
コロナ対策のため、屋外で炊き出し訓練を兼ねる。

尻枝自治公民館（12/21 参加者 20 名）
こけない体操最終日に感染予防を徹底した上で実施

志和池地区「在宅介護者のつどい」

介護者同士で情報交換

参加者で記念撮影

志和池地区社協では、在宅で介護をされている方が日頃の悩みを分かち合い、また、介護の仕方や制度について学ぶことを目的に毎年開催しています。

今年は、令和２年１０月２６日（木）に開催。前半は地域包括支援センターの職員より介護認定までの流れや各サービスについて学び、後半は介護者同士の情報交換会としてお互いのエピソードを語り合いました。１９年間、奥様の介護をされている男性は、慢性的な睡眠不足や病気に悩まされながらも上手に息抜きをされていたり、ご主人が介護状態でも自分が食べたいものがあれば一緒に連れていき、ご主人は車の中で、自分はお店に入って食べる！という上級者もいらっしゃいました。

苦労の中でも明るく乗り切る皆さんの話に、笑顔の絶えない介護者の集いとなりました。

①

西岳地区「忌明け寄付弁当配布サービス」

生活支援コーディネーターの吉盛さん（左）と新盛民生委員（右）

おいしいがねを揚げています♪

西岳地区社協では、１０月２４日～１１月７日の各週土曜日に、８０歳以上の方を対象に弁当配布サービスを行いました。コロナ禍で思うように事業ができない中、地域のために何かできることをしたいということで、皆様にご協力いただき実施することができました。

地域づくり部会（はるおさんげぇ）には、真心のこもったお弁当を手作りしていただき、配布まで。民生委員にも対象者の把握・配布の協力をいただきました。おいしいお弁当が届き大変喜ばれました。地域のためにという熱い思いが新しい活動につながりました。なお、費用につきましては、西岳地区の忌明け寄付を利用しております。

高崎地区「たかざき今昔物語」

高崎地区社協では、令和２年１０月２８日（水）、高崎小学校３年生（４５名）を対象に子どもたちと高齢者の昔を語る会「たかざき今昔物語」を開催しました。例年はオープンスクールとして日曜参観もかねて行われますが、今年は、コロナウイルス感染症予防のために平日に実施しました。語りべボランティア９名の方が「語りべ班」と「昔の遊び体験班」の２班に分かれて子どもたちと様々な体験をしました。

語りべ班の話しを聞いた子ども達からは、「空襲警報が授業中鳴った」「トイレが外にあった」など初めて聞いたことばかりで、今自分たちは幸せだと感じるとの声が聞かれました。昔の遊び班は、お手玉、コマまわし、缶ぽっくり、竹馬等を体験し、昔は道具が手作りで、使いながら上手になっていったとのことで、子どもたちからは、体がうまく動かせなかったがとても楽しい時間だったとのことでした。

缶ぽっくり

竹馬

昔の話を聞く

【お知らせ】

今年の“みやこんじょボランティアフェスティバル2021”は、新型コロナ感染防止のため中止となりましたが、地域のメッセージやボランティア活動の動画配信等を行います。詳細は後日お知らせいたします。お楽しみに♡

【今後の予定】

〇都城市地域福祉推進大会（中止）

〇地区社協の夕べ（中止）

<発行者：市地区社協連協事務局（地域福祉課/内田）>

②

都城市地区社協連協通信第4号　【令和３年２月１日発行】

さ さえあう ち いきの こ うりゅう さちこだより

今年は立春の日が動くため、節分の日は2月2日になります。恵方は南南東。無病息災、コロナを退治するためにも、豆をまいて邪気を払いたいですね。
では、今月も地区の取組みをご紹介します！

地区の取り組み

庄内地区社協では、１２月２６日（土）に、庄内小学校３・４年生を対象にした学習支援事業「庄内わくわくスクール」を行いました。この事業は、学習支援だけでなく地域交流を通じて庄内の未来を担う子どもたちを育む！ことを目的とした、庄内地区社協の初めての試みです。
当日は１７名の児童が参加し、冬休みの宿題やソーラーバッタ工作、ひむかおひさまネットワークさまを講師とした「地球温暖化防止について」の講話など大変充実した時間となりました。
晴天にも恵まれ、太陽光で動くソーラーバッタの相撲大会では、大人も子ども達も興味津々でたくさんの笑い声に溢れました。

庄内地区「庄内わくわくスクール」

前半は冬休みの宿題に取り組む子ども達

自分で作ったソーラーバッタで相撲大会

妻ケ丘地区「在宅介護者訪問事業」

介護者を訪問し労う
鳥越民生委員

感染予防を考慮して、マスク、消毒、ソープなどを差し上げた

妻ケ丘地区社協では、毎年１０月に行ってきた、「在宅介護者のつどい」を感染予防対策として、集わずに介護者を労うため、日常的に必要になったマスク、消毒液、ハンドソープ、ミニお茶セットを準備して個別に訪問しました。民生委員児童委員の調査をもとに、１１月に４４世帯へ配布しました。
コロナ禍で、介護する人もされる人も、心身ともに気が抜けない日々が続いているため、少しでも力になれればと、メッセージと地区社協のお知らせなども同封しました。訪問先の介護者からは「私たちのことを気にかけてくれてうれしい」との声もいただきました。

①

祝吉地区「茶ってぃサロン視察研修」

火を囲んでマシュマロを食べました♪

いきいきと過ごしている様子に
元気をもらいました。

祝吉地区社協では茶ってぃサロンや預かり保育など子育て事業にも力を入れており、16年目となった茶ってぃサロンが立ち上がった経緯や過去の活動を振り返る中で、昔のような「わくわく」がまたできたらいいなという声がスタッフからあがりました。そこで、１２月８日に「こどもが中心。こどもが主体。自分らしい「わくわく」を。」をテーマにしているおおむたこども園と縄瀬保育園で視察研修を行いました。

参加したみなさんからは、「こどもたちが主体、自分で考えを持って行動できるのがいいな」「茶ってぃサロンのお母さんたちも連れて行ってあげたい。」などの声が聞かれました。今後の内容の充実に向け、大変勉強になる視察研修でした。

毎年ボランティア学習会をする中で、多くのものを学び、地域がより活性化する活動をすすめていきます。

山田地区「子どもボランティア ひまわり隊」

山田地区社協では、コロナ禍でも地域の方々とのつながりを絶やさないことを目的に、子どもボランティア「ひまわり隊」によるボランティア活動に取り組んでいます。

今年度は、コロナ禍で思うように活動が出来ない中ですが、高齢者施設入居者の皆さんへ誕生日を祝う手紙を送ったり、12月には年賀状を寄せ書きで作成しました。入居者の方からは大変喜ばれ、お礼にと手作りの「栞」が届きました。

交流が制限される中ですが、お互いの思いが通じ合い、会えなくても交流を深めています。コロナが終息し、いつか会える日を楽しみにしているひまわり隊の子ども達です。

山田子どもボランティア「ひまわり隊」
（12 月 25 日　参加者 11 名）

霧峰園より、お礼の手作り「栞」
が届きました！

年賀状を寄せ書きで作成

【お知らせ】

「みやこんじょボランティアフェスティバル 2021 オンラインだよ！全員集合！」は、「つながりを絶やさない～みんなで集まれる、その日まで～」をテーマに開催し、これまでのボランティアフェスティバルで築かれた“つながり””絆“を次年度につなぐために、動画をインターネット配信することになりました。また、毎年実施してきた「ものものトレード」「フードドライブ」は実施し、物をとおして誰かのために自分にできることで繋がりとして、保存食や子供服などを募集します！動画の配信は、3月22日10時からの予定です。

〈発行者：市地区社協連協事務局（地域福祉課／内田）〉

②

都城市地区社協連協通信第5号　【令和３年3月１日発行】

さ さえあう ち いきの こ うりゅう さちこだより

今号で、15地区の活動紹介がひとまわりできました。各地区の創意工夫と、支え合いの心で取り組んでいることに、地域の底力を強く感じています。

また、現在撮影中の、「15地区社協わがまち自慢クイズリレー」では、地域のパワーを発揮していただいております。楽しい動画になりそうで、配信が楽しみですね！

地区の取り組み

姫城地区の各自治公民館では、ふれあいいきいきサロン活動の一環として毎年実施してきた「三世代交流もちつき大会」が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。

例年であれば**姫城地区社協**よりいきいきサロン助成金をお渡ししていましたが、今年度は「マスク、消毒液、ゴム手袋」を14自治公民館に配布することとなりました。

今年は実施できませんでしたが、子どもたちと地域の居場所として多くの自治公民館で実施できるようこれからも支援していきます。

姫城地区「三世代交流事業」

柿木原会長（左）より北別府館長（下長飯）へ配布物の贈呈

14自治公民館に配布しました

高城地区「三恭電設㈱地域連携支援金」

真ん中の方が、三恭電設㈱
瀬戸口香　代表取締役

地域連携支援金を活用し、トイレの改修工事をされた一般社団法人福(ふく)八(はち)さん

高城地区社協は、令和２年５月に、三恭電設㈱（岡山県倉敷市。代表取締役：瀬戸口　香(かおる)氏）より寄付金100万円をいただきました。

瀬戸口氏が、高城町石山地区出身で、地元のみなさんの地域福祉活動に役立ててくださいとの趣旨で、お寄せいただいたものです。

いただいた寄付金を「三恭電設㈱地域連携支援金」とネーミングし、高城地区内で熱心な地域活動をされている９団体に配布させていただきました。

①

沖水地区「福祉標語」

沖水中学校にて藤井会長に表彰される中学生

沖水小学校へ地区社協役員が出向き賞状授与

沖水地区社協では、沖水小学校（５・６年）沖水中学校（２・３年）の児童・生徒に福祉標語を考えていただき、優秀作品はおきみず祭りで表彰するといった取り組みをしています。

今回はコロナの影響でおきみず祭りが中止になり、沖水地区社協役員が小学校と中学校に出向き、賞状と参加賞（図書券、沖水地区社協名入りのシャープペンシル）をお渡ししました。優秀作品は地域の公共施設等へポスター掲示し、地域住民の福祉への関心が高まり、小学生や中学生に対しては、福祉について考える機会の場となっています。

山之口地区「いきいきサロン全体研修会」

山之口地区社協では、各地域でのいきいきサロン活動を通して地域の方々の、生きがいづくり・健康づくり・高齢者の見守り等を目的とした活動を推進しております。各地域では、リーダーを中心に年間を通して愉しい活動が展開されております。

今年は、コロナ禍にも負けず声掛け見守り活動をされるグループもあります。年１回は１日かけて全体研修を実施して、学習会・講演会脳トレレクリエーションを開催して参加者に喜ばれております。

今年度は、コロナの関係で人数を制限してフラワーアレンジ教室を行いました。参加者からは、花に癒された愉しい時間だったと喜びの声があり、地域のサロンでも実施したいと希望がありました。デジタル体温計・消毒液を配布して活動の支援も行いました。

脳トレや楽しく体を動かすリーダーさん

花の力でコロナストレス解消

【お知らせ】

第4次都城市地域福祉活動計画の策定作業が終わり、策定委員の皆様への最終確認となりました。来年度の総会で全体にお披露目することとなります。よろしくお願いいたします。

【今後の予定】

3月 4日(木)13:30～市連協事務局長会議(総合社会福祉センター2階研修室)
3月15日(月)13:30～市連協三役会(総合社会福祉センター2階研修室)
3月22日(月)13:30～市連協理事会(福祉会館2階大集会室)

〈発行者：市地区社協連協事務局（地域福祉課/内田）〉

②

生活支援コーディネーター通信

5月 みやこんじょ

第1号
令和2年5月

生活支援コーディネーター通信

皐月
田植の月という意味の早苗月（さなえづき）が省略されて「さつき」になったという説や、早苗の「さ」自体に田植の意味があるため「さつき」になったという説などがあります。

新型コロナウイルス感染症の影響で日常生活も生活支援コーディネーターの活動も自粛が続いていると思います。集まったり、顔を合わせたりできない中、自宅に引きこもり※フレイル状態になる高齢者が増えているといわれています。

そのような中、集まれなくても「つながる活動」が始まっています。私どもも会議等ができなくても、情報やつながりが途切れないように、定期的な通信発行や他団体の様々な情報を発信していきたいと思いますので、参考にしていただければ幸いです。

※フレイルとは、健常から要介護へ移行する中間の段階のこと。徐々に要介護状態に陥ると考えられている

あいさつ

○中村（なかむら） 智香美（ちかみ）（第1層生活支援コーディネーター／市介護保険課 包括ケア担当）

はじめまして。花々が咲き誇るこの春、4月よりお世話になります。

皆様の豊富な経験を拝聴しながら人と人とのつながりを大切に、まずは地域のことをたくさん知りたいと思います。新任ですが、よろしくご指導ください。

自粛が続いておりますが、皆様とお話できる日を楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

○事務局体制／市介護保険課 築地 洋子、都城市社会福祉協議会 岩﨑 美華

活動紹介

新型コロナウイルス感染症の影響で、各地区のサロンもできない状況が続く中、新たな方法で活動されている地区を紹介します。

祝吉自治公民館では、会食など集まることができないため、生活支援コーディネーターや民生委員、ボランティアさんが話し合い、非常食（乾パンと非常用水）を65歳以上の一人暮らしの方に配布しました。防災グッズを配布することで、「自助」について考えるきっかけを作ったということでした。

集まれなくても、つながりを切らさない、さらには自助について考えるきっかけづくりを行う素敵な活動をされています。

「生き生きサロン（給食サービス）」変更について

例年、祝吉自治公民館により3月に計画していましたが
「緊急事態宣言」を身近に体験した今、形式を変えて実施します
防災避難グッズのリストの中から選んだものを配布します
【「自助」＝自分の身は自分で守ろう】を
考え実行するきっかけになれば・・・と思います

配布時期 令和 2年 5月
配布対象 65歳以上の一人暮らしの方
配布内容 保存水、保存食

♪ ほっこりニュース ♪

兄の家にアーモンドが実ったそうです。花は桜のようですね。日本でも育つのですね。アーモンドはアンチエイジング効果や生活習慣病の予防効果などが期待できるそうです♪

発信元：都城市社会福祉協議会
地域福祉課

7月 みやこんじょ 生活支援コーディネーター通信

第2号
令和2年7月

～世界の高齢化率と平均寿命～
ネパール:5.73%、70.17 歳
中国:10.92%、76.70 歳
アメリカ:15.81%、78.54 歳
スウェーデン:20.10%、82.51 歳
（データ元:グローバルノートより）

活動紹介

横市地区

こけない体操やサロンなど開催自粛している中、GW期間中に親族が帰省できなかった 80 歳以上の単身高齢者宅6件に手作りのおはぎといりこもちを配布しました。玄関先で数分間顔を見る程度に収め声掛け重視で行われましたが、久しぶりに会うことができた喜びと安堵の表情が見られたようです。

6月から徐々にこけない体操を再開され、なかなか人とのコミュニケーションが少ない状況であったため、久しぶりにお会いする地域の方はマシンガントークだったとのこと。

熱中症対策にもなるように通気性の良い「さらし」夏用マスクを作成

横山事務局長と六部一 SC

～六部一 SC よりメッセージ(願い)～
1日1回は外に出て、美味しい空気を思いっきり吸って元気を出しましょう！そして、隣近所に声掛けをして、歩いて、体力をつけて頑張っていきましょう！高齢者“も”元気な横市に！！

庄内地区

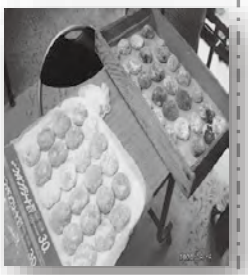
月1回4地区で昼食交流会「おじゃったもんせ」を実施していましたが、コロナウイルスの影響で開催ができず、「皆さん元気かな？」「毎月やってきたことができないと張りがないし寂しいね」と支え隊から声があがりました。そこで、話し合いをし、5月によもぎ餅を作り約 70 人の参加者にお手紙とともに友愛訪問しました。参加者は大変喜ばれ、近況を確認出来て一安心でき、「再開できることを楽しみ」、「再開できなくてもまたなんかすかいね！」と声が上がったとのことです。

オッシャー・ベリーハウス事務局員今ヶ倉さんにお伺いしました。

♡よもぎ餅に添えたお手紙♡

皆さんお元気ですか？

コロナウイルス感染防止のため「おじゃったもんせ」が開催出来なくなって3ヶ月になります
みなさんのお元気な顔、笑い声、おしゃべりが懐かしく、集まれていた頃が当たり前ではなく大切だったと感じています
今日は支え隊で「よもぎ餅」を作りました
どうぞお茶と一緒に、よく噛んで喉に詰まらないようにして季節の味をお楽しみくださいね～♡
皆さん、くれぐれもお体大切に、また逢いましょうね～！　オッシャー・ベリーハウス



よもぎ餅と作成の様子

♪ ほっこりニュース ♪
手作りマスクが流行っており、今回は社協職員の素敵なマスクを紹介します。山之口出身のため、弥五郎どんと棒踊りの絵の手拭いを再利用してお母さまが作成されたそうです。地元愛を感じます！

皆様からの情報やご意見ご要望お待ちしております！

発信元:
都城市社会福祉協議会
地域福祉課

9月 みやこんじょ 生活支援コーディネーター通信

第3号
令和2年９月

～新型コロナウイルス「3 つの顔」～
・第1の感染症「病気」
・第2の感染症「不安」
・第3の感染症「差別」
3つの感染症はつながっており、負のスパイラルを生みます！※詳しくは別紙の日本赤十字社発行資料をご覧ください。

～活 動 紹 介～

山之口地区

新型コロナウイルス感染症の影響で外出が減っている中、８５歳一人暮らし女性がご自分の認知症予防もかねてチラシを利用しチリ箱を作成されました。そのチリ箱を活用してもらおうと、生活支援コーディネーター（SC）の米澤さんが近隣の高齢者施設に届けられたそうです。

また、この８５歳の方は、ご近所の９０歳の方の見守りもされており、入浴時にご自宅に伺いお風呂の準備やお風呂から上がってこられるまでの見守りを行っているとのことでした。

チリ箱利用状況

米澤 SC（右）がチリ箱を施設に渡す様子

☆米澤 SC より一言☆

自身の健康管理のために作った物が、必要とされる人のもとに届けられ人の役に立つものとして喜ばれるような橋渡しができ、双方が喜んでいただいています。

チリ箱を作ってくださった方は、自身の健康のためのライフワークの一部になっており、人の役に立っていることで励みになっているようです。

♪ お知らせ ♪

地域福祉課が2階に引っ越しました。眺めが良く、より一層よい環境になりました！

近くにお越しの際はぜひ遊びにいらしてください♡

皆様からの情報やご意見ご要望お待ちしております！

発信元：
都城市社会福祉協議会
地域福祉課

12月 みやこんじょ 生活支援コーディネーター通信

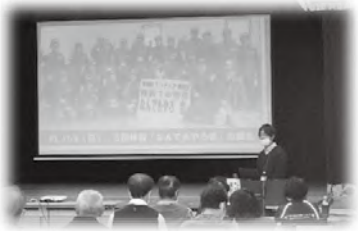
第４号
令和2年12月

発信元：
都城市社会福祉協議会
地域福祉課

皆様からの情報やご意見ご要望お待ちしております！

☆令和2年度第2層生活支援コーディネーター研修会開催☆

日時：11月26日（木）14：00～15：30　　参加者：64 名（SC、地区社協役員、包括職員他）
内容：小林市「有償たすけあいサービス」について
講師：小林市社会福祉協議会　第1層生活支援コーディネーター　橋谷　大（ひろい）氏



みなさん興味津々

マスク着用とソーシャルディスタンスを徹底

小林市では、「ただは高けとよ」という声をきっかけに、ちょっとした困り事に対する有償ボランティアが発足されました。地域住民中心に話し合われ、「できる人が、できる事を、できる時に！」をモットーに活動されています。研修では橋谷氏が立ち上がった経緯や進め方、当事者の声などを説明してくださいました。

参加者からは、「お互いに気を使わない有償ボランティアというのが良い」「この地区に住んでよかったと思えるよう自分の元気なうちに立ち上げられたらいいな」といった感想が聞かれました。

今回の研修をきっかけに地域に合わせた地域福祉を皆さんと進めていけたらと思います。

活動紹介　五十市地区「ふれあい訪問事業」

五十市地区では、毎年開催している「ふれあい交流のつどい」が新型コロナウイルス感染症の影響により開催が難しくなったことから、今年度は「ふれあい訪問事業」を実施。自治公民館に加入している80歳以上の一人暮らし（約350名）にレトルト食品などをお届けしました。対象者の把握や配布には自治公民館長、民生委員の協力をいただき、生活支援コーディネーター（SC）も一緒に訪問しました。

生活支援コーディネーターの2人は自治公民館長への説明や仕分け作業などの準備を行い、民生委員が欠員の地区には公民館長と一緒に訪問も行いました。生活支援コーディネーターは普段は訪問する機会がありませんが、このような事業で各世帯を訪問することで生活支援コーディネーターについて知ってもらうきっかけとなり、PR 活動にもつながりました。

自治公民館長へ丁寧な説明（全3回）

お見舞い品を渡す民生委員（左）と石井 SC（右）

生活支援コーディネーターの名刺を同封し周知

生活支援コーディネーターの感想

〇公民館長が直接訪問できる機会になり、よかったです。また、コロナ禍の中で沢山の方を招いての会はできないけど、こんな形もありと思いました。（沼口 SC）
〇知らない地域にいかにして入れるか心配していましたが、地域の館長・民生委員の方と訪問できて皆とのつながり、絆ができたと思います。（石井 SC）

各地区社協広報誌紹介!!

姫城地区社会福祉協議会だより

第12号　令和3年3月1日発行
発行者　姫城地区社会福祉協議会

「地区社協だより」の発行にあたり

令和2年度はコロナ禍のもとで、毎日が思いをしなければならない年となり、本当に残念であります。地域の行事が始め、学校行事等もことごとく縮小するか、自粛するかを迫られることになり、不完全燃焼感まぬぐい年でした。

しかしながら、それでも「時」は刻々と過ぎていきます。あっという間に弥三の月を迎えようとしています。

県内では、感染拡大の緊急事態宣言が解除されるには少し時間がかかりそうです。今年、かかりのあるすべての人と共に助け合い、少しづつ「3密」を避けて行動することにより、楽しく活動ができる日がくると確信します。

終わりに地域のみなさまのご健勝をお祈りし、ごあいさつといたします。

姫城地区社会福祉協議会　会長　柳本恵美子

令和2年度 姫城地区社会福祉協議会 役員紹介

役員	氏名		所属
会長	柳本恵美子	再任	姫城北区自治公民館連絡協議会会長
副会長	吉河 正美	再任	姫城北区高齢者クラブ会長
副会長	芦原 志郎	再任	姫城北区自治公民館連絡協議会副会長
会計	西田美智子	再任	姫城北区生活支援コーディネーター
事務局長	谷口 恵子	再任	姫城北区民生委員児童委員
委員	野口 幸子	再任	姫城北区民生委員児童委員
委員	田村 治弘	再任	姫城北区生活支援コーディネーター
監事	小林リツヨ	新任	姫城北区高齢者クラブ女性部長
監事	上田 裕子	新任	姫城小学校PTA会長

姫城地区社会福祉協議会の構成メンバー

自治公民館連協、民生委員児童委員連絡、高齢者クラブ連協、婦人連協、上毛同盟連協、姫城地区PTA、生活支援コーディネーター等によって構成されて運営されています。

生活支援コーディネーターの紹介

都城市社会福祉協議会では、地域に住む65歳以上の高齢者が、住み慣れた地域の活動に参加したり、生活支援の担い手として活躍できるよう応援する役割を担う、生活支援コーディネーターを配置しております。

姫城地区は、伊村治美（西町）、鎌田美智子（八幡町）が担当しております。

みなさんの元気を支えます

姫城・中郷地区地域包括支援センター

地区包括支援センターは、高齢者方皆様が住み慣れた地域で安心して生活が続けられるように支援する総合機関です。

※地域連携の強化

姫城北区社会福祉協議会や姫城地区民生委員児童委員協議会とのより連携を強化します。

【連絡先】
住所　都城市上町17街区19号
電話：26-8339
お気軽にお電話ください。
ご自宅に伺い、ご相談にのらせてもらいます。

姫城・中郷地区地域包括支援センター職員の皆様

姫城地区社会福祉協議会の基本目標

われわれは、少子高齢化が急速に進んでおり、福祉社会となっております。さらに近隣は大型の地震などの自然災害のほか、経済情勢や厳しい雇用情勢から貧困化が進んでおり、生活困難者の問題が深刻化しています。このような中で、人と人のつながりや支え合い助け合いの機能がますます重要に移ってきています。

姫城地区社会福祉協議会（ふれあいよかとこ姫城地区活動計画基本目標）

☆ みんなでつくるひめぎの輪
☆ みんなで取り組む元気なまちづくり
☆ 学び合うことからのんびりつくり

の実現を目指し、上記の趣旨を、踏まえながら地域福祉の向上に向けて取り組みます。

主な取り組み

◎「健康福祉相談」の開設
姫城地区「ふれあい文化祭」の開催時に、福祉支援センター専門員による健康相談等を実施。

◎「土曜学習会」の支援
第1、第3土曜日に小中学生方学習支援事業。

◎「役員・構成員の研修」推進
介護施設や構成員等で構成員の研修。

◎「こども育成活動」の支援
地区内児童生徒を対象に読み聞かせ活動を支援。

◎「在宅介護者のつどい」の取り組み
在宅介護者を対象に情報交換や交流を目的に開催。

◎「世代間交流活動」の支援
「おかず作文」、「門松づくり」等の支援。

妻ケ丘地区社協との意見交換会

こども育成活動

役員会

土曜学習会

在宅介護者のつどい

世代間交流事業

福祉なんでも相談（お気軽にお越しください）

姫城地区社会福祉協議会事務局の開設日に「福祉なんでも相談」を開設しております。

- 開設日　毎週木曜日・9時～12時まで
- 場　所　中央公民館（第1研修室）
- 連絡先　TEL 080-2772-9658

紙オムツの支給

- ＊対象者　県外、在宅で紙オムツを使用している方
- ＊期　間　2ヶ月1回、毎週木曜日、9時～12時
- ＊実施場所　中央公民館（第1研修室）
- ＊料　金　無料（費用は、都城社会福祉協議会への支援付、善意寄付等から）

「姫城地区社会福祉協議会だより」は、赤い羽根共同募金の助成事業により作成しました。

妻ケ丘地区社会福祉協議会　福祉だより

えがお

第９６号　令和２年１１月１日発行　発行責任者　渕上　澄雄

ごあいさつ

妻ケ丘地区社会福祉協議会会長　渕上　澄雄

コロナ、コロナで収束の気配が見られず、感染症予防のため諸行事が自粛となり活気が見られない昨今で、生活苦に陥っている世帯も増加している現状があり、福祉の関りが益々期待されています。

さて、妻ケ丘地区社会福祉協議会においても予定していた「男性料理教室」「在宅介護者のつどい」「視察研修」等中止となりましたが、このような状況の中でも福祉活動が推進されるよう各民主団体と連携をとり、共同活動を推進しているところです。地域住民がいかに健康で普通の暮らしができるように、効率的な地域福祉の活動に取り組んでいるところでもあります。

住みよい福祉のまちづくりは、人と人との関係です。皆様方の積極的な関りに期待し、関係者一丸となって推進したいと思いますので、ご協力方よろしくお願いしましてあいさつといたします。

～地区社協の事業～

福祉なんでも相談開設日　（日時）毎週水曜日　9:00～12:00
（場所）妻ケ丘地区公民館　第3研修室

紙おむつ支給事業
都城市に在住し、現在、在宅でおむつを使用されて介護を受け、生活をしている方に対して、紙おむつを2か月に1回支給します。申請と支給窓口は、妻ケ丘地区社協事務局（地区公民館）で行っています。開設日にご相談ください！

子育てサロン"にじ"
毎月第4水曜日 10:00～12:00　妻ケ丘地区公民館1階和室にて開催
目的:リフレッシュできる場づくり、遊び場づくりや子育ての相談など
対象:未就学児のいる親子　※今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、11月まで中止です。

◆活動団体紹介◆

「妻ケ丘地区民生委員児童委員協議会」

妻ケ丘地区民児協では、地域の方々に寄り添い、その生活課題の解決や安心・安全な地域づくりの実現のため活動を展開しています。

その活動の一つとして、毎年赤い羽根共同募金の助成を活用して「高齢者宅特別友愛訪問」を行っています。

これは 75 歳以上の一人暮らしの高齢者並びに 80 歳以上の夫婦高齢者宅へ訪問する際に日用品をお届けし、日常生活における相談に応じさせていただいております。

今後とも地域の皆様の身近な見守り手として、また、行政・関係機関との繋ぎ役としての活動を推進してまいります。

（妻ケ丘地区民児協会長　盛満　和男）

ヘルスメイト応援！「サバ缶のスペイン風オムレツ」

材料（4人分）

- 卵……4個
- サバ水煮缶…1缶（150ｇ）
- キャベツ……200ｇ
- ピザ用チーズ…30ｇ
- スキムミルク…大さじ2
- 塩……少々
- こしょう……少々
- オリーブオイル…大さじ1
- （アイオリソース）
- ［マヨネーズ……大さじ2
- にんにく（すりおろし）少々］

作り方

①キャベツは1cm角に切る。サバ缶はフォークで粗くほぐす。
②卵はボウルに溶きほぐし①、ピザ用チーズ、スキムミルク、塩、こしょうを加えて混ぜる。
③直径 20 cmのフライパンにオリーブ用チーズ、スキムミルク、塩、こしょうを加えて混ぜる。
④③の上下を返し、蓋をしてさらに弱火で3分焼き、火を止めて2分程蒸らす。
⑤アイオリソースは、よく混ぜる。
⑥④を切り分けて盛りつけ、アイオリソース添える。
（食生活改善推進協議会妻ケ丘地区会長　松尾　伊津子）

◆各地区の活動紹介◆

「一万城東部自治公民館友愛ネット会発足」

一万城東部自治公民館では、高齢者の見守りを兼ねた、リサイクルごみの訪問収集を行っています。昨年12月から開始し、現在は9人の対象者を毎月１回、第2・第4日曜日に、個別に訪問して行います。収集が不要な場合は、収集不要の立て札を出してもらい、毎月の様子を伺いながら、一人暮らし高齢者の見守り活動「友愛ネット活動」につなげています。歩行が困難な利用者からは、大変助かっていると言ってもらっています。

今後は、民生委員児童委員と連携しながら、対象者の拡大を進めています。（一万城東部自治公民館長　米澤　由美子）

リサイクルごみ回収の様子

「若葉自治公民館での地域意見交換会」

「私の思う住みよい若葉町」「私の望む公民館活動」をテーマに参加者13人で意見交換を行いました。今後の社会状況に対する認識、価値観の変化を踏まえ、地域活動に対応していく必要があり、特にイベント中心から個々のニーズに目を向けた活動の積み重ねが重要との意見が多数ありました。

さらに、活動をしていくことを共有し、各団体の活動に生かしていくことを確認する有意義な意見交換になりました。

（若葉自治公民館長　日高　裕文）

車座トークの様子

ある横顔

上長飯町竹町　下東　末吉(84)さん

朝5時のウォーキングから一日が始まる。健康寿命を延ばすための体力維持というより、ハンドグリップを持って歩く姿は、体力鍛錬のために歩くと言った方がピッタリの84歳の御仁です。

家事等を終えた後、雨天以外は居住環境を先ず整えてから近くの畑に移動。日課の野菜作りに動しむ日々を過ごしています。

地域の皆さんに支えられ、「感謝」を忘れず日々精一杯生きていきたいという横顔が印象的でした。（竹町地区民生委員児童委員　満行　優）

下東　末吉さん

◆お知らせ◆

妻ケ丘地区社会福祉協議会は今年度、過去５年間以上にわたり、積極的に地域福祉活動を実践している地区社会福祉協議会として**都城市社会福祉協議会会長表彰**を受けました。

これからも、より一層、地域福祉の推進に努めていきます。

◆今後の予定◆

毎年行っていた「在宅介護者のつどい」を今年度は、集わず、訪問型で行います。対象宅へ記念品をもって訪問して介護者を労いたいと思います。

妻ケ丘地区社会福祉協議会　福祉だより

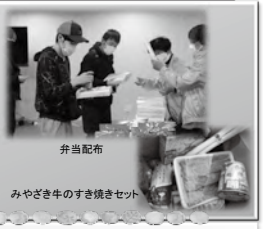
えがお

第９７号　令和３年３月１日発行　発行責任者　渕上　澄雄

……妻ケ丘地域トピックス……

「都城市食生活改善推進員連絡協議会」と「南九州大学地域応援団かたらん花」が協働して、コロナウイルス感染症の影響により、外出自粛を余儀なくされている大学を元気づけようと、地元の食材を使った愛情弁当の提供や地元の食材と料理レシピをいれた「何でも挑戦セット」の提供を行いました。(2月9, 12, 16日)

県外の学生が多く、帰省もできない、アルバイトもできない状況で、不自由な生活を送っているため、地域で支える取組みとなりました。学生からも感謝の言葉をいただきました。（食生活改善推進協議会妻ケ丘地区会長　松尾　伊津子）



弁当配布

みやざき牛のすき焼きセット

～地区社協の事業～

福祉なんでも相談開設日　毎週水曜日 9:00～12:00(場所:妻ケ丘地区公民館 第3研修室にて)

※4 月よりサテライトとして新しく開設！毎月第4木曜日10:30～14:00(一万城東部公民館にて)

紙おむつ支給事業

都城市に在住し、現在、在宅でおむつを使用されて介護を受け、生活をしている方に対して、紙おむつを2か月に1回支給します。申請と支給窓口は、妻ケ丘地区社協事務局(地区公民館)で行っています。開設日にご相談ください！

子育てサロン“にじ”

毎月第4水曜日 10:00～12:00　妻ケ丘地区公民館1階和室にて開催

目的:リフレッシュできる場づくり、遊び場づくりや子育ての相談など

対象:未就学児のいる親子

◆活動団体紹介◆

「公民館活動」

住みよいまちづくり、福祉のまちづくりの実現に向けて、16地区の自治公民館が中心的活動を展開しています。PTA 活動の支援から高齢者活動まで、各民主団体活動を支援し、推進しています。また、主催行事として、夏祭りや敬老会をはじめ、地域伝統の行事や友愛活動など、地域住民の融和を深める活動など展開しているところです。

今後の活動で課題になっていることが、公民館加入世帯が減少傾向にあることです。住民同士のつながりが、希薄化しつつあることです。

お互いに助け合う地域社会づくりに向けて、各自治公民館が情報を交換し共有しながら、今後とも福祉活動を推進したいところです。

（妻ケ丘地区自公連福祉委員会）

ヘルスメイト応援！「ひじきの香ばしミルク煮」

材料（4人分）

ひじき……15ｇ
にんじん
玉ねぎ……1/3 本

Ⓐ
牛乳……250 ㎖
砂糖……小さじ 2
しょうゆ……小さじ 1
かつお節……3ｇ
すりごま……大さじ 1

作り方

① ひじきは洗って、水に浸して戻し、水気をきっておく。
② にんじんは 3～4 ㎝長さの千切りにする。玉ねぎは薄切りにする。
③ 鍋にAを入れて中火にかけ、ふつふつとしてきたら①と②を入れ、汁気がなくなるまで中火で煮る。
④ ③にすりごまを入れ、火を少し強め、混ぜながら水分をとばす。

（食生活改善推進協議会
妻ケ丘地区会長松尾伊津子）

◆地区社協の活動紹介◆

「子育てサロン“にじ”　クリスマス会」

毎月第4水曜日に開催している子育てサロン“にじ”は、コロナウイルス感染拡大を防ぐため、中止を余儀なくされていました。「それでも何とか開催できないか」と、12 月は地区公民館の玄関口でクリスマス会を決行しました。初めて参加の親子を含めて 11 組の親子が参加し、晴天の寒空の中、屋外で絵本の読み聞かせやサンタクロースの歌を歌い、短い時間でしたが、楽しいひと時を過ごすことができました。サンタさんから子ども達にはプレゼント、お母さん達には、ペチュニアの花鉢を用意。それぞれの家庭で育てて楽しんでもらいたいと思います。

（子育てサロンにじ代表　寺田　のり子）

クリスマスの絵本の読み聞かせ

「妻ケ丘地区　在宅介護者訪問事業」

妻ケ丘地区社協では、毎年10月に行ってきた、「在宅介護者の集い」を感染予防対策として、集わずに介護者を労うため、日常的に必要なマスク、消毒液、ハンドソープ、ミニお茶セットを準備して個別に訪問しました。民生委員児童委員の調査をもとに、11月に44世帯へ配布しました。

コロナ禍で、介護する人もされる人も、心身ともに気が抜けない日々が続いているため、少しでも力になれればと、メッセージと地区社協のお知らせなども同封しました。

（妻ケ丘地区社会福祉協議会会長　渕上　澄雄）

介護者を訪問する民生委員

ある横顔　「元気の秘訣は何ですか？」

上長飯町小鷹にお住いで、一人暮らしの、とてもお元気な今村和夫さん(91歳)を紹介します。

彼の元気の秘訣は、毎週休まずに通うカラオケ教室、こけない体操、グランドゴルフで仲間と楽しく交流し、力を発揮することだそうです。なかでも大きな声で歌うことが大好きで、自宅にカラオケ機材を備え、一人で練習されるほどです。

地域の行事では、どんな場所でも指定があれば、アカペラで歌詞を間違わずに最後まで歌い切り、皆さんを楽しませてくれるなど、小鷹の名物おじさんと呼ばれています。これからもお元気で、長生きしてください。

（上長飯町小鷹地区民生委員児童委員　野村　和代）

今村和夫さん

◆お知らせ・今後の予定◆

地域の福祉活動を具体的に進めるために、第４次都城市地域福祉活動計画を策定しました。令和３年度からこの計画をもとに地域福祉を進めていきます。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

小松原地区社協だより　令和３年３月発行

小松原地区社会福祉協議会
会長　川路　豊子

令和２年度より、新会長に就任いたしました。年明けから、新型コロナウイルス感染拡大のあ、行事、イベント、会議等中止となり、行動の制限があり、不安な日々を送ることとなりました。活動として不十分な面もあると思いますが、共に協力しながら、頑張っていこうと思っております。

今年度　役員紹介

役職	氏名	選出区分
会長	川路　豊子	地域ボランティア福祉保護協会
副会長	平川　道子	民生委員・児童委員協議会
副会長	平嶋　弘平	自治公民館連絡協議会
事務局長	福重　勉	社会教育・児童委員協議会
会計	木村　純子	民生委員・児童委員協議会

小松原地区生活支援コーディネーター

上野　康博　　岩田　マチ子

生活支援コーディネーターとは、高齢者が安心して住みやすいまちになるように、人や地域の「つながりづくり」を目的に活動しています。

令和３年２月、小松原地区のスローガンが決まりました！

笑顔であいさつ！夢づくり
サンシャイン小松原

これからよろしくお願いします♪

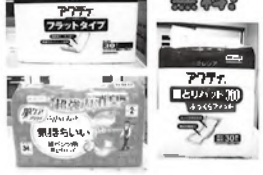
福祉なんでも相談

- 開設日：毎週火曜日
- 時　間　：１０：００～１５：００
- 場　所　：小松原地区公民館　１階
- 連絡先：080-2772-9660
- 相談無料・秘密厳守

生活に困っている…　地域に孤立する家庭が多い…　話を聞いてほしい　介護　子育て

なんでも相談員が、困りごとや相談事をお聞きして、必要があれば専門機関におつなぎします。世間話でも大丈夫！お待ちしています★

地区社協開設日には、
ご自宅で生活され紙おむつが必要な方に、２ヶ月に１回（１袋）、
紙おむつを無料配布しています！
多くの方が利用されています。お気軽にご相談ください♪
※申込時に受け取り者の印鑑をご持参ください。



令和2年度の活動紹介！

在宅介護者のつどい

第1回:7月15日(水)平江公民館

第2回:11月18日(水)高比田北公民館

ご自宅でご家族の介護をされている方が、他の参加者と共に日頃の思いを共有し、介護の疲れやストレスをリフレッシュできるよう開催されています。今年度は新型コロナウイルスの感染対策を行いながらの開催でした。１回目のつどいでは、社会福祉法人まりあさんに講師をお願いし、怒りをコントロールするためのアンガーマネジメントや座ってできる体操を教えていただきました。２回目のつどいでは、ヤクルト出張講座で腸のはたらきに関するお話をしていただき、ヤクルト使用済み容器を使った万華鏡づくりを行い、皆さんと一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

いきいき90歳写真展

地域で元気に暮らしている９０歳の方のご自宅を訪問してお写真を撮り、地区まつりで展示するという取り組みです。この取り組みは、民生委員の方々と一緒に進めています。昨年は残念ながら地区まつりが中止となりましたが、写真を描って額縁に入れてプレゼントしました！皆様からとても喜ばれました。

その他にも……

- ふれあいいきいきサロン活動支援
- 買い物支援サービス（わくわくワゴン）
- 子どもサロン活動支援　等の活動を行っています。

昨年はコロナのためできないことも多く、歯がゆい思いをしましたが、小松原地区の皆様の「ふだんのくらしのしあわせ（ふくし）」のため、来年度もできることを考えながら活動を行っていきます。小松原地区社協の活動は皆様からの協力金によって支えられています。これからも小松原地区社協をよろしくお願いいたします！

祝吉地区
社会福祉協議会だより

あやめ 27号

令和３年３月発行
発行者／祝吉地区社会福祉協議会

第４次地域福祉活動計画（R3-7）

祝吉地区のテーマ
みんなちがってみんないい
～夢・希望あふれる「あやめのまち祝吉」～

あいさつ

コロナ禍に負けない健康で明るく住みよい、安心・安全なまち祝吉に向かって、高齢者・若者・こどもと手を取り合い、夢と希望を目標に 365 日一歩一歩、歩いていきましょう。

祝吉地区社会福祉協議会　会長　荒武春男

事業紹介

○茶ってぃサロン（子育てサロン）

親子で楽しめるよう季節に応じた内容を計画しています。10月には芋ほりをし、多くの親子連れが参加してくれました。

また、茶ってぃタイムでは、お茶お菓子を楽しみながら保護者、ボランティアと交流を図り、子育ての相談等がしやすい環境づくりをしています。

○視察研修・ボランティア学習会

高崎にある「おおむたこども園と縄瀬保育園」に視察研修に行きました。園では、子どもたちが主体的に活動する姿やわくわくしている様子を見ることができ、祝吉地区の子育て支援の参考になりました。

今後も研修や学習会を行い、祝吉地区がより良い地区になるよう地域福祉活動を進めていきます。

焚火を囲みながら
こどもたちと交流（R2.12）

○スマイルカフェ祝吉

地域の住民同士の交流を目的に月１回、調理や会食、レクリエーション等を行っています。今年度はコロナ禍のために弁当配布をすることによって、住民同士のつながりが切れない活動を行いました。

本事業が地域住民の居場所や交流の場となるよう活動していきます。

○高千穂学園ボランティア

各自治公民館のボランティアが高千穂学園で洗濯物をたたみ、大変喜ばれています。

○学校ボランティア

参観日預かり保育、家庭科実習補助、福祉教育補助等を行い、地域の児童・生徒が交流できる良い機会になっています。

【その他地区社協事業】

○在宅介護者のつどい
○公民館長・民生委員合同研修会
○ふれあい文化祭への参加
○生活おたすけサービス事業研修
○茶ってぃサロン（毎月第３火曜日　10:00～12:00）

今年度は実施できませんでしたが、
地域の実情にあった活動をすすめていきます。
みなさまの参加お待ちしております。

【生活おたすけサービス】（事務局：都城市社会福祉協議会）

☆生活援助員を募集しています。

高齢者が自立した生活を継続して送り、要介護等にならないようにするために、生活援助員が日常生活上の簡単なお手伝いをするサービスです。

○生活援助員とは…２時間程度の講座を受講し、登録をされた地域住民の方です。
○活動内容　掃除・洗濯・買物・調理など簡単な家事援助　　○活動費用　１時間につき800円

生活援助員さんが訪問してくれるのを毎回楽しみにしています。
利用者の声

利用者の方が毎回楽しみにしてくれており、家事援助を通して様々なことを学びながら楽しく活動しています。
生活援助員の声

ふれあい いきいき サロン

いきいきサロンとは…各自治公民館でのふれあい・ささえあい活動です。

【南都元４丁目】
グラウンドゴルフ大会・会食

【祝吉】
80 歳以上の高齢者80 件に「ふれあい訪問」でウェットティッシュ配布

【並木】
ひとり暮らし高齢者への配食

【年見】
レクリエーションや会食、学習会を実施

【原口】
ひとり暮らし高齢者への弁当配布

【南都元２丁目】
世代交流グラウンドゴルフ大会
（子供育成会、シニアクラブ、公民館）

福祉なんでも相談

介護・子育てなど生活に関することなどお気軽にご相談ください。
なんでも相談員が困りごと相談ごとをお聞きいたします。秘密は厳守いたします。

【事務局開設日】月・火10:00～15:00（祝日除く）
場所：祝吉地区公民館　相談室
電話：080-2772-9661

おむつ配布（パットタイプ　３種類）

対象者：在宅で紙おむつの必要な方（施設入所・入院は不可）
回　数：２ヶ月１回　無料

住民の皆様へ

祝吉地区住民の皆様からの福祉協力金が祝吉地区社会福祉協議会の活動を支えております。
これからもご協力をよろしくお願いいたします。
この「祝吉地区社会福祉協議会だより」は赤い羽根共同募金の助成で作成しました。

五十市地区社会福祉協議会だより（令和3年3月発行）

あんしんで ゆめひろがる みんなのふくし

【事務局開設日】
・毎週金曜日 10:00～15:00　五十市地区公民館
・毎週金曜日 10:00～12:00　今町多目的研修集会施設
☎080-2772-9662

福祉なんでも相談も行っています！お気軽にお越しください♪

五十市地区社会福祉協議会
会長　福丸　良秋

五十市地区社会福祉協議会では、だれもが住みやすい五十市地区を目指して、関係機関が一丸となって地域福祉の推進に取り組んでいます。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのイベントが延期や中止になりましたが、コロナ禍ならではの「訪問事業」を始めました。今後も新しい生活様式に応じた新たな取り組みをしていきたいと思いますので、皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いします！

コロナ禍の新しい取り組み！ふれあい訪問事業（全 23 自治公民館で実施）

今年度は、新型コロナウイルスの影響により五十市地区社会福祉協議会（以下「地区社協」）の事業にもさまざまな影響が出てきました。本会では、そのような事態でもなにかできることはないかと知恵を出し合い、毎年１０月～１１月に実施している「ふれあい交流のつどい」を「ふれあい訪問事業」へと変更して実施しました。ふれあい訪問事業は、五十市地区の自治公民館に加入している８０歳以上の一人暮らし世帯の方に、公民館長、民生委員、生活支援コーディネーターとともに訪問し、レトルト食品やお菓子などのお見舞い品を届ける事業です。

地区社協役員で手分けをして
配布に向けて準備をしました

各世帯への訪問は、１０月中旬からそれぞれの地区で行われ、１０月下旬には全世帯（約３５０世帯）への配布を終えることができました。訪問した際には大変喜んでいただき、「久しぶりに民生委員さんとお話しできた！」とおっしゃる方もいました。

今年度初めての取り組みであったため、多くの改善点もありますが、また来年度に活かしてさらによりよい事業にしていきます。ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

ふれあい訪問事業を通して
たくさんの笑顔と出会いました

中今町自治公民館

大江自治公民館

大岩田・玉利自治公民館

横尾原自治公民館

八反自治公民館

原村自治公民館

中尾自治公民館

南鷹尾西自治公民館

北鷹尾自治公民館

久保原西自治公民館

狐塚自治公民館

自宅で介護されている方のつどいを行いました

１１月１０日（火）に、自宅で介護をされている方の意見交換やリフレッシュを目的として、「在宅介護者のつどい」を行いました。今年度は、五十市・横市地区地域包括支援センター　認知症地域支援推進員　中岡　恵美　氏より認知症についての講話をしていただきました。認知症についての知識と理解を深める機会となりました。

介護をしている方同士の意見交換の場になりました

おじいちゃんクッキング再開！

毎月第２金曜日に実施している「おじいちゃんクッキング」は、新型コロナウイルスの影響により３月より実施を自粛していましたが、十分な感染対策を行いながら、１１月から再開しました！参加者の方々も久しぶりの開催でとても楽しみにされていたようです。参加者の男性陣が一生懸命に料理をしています。興味のある方はぜひ一度ご参加ください♪（※現在は３月末まで中止しています）

この日の献立は、
炊き込みご飯とみそ汁、
おひたしの３品でした！

三股町社協の先進的な取り組みを視察！

１２月１６日（水）に、地区社協役員研修で三股町社会福祉協議会（以下、「三股町社協」）を視察しました。三股町社協は生活に困窮している子どもがいる世帯への「みまたん宅食どうぞ便」や学習支援事業、こども食堂などさまざまな取り組みを行っています。もちろん、五十市地区で行われている自治公民館でのいきいきサロン（いたっみろ会）やこけない体操なども特色ある取り組みですが、三股町ならではの取り組みは非常に勉強になりました。

これからも、五十市地区の良いところは伸ばし続け、三股町社協の取り組みで取り入れられるところは参考にしながら事業を展開していきます。

研修は「コメーキングスペースコメ（三股町上米地区）」にて行われました。地域の困りごとを解決するコミュニティスペースであり、カフェとしても利用できます

紙おむつ無料配布のご案内

五十市地区社協では、在宅の方（病院に入院している方や施設に入所している方は対象外）に２ヶ月に１回、紙おむつ（尿取りパッド）を配布しています。都城市在住であればどなたでも利用できますので、配布を希望する方や詳しく聞きたい方は、五十市地区社協（☎080-2772-9662）もしくはお住まいの地区の民生委員児童委員までご連絡ください。

配布できる紙おむつは３種類ありますので
詳しくはお尋ねください！

横市地区社協便り さくら No.2

～顔の見える地域づくりを目指して～

令和3年1月吉日発行

横市地区社会福祉協議会

会長あいさつ

新年あけましておめでとうございます。コロナ禍が続き、先の見通しが立たない状況が続いております。

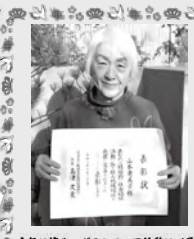
しかし、横市地区社協では、引き続き「顔の見える地域づくり」を目指して、地域の皆さんの困りごと、悩みごとの解決をお手伝いしますので、お気軽にご相談ください。

新型コロナウイルスなんかに負けない！

西小学校・明和小学校などの子ども達から高齢者の方へ年賀状をお届け。とってもたくさん素敵な年賀状を書いてくれました。

毎年地域の方もとっても楽しみにしています。こども達の元気とパワーがしっかり届いていますよ。

都城市社会福祉協議会長表彰



永年に渡り、ボランティア活動にご尽力された山本恵美子様（都城町）が受賞されました。

西小学校での読み聞かせボランティアをはじめ地域活動における様々な活躍を称え、こちらでもご紹介させていただきます。誠におめでとうございます。

「よこいちい散歩」パートⅡ（秋の香り編）

令和2年10月24日（土）快晴

昨年の、尻枝～加治屋～久味木地区に続いて今年は都原町編！

快晴れの最高にいい天気の中、地区社協役員と、今回は中川台公連協長と、本村中義原自治公民館長も一緒に地域を巡りました。（コース◆皇上観武之碑～都城飛行訓練記念碑～特別攻撃隊出陣の地～都城航空機乗務養成碑～など）

横市地区は、新しい家が建ち、時代の流れとともに新しい横市に変わっていく地域もあれば、田園風景が広がる昔からの地域性が伝承されている地域もあり、散歩をしながら肌で感じ、地域性を堪能することができました。この散歩を日頃の見守り活動や、災害時の安全確認などに繋げていきたいと思います。

航空機乗務養成碑を解説する溝ノ口会長（中央）

都城高校グランド横通過

皇上観武之碑を前に（昭和天皇が訪れた地）

みそ汁の会×中蓑原自治公民館＆尻枝自治公民館

昨年度より、全地区での活動を推進している「みそ汁の会」ですが、今年はコロナ禍の影響で活動自粛でした。しかし！中蓑原自治公民館と尻枝自治公民館にて、3密防止、手指消毒を徹底して実施されました。地域の交流の場を目指しているこの「みそ汁の会」。これからも新しい形を模索しながら推進していきたいと思います。

中蓑原自治公民館（11/15）

炊き出し訓練も同時開催

ご飯は、羽釜で本格的グツグツ吹きこぼれます。

防災講話を実施。皆様真剣です。

青空の下、みんなで準備を進めていきます。

快晴の中、密を防いで開催。

尻枝自治公民館（12/21）

尻枝自治公民館で初めての取り組み

愛情たっぷりのみそ汁完成。

湯気がホクホク、とてもいい香りです。

おにぎりと、みそ汁。やっぱりこの組み合わせが一番！

素敵な笑顔で、お腹も心もいっぱいになりました。

◆介護用　紙おむつ無料配布中◆

（対象者）横市地区内にお住まいで、自宅にて生活されている方。（施設入所中や入院中の方は不可）

（配布回数）2か月に1回

（配布場所）横市地区社協事務局（毎週水曜日）（横市地区公民館内）

（そ の 他）サイズや、種類などご不明な点は事務局まで遠慮なくご相談ください。

◆福祉なんでも相談できます◆

事務局開設日に、福祉（生活、介護、子育て、障がい、等）に関するなんでも相談窓口も開設しています。

もちろん、無料で個人情報などプライバシーは守られ、相談内容によっては専門的な相談窓口にお繋ぎいたします。

少しでも悩んでいる方や、どこに相談すればよいか分からないことなど、一度ご相談ください。一緒に解決への道を探しましょう。

横市地区は、マスクの中は笑顔です。満開のね。

都城市社協PRキャラクター 幸子（さちこ）

事務局開設日

日　時：毎週水曜日 10時～15時

場　所：横市地区公民館内（南横市町 3925-3）

電　話：080-2772-9663（事務局直通）

沖水地区 社協だより

令和2年12月1日 発行　沖水地区社会福祉協議会

沖水地区社会福祉協議会では、誰もが安心して健康で幸せに暮らせるように、自治公民館や関係機関・関係団体との連携を密にし、誠実と思いやりのある福祉活動を推進しております。

今後とも沖水地区社会福祉協議会にご理解とご協力をお願いいたします。

福祉なんでも相談

福祉・生活・子育てに関することなど日ごろの暮しの中で相談したいことがありましたら気軽にお尋ねください。

毎週水曜日 10:00～15:00　沖水地区公民館　相談室

沖水のくらしまるごと相談

沖水地区社会福祉協議会

～子育てから老後まで～

子育てについて　老後について　障がいについて

[日時] 毎月第3水曜日 13:00～15:00

[会場] 沖水地区公民館

福祉標語最優秀作品の紹介

小学校5年　協力し　笑顔ひろがる　沖水地区　前田 緒衣

小学校6年　考えよう　相手の気持ちを　一番に　瀬戸山愛美

中学校1年　その勇気　見えない力に　変わるとき　高野 美緒

中学校2年　スマイルの　花でうめよう　世界中　前田 美素

沖水地区社協の主な取り組み

在宅介護者の集い

ご家族を介護しておられる介護者が、悩みや不安を本音で語り合い、情報交換と心身のリフレッシュを図り、介護にかかる課題を解決することを目的としております。

男性料理教室

食改員の方々のご協力・ご指導で「男性料理教室」を行いました。

生活おたすけサービス生活援助員の集い

高齢者（おおむね65歳以上）の方が、介護等を必要とせず、できるだけ在宅での生活ができるよう軽度な家事支援を行っている援助員さんの研修です。

参観日預り保育

昨年の活動の様子

沖水小学校の参観日に、参観・学会に参加しやすいように、未就学児のお子様を一時的に預り、ゆとりある子育てをサポートしております。

子育てサロン

（毎月第4水曜日　10:00～12:00）

子育て中の親子が、気軽に、無理なく・楽しく・自由に集い、子育ての相談や情報交換等を行う、ふれあいの場です。

ふれあいいきいきサロン

（各自治公民館単位）

昨年の活動の様子

ひとり暮らしや、家の中で過しがちな高齢者の方と地域住民が、気軽に集い、ふれあいを通して生きがいづくり・仲間づくりを行っております。

沖水地区社会福祉協議会役員

沖水地区の皆様へ！

皆様からの福祉協力金によって沖水地区社会福祉協議会は支えられております。

これからもよろしくお願いいたします。

地域生活支援会議

沖水地区社協は、地区内の様々な福祉・生活の課題に対して、都城市社協、地域包括支援センター等と連携をとりながら解決への取り組みを行っております。

沖水地区社会福祉協議会

事務局開設日：毎週水曜日

時間：10:00～15:00

場所：沖水地区公民館（相談室）

電話：080-1737-3393（携帯）

志の和することこの池のごとくあれ
地区社協だより

志和池地区社協役員

会　長：黒木　政信　　監事：森山　利雄
副会長：崎田とみ子　　監事：田代美代子
副会長：宮本　祐子　　ＳＣ：桁井由美子
事務局：吉住　洋一　　ＳＣ：西　あき子

令和２年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、盆踊りや文化祭等も中止を余儀なくされ、志和池地区民のコミュニケーションを図る唯一の機会が失われました。

また、社会福祉協議会の事業や会合も今年度は思うような活動ができませんでしたが、１館１福祉事業、在宅介護者のつどい、生活援助員・ボランティア研修は規模を縮小しながら実施する事になりました。新たな企画として、今年度は外出自粛の高齢者宅に小学生が書いた年賀状を民生委員が届け大変喜ばれました。

コロナの早期の終息を願い、誰もが安心して暮らせる「しわち」を目指して今後もさまざまな事業に取り組んでまいります。

志和池地区社会福祉協議会
会長　黒木政信

⑤問い合せ先：包括支援センター
℡４５－４１８０
志和池地区福祉なんでも相談室
℡０８０－２７７２－９６６４
（毎週火曜日１０時～１５時）

生活おたすけサービス事業

生活おたすけサービス事業は、地域のボランティアである生活援助員（16名登録）の方が高齢者の日常生活の簡単なお手伝いをするサービスで、現在３世帯の高齢者宅が利用されています。

【事業の内容】
①対象者：日常生活で援助を要する高齢者で要支援１・２の認定者、または別に定めるチェックリストに該当する方。
②サービス内容：軽度な家事（掃除、洗濯、ごみ出し、調理、買い物等）
③利用時間：１日２時間（８時～１７時）で１ケ月１０時間以内
④利用料金：１時間２００円

期日：R2.10.14
会場：志和池地区公民館
参加者：２８名

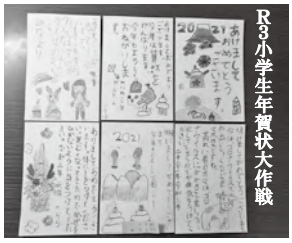
在宅介護者のつどいは当初８月に予定していましたが、都城市でコロナウイルスの感染者が確認されたので公民館が閉館となり、10月に延期し開催しました。包括支援センターから介護認定のしくみと介護の仕方について実践的な講習を受けました。その後、介護者を囲み、意見交換会を実施しました。夜に何度も起こされる等、介護の悩みや苦労話が多く出され、情報の共有を図る事ができました。

期日：R2.11.26
会場：志和池地区公民館
参加者：２２名

庄内創生館管理者の高橋さんから小規模多機能型介護施設と通常の介護施設との違いや利点について講習があった。また、市社協からコロナの３つの顔（病気、不安と恐怖、仲間はずれ）について説明を受け、グループ討議で自分たちが今できることを確認しあった。

最後にお助けサービスについて、援助員３名から利用者とのコミュニケーションを大事にしながら家事のお手伝いをしていると報告を受けました。

R3小学生年賀状大作戦



コロナ禍で出かける機会の少なくなっていた高齢者の方々に、志和池・丸野小学校393名の全校生徒が書いた年賀状を民生委員が自宅に届け、大変喜ばれました。

一館一福祉事業

令和２年度１館１福祉事業実施報告

番号	公民館	実施日	活動内容	参加者
1	上　西	8/30	桜長神社境内の清掃等の環境整備	14名
2	上　中	6/5	血圧測定、こけない体操	13名
3	上　東	7/26	女谷公園法面の草刈り	12名
4	平　原	7/4	血圧測定、こけない体操、介護保険講講話	23名
5	下　一	7/17	血圧測定、こけない体操、健康講話	10名
6	下　二	6/23	血圧測定、こけない体操、頭の体操	15名
7	下　三	6/5	こけない体操・ごきぶり団子づくり	18名
8	亀　立	8/23	パークゴルフ大会、花植え	29名
9	岩　満	6/23	こけない体操、ダンベル体操	9名
10	青　石	毎月	リサイクル活動（廃品）	10名
11	荒ケ田	7/28	高齢者のためのやさしい栄養の話	14名
12	丸　谷	11/25	こけない体操	10名
13	力ヶ坪	7/2	こけない体操	9名
14	薄　谷	12/6	高齢者宅に小学生が弁当配布	50名
15	谷　頭	8/9	谷頭農村公園の草刈り	23名
16	崎　田	12/6	パークゴルフ大会	10名
17	寺万寺	11/6	ミニボーリング	13名
18	麓	毎月	リサイクル活動（当番制）	50名
19	森　田	7/7	こけない体操・体力測定・指を使った運動	10名
	合　計			342名

永年のボランティア活動の功績が認められ、下記の２名の方が令和２年８月に都城市社会福祉協議会**会長表彰**を受けられました。

◆**田中ミエ子**さん（丸谷町活動年数：17年）
・いきいきサロン活動・在宅介護者へ弁当配食
・読み聞かせ・介護施設やディケア施設の慰問

◆**坂元靖弘**さん（上水流町）活動年数：6年）
・通学路にて、毎朝児童の交通安全見守り活動

編集後記　コロナに始まりコロナで終わった平成２年度六月灯や祭り、敬老祝賀会等の地区行事はほとんど中止になり、複数人が集まっての飲み会は皆無の一年でした。コロナが一刻も早く収束し、いつもの生活に戻ることを祈るばかりです。（Y）

福祉なんでも相談室

相談日：**毎週火曜日　１０時～１５時**
会　場：**志和池地区公民館**
相談員：元民生・児童委員　吉住洋一
専用℡10時～15時：080-2772-9664
福祉、介護、健康等何でもお気軽にご相談下さい。
令和2年度相談件数　20件（介護、健康、見守り、環境、生活支援、相続、隣人関係）

紙おむつ無料配布
常時おむつが必要な在宅介護の世帯に紙おむつを2カ月に１回（１個）支給しています。
希望される方はお近くの民生委員児童委員にご相談いただくか、毎週火曜日開設の「福祉なんでも相談室」までお越しください。
令和２年度実績　受領対象者65名

つなごう
Tu　na　Go

オッシャー・ベリーハウス　乙房　まるベリー

TunaGO
令和2年11月発行　№2
発行者・オッシャー・ベリーハウス
・まるベリー
・庄内地区社会福祉協議会

～会長あいさつ～　オッシャー・ベリーハウス会長　馬籠 英男

「地域の高齢者のために食事会でも…」との考えから、地区の公民館長をはじめ、民生委員児童委員、ボランティア、高齢者クラブの方々と話し合いを重ね「高齢者の仲間づくりを通じて生きがいと健康づくりにつとめ、明るい長寿社会づくり、健康福祉の向上に資すること」を目的としてスタートした「オッシャー・ベリーハウス」も４年目を迎えることができました。

当初は、色々と不安もありましたが、会を重ねるごとに、内容も充実し、さらに運営の面でも改善しながら、現在４ヶ所の公民館分館で定期的に継続して実施できるようになりました。担当者の熱意が浸透し、理解されたことが大きな成果だと考えています。

現在、私達が「やってよかった」と喜んでおりますことは、

① 支え隊（支援する側）４３名と、対象者（お客さま）７９名の皆さまの気持ちが通じ、両者がともに元気になってきたこと。
② 支え隊の中に若い女性の参加（小中学校の PTA のお母さん方、こども園に通う幼児のお母さん方、等々）が増えてきたこと。

などがあり、地域の中でこの活動が理解されてきた証だと喜んでいるところです。昨年の夏休みに子どもたちとの交流でソーメン流しを実施したときは、子ども達から喜びの声を聞いたお母さんたちから感謝の電話をいただき、一同大いに感動したことでした。

また、こども園で行った「フリマ」では、３００人分のガネを作り、配布したところ大変な好評をいただき、瞬く間に品切れとなったほどでした。

このような状況まで発展できましたことは、私たちの活動に多大なご理解をいただき、財政的な支援をいただいております市役所はじめ、市社協、民間事業所等のご支援の賜物だと感謝しております。今私達は、このような状況を踏まえ、反省し、さらなる充実を考え、地域全体の発展を眺望し新たな組織として「乙房はひとつ」を合言葉に協議を重ねているところです。私たちの意のあるところをご理解いただき、今後ともご支援ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

オッシャー・ベリーハウス役員名簿

役　職	令和２年度
会　長	馬籠　英男
会　計	時任　明美
書　記	今ケ倉　三千代
監　事	乙丸　トシ子
	満行　タケ子

＊地区の民生委員の皆さまと協働して活動しています

班　長	令和２年度	民生児童委員
あざめ　班長	益留　貞子	岩橋　文子
馬場　班長	小久保　鈴子	松崎　幸子
内場　班長	立野　よし子	馬籠　恵子
今平・宮源　班長	時任　明美	相良　照代

おじゃったもんせ　活動紹介

お食事会の様子

コロナ対策で、できるだけ向き合わないように食事しています＾＾

久しぶりに参加者の笑顔が見れてうれしいです♪

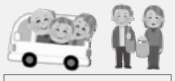
友愛訪問の様子

手作りの紙袋に郷土食を入れてお届けしました☆

支え隊で草餅、いりこ餅、がねを作りました☆

ついで便　～乙房こども園が買い物支援！～　無料

ながやま、はぜやま、コスモス、ハンズマンなど…
乙房こども園が買い物に行くついでに一緒に連れて行っていただきます＾＾♪
①前日までに電話での申し込みが必要です。
②当日ついで便が自宅までお迎えに行きます。
③買い物後はお店からご自宅までお送りします。
※乙房在住で車の運転をされない方が対象です。
※月曜日～土曜日の運行。
※乙房こども園の都合で行けない場合もあります。



乙房こども園　担当：刀坂
☎090-6425-6690

お問合せ先　オッシャー・ベリーハウス
事務局　今ケ倉　三千代　TEL：080－1766－2993

当団体は、赤い羽根共同募金の助成を受けて、事業を実施しています。　赤い羽根共同募金

つなごう

Tu na Go

オッシャー・ベリーハウス 乙房 まるーり

TunaGO
令和3年3月発行　№3
発行者・オッシャー・ベリーハウス
・まるベリー
・庄内地区社会福祉協議会

オッシャー・ベリーハウス役員（支え隊）より

皆様には、日頃より深いご理解とご協力をいただき、心より厚くお礼申し上げます。

（馬場班長：小久保鈴子）平成10年から16年に民生委員として活動し、その後福祉協力員として現在まで地域では食生活改善推進員やボランティアグループ、4年前からはオッシャー・ベリーハウスで高齢者の交流活動をしています。活動は大変ですが、皆さんの笑顔を見れば大変さも忘れ良かったナァーと思います。元気でいることはありがたいことだと思い、90歳まで福祉活動に参加することが目標です！

（あざめ班長：益留貞子）食事作りは班長宅で作り運んでいますが、時には班長宅で会食を行うこともあります。昔の苦労話などでおしゃべりが弾むので至福のひと時です。今年度はコロナの影響で子ども達との交流会も中止になったので残念でした。友愛訪問でお届けしたお弁当は皆さんとっても喜んでくださって嬉しかったです。ワクチン接種が全国でなされコロナがはやく終息することを願っています。

（今平館長：時任明美）毎年毎年、目標を考えて活動するのが楽しいです！昼食交流会「おじゃったもんせ」は参加者の皆さんに楽しんでいただけることが1番ですが、支え隊同士の集いの場にもなっています。コロナ禍でもつながりが絶えないよう、できることをしていきます。

（内場班長：立野よし子）内場地区は、コロナウイルス感染予防のため、今年度は残念ながら皆さんに集まってもらうことができませんでしたが、対象者の皆さんに手作り小物など季節に合ったものを届けさせていただきました。「ありがとう」の言葉をもらい、次回の原動力になりました。支え隊や皆さんの協力のおかげでできたことだと思います。ありがとうございますの一言です。

時任さん　立野さん　前原さん

おじゃったもんせ

コロナ感染対策に細心の注意を払いた施しています！

毎年、月に1回行ってきた昼食交流会「おじゃったもんせ」ですが、今年度はコロナウイルスの影響で例年通りには開催できず、数回のみの開催でした。私たちが参加者に「何かする？（ゲームなど）」と聞くと、「おしゃべりがよかっ！」と言われます（^^）みんなで笑って世間話をして、楽しい時間を過ごし、支え合いながら参加者も支え隊もお互いに元気でいられる活動を続けていきたいと思います。

コロナウイルスがはやく終息し皆さんの顔を見ながらお食事できる日がくることを祈るばかりです。

めあげもそ（友愛訪問）

今年度は、集まれない状況が続き「おじゃったもんせ」がなかなか開催できませんでしたが、コロナ禍でお家時間が増えた皆さんが少しでも明るい生活が送れるよう、友愛訪問「めあげもそ」を行いました！コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら、支え隊で作った郷土料理や折り紙、生花などをお届けし、玄関先での短い時間ではありましたが、皆さんの元気そうなお顔を拝見することができました。

お問合せ先　オッシャー・ベリーハウス
事務局　今ケ倉　三千代　TEL：080－1766－2993

当団体は、赤い羽根共同募金の助成を受けて、事業を実施しています。　赤い羽根共同募金

☆★令和２年11月発行　№23★☆

庄内地区社会福祉協議会だより

～会長挨拶～

庄内地区社会福祉協議会です。
住民の皆様には、日頃より深いご理解とご協力をいただき、心より厚くお礼申し上げます。
今年度は、新型コロナウイルスの影響を大きく受けてのスタートとなりました。庄内地区社会福祉協議会を含め、多くの地域団体の活動が中止・縮小を余儀なくされており，迷いや不安を抱えながら活動を進めておられます。大変な状況下ではありますが、「ふれあい・つながり」を重視し、温かい地域づくりに役員一同努めて参ります。
どうぞご協力をよろしくお願い申し上げます。

会長　福村 修

庄内地区社会福祉協議会 令和２年度 新役員紹介

役職	令和2年度	
	氏名	団体名・役職
会長	福村 修	福祉協力員
副会長	前田 和憲	自公連　会長
副会長	岡林 和子	民児協　会長
副会長	馬籠 英男	高齢者クラブ　会長
副会長	大村 美香	ボランティア　会長
事務局長	上柳 行雄	福祉協力員
書記会計	下田代 潤子	福祉協力員
事務局	小久保 鈴子	福祉協力員
事務局	福森 静香	福祉協力員
事務局	今ヶ倉 三千代	福祉協力員
事務局	竹中 千佳	福祉協力員

皆さまのご協力のもと各事業を進めていきます！
～今年度もよろしくお願いいたします～

11月に在宅介護者のつどいを開催します！

日時：令和２年１１月２６日（木）
　　１０：００～１２：００
場所：庄内地区公民館　多目的室
内容：介護予防ヨガ・情報交換
※椅子に座って行う簡単な体操です。

2019年度「在宅介護者のつどい」の様子です。
特別養護老人ホーム白寿園さまからご協力いただき福祉用具についての説明をしていただきました♪

2019年度 ふれあいいきいきサロン活動

２０１９年度に実施された「いきいきサロン活動」の活動の様子です＾＾♪
この「いきいきサロン」は、庄内地区の各自治公民館が地域のボランティア等の協力を得て、仲間づくり・健康づくり・地域づくりにつなげるための活動として実施されています。住民の皆さまが気軽に集える場となっており、活動内容も様々です。参加者からもたくさんの笑顔がみられ、今後の活動も楽しみです☆

おじゃったもんせ（高齢者を対象としたお食事交流会）

～コロナ禍での活動紹介～

地域に居住する高齢者が孤立することなく、住み慣れた乙房地区で安心安全な自分らしい暮らしを続けられるように、と平成２９年７月より乙房地区で活動を始めました。
活動に賛同する地域住民で「支え隊」を結成し、現在４地区に分かれ、毎月１回開催しています。最近の活動は、新型コロナウイルス感染防止のため、昼食交流については密にならないよう注意をしながら実施していますが、人数の多い所は手作りの郷土おやつを会員が友愛訪問し交流するなどの工夫をしています。
お問い合わせ：オッシャー・ベリーハウス事務局　今ケ倉　三千代　0986-37-0101

庄内地区社協　ふくしなんでも相談室

開設日　：　毎週火曜日　１０：００～１５：００
場　所　：　庄内地区公民館
電　話　：　０９０－５７３４－６４３３

11月より白寿園から公民館に場所が変更になりました！

日頃の生活での困りごと（健康のこと、老後のこと、認知症のこと、どこに相談したらわからない…等）なんでもお気軽にご相談ください♪

☆★令和３年３月発行　№２４★☆

庄内地区社会福祉協議会だより

～会長挨拶～

庄内地区社会福祉協議会です。

住民の皆様には、日頃より深いご理解とご協力をいただき、心より厚くお礼申し上げます。

今年度も残りわずかとなりました。ふり返ってみますと、何もかもが例年とは違う一年で、行事ごとも延期・中止・縮小を余儀なくされました。寂しい思いをされた人も多いのではないでしょうか。まだまだ大変な状況で気が抜けませんが、コロナに負けず！今できることを考え、地域づくりに役員一同努めて参ります。

今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

会長　福村 修

令和２年度第１回在宅介護者のつどい

令和2年11月26日(木)に、在宅でご家族の介護をされている方を対象とした「在宅介護者のつどい」を開催いたしました。参加者は、在宅介護者、該当地区の民生委員、市民センター長、地域包括支援センター、庄内地区社協役員が参加。コロナ感染予防対策を十分に行い実施しました。

前半には、介護予防ヨガインストラクターの木幡愛理さまに、椅子を使って簡単にできる介護予防ヨガをご指導いただき、後半には介護者同士の情報交換を行いました。コロナ禍でなかなか人が集まることができない日々が続いておりますが、心も体もフワッとほぐれるような楽しい時間となりました。

介護予防ヨガ講師　木幡愛理さま

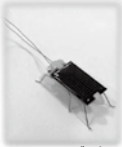
タオルを使った介護予防体操

在宅介護者の情報交換の様子

【新規事業】庄内わくわくスクール♪

令和2年12月26日(土)に、庄内小学校3・4年生を対象にした学習支援事業「庄内わくわくスクール」を行いました。この事業は、学習支援だけでなく地域交流を通じて庄内の未来を担う子どもたちを育む！ことを目的としています。当日は17名の児童が参加し、冬休みの宿題やソーラーパッタ工作、ひむかおひさまネットワークさまを講師とした「地球温暖化防止について」の講話など大変充実した学習会となりました！(^^)

自主学習の見守り



ソーラーパッタ

地球温暖化防止についての講話

ソーラーパッタ相撲大会

～生活課題解決に向けた事業～

「おじゃったもんせ(昼食交流会)」「めげあもそ(友愛訪問)」

オッシャー・ベリーハウスで行っている「おじゃったもんせ(昼食交流会)」「めげあもそ(友愛訪問)」は、コロナウイルスの影響で例年通りとはいきませんでしたが、つながりが途絶えないよう、ボランティア(支え隊)と協力し工夫しながら活動しています。昨年は、会えないからこそ心を込めて年賀状をお届けしました(^－^)/

オッシャー・ベリーハウス
連絡先:080-1766-2993（今ケ倉）

庄内地区社協　ふくしなんでも相談室

開設日 ： 毎週火曜日　10：00～15：00
場　所 ： 庄内地区公民館（庄内町12692）
電　話 ： 090－5734－6433

日頃の生活での困りごと（健康のこと、老後のこと、認知症のこと、どこに相談したらわからない…等）なんでもお気軽にご相談ください♪

西岳地区　社協だより

令和２年１２月発行〔Ｎｏ１８〕

西岳地区社会福祉協議会
ふくしなんでも相談室
毎週水曜日 10：00～15：00
地区公民館内にて事務局開設中！！

コロナに討ち勝とう

現在、世界的に歓迎しないウイルスが大流行し皆さん大変不自由な生活を送っておられる事と思います。当西岳地区社会福祉協議会でも殆どの行事が実施できない状況にあります。いつなくなるかも分からない状況の中、今できる事、今やるべきことを考え共にささえあいの気持ちで頑張りましょう。

現在の西岳地区社協の様子　☆事業実施報告☆

こけない体作りリーダー研修

今年も高岡町の坂元恵子先生に、お招きしてリーダー研修を行いました。コロナウイルス感染症対策の為、人数制限をして２日間に分けて実施しました。今回もユーモアたっぷりのお話しを聞きながら、からだづくりや楽しいゲームを教えて頂きました。とても楽しい時間になりました。

弁当配布サービス（忌明け寄付より）

忌明け寄付を地域の為に使ってほしいという意見が出ておりました。また、地域づくり部会の方でも「はるおさんげえ」でのお弁当作りをしようという話が出ており、地域づくり部会にお弁当づくりをお願いしました。

８０歳以上の方を対象にお弁当の配付を行いました。

配布の際には民生委員さんにも協力をいただきました。

美味しいお弁当が届き、大変喜ばれました。

作っているところ

忌明け寄付のお礼・ご報告

西岳地区社会福祉協議会では、地域の皆様から忌明けのご寄付をいただき、西岳地区の福祉向上の為に活用させて頂いております。なお、空欄（寄付内容等）につきましては寄付者の希望により掲載しておりません。

（住所）	（寄付者(様)）	（故人(様)）	（寄付内容）
夏尾町	深川 きよ子 様	深川 一男 様	１０，０００円
美川町	山口 一夫 様	山口 サヂ子 様	２０，０００円
高野町	川畑 博子 様	川畑 清 様	１０，０００円
美川町	重信 博文 様	重信 勝子 様	１０，０００円
高野町	徳石 猛 様	徳石 良 様	１００，０００円
吉之元町	荒木 幸子 様	荒木 実男 様	２０，０００円
御池町	大渕 晴夫 様	大渕 よし子 様	＊ ＊ ＊
吉之元町	橋村 義久 様	橋村 久明 様	２０，０００円

※尚、寄付金の受付は地区社協（水曜日）にて行っております。（平日は西岳地区公民館で）

西岳地区社協だより

令和3年3月発行　NO.19

令和２年度もいよいよ終わりが近づいてきました。
西岳地区社会福祉協議会では、みなさまのご協力をいただき、この１年間さまざまな事業に取り組みました。ご報告いたします。

●事業報告●

新燃岳噴火 10 年に伴うランタン配布

新燃岳の噴火から 10 年が経ちました。
本年度はコロナ禍で防災の日の研修も難しく…。地域の方に防災について、何か啓発できなかということでランタン配布を計画いたしました。
乾電池までは支給できませんでしたが、台風の時の停電の時などに備えてお使いいただけたらと思います。日常的にも枕元においたりして夜のリラックスタイムにもお使いください！！
また、この機会にご自宅の防災グッズ点検や避難所の確認もされてみてくださいね。
配布にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

ふれあい訪問

毎年、民生委員と社会福祉協議会で行っているふれあい訪問を今年も実施します。
コロナ禍で会えない日々が続きますが、皆さんお元気でお過ごしください。

カイロと黒砂糖を配布しました。

●忌明寄付お礼・ご報告●　◆回覧◆

＜住所＞	＜寄付者（様）＞	＜故人（様）＞	＜寄付内容＞
御池町	高野　あけみ	高野　藤明	20,000 円
高野町	藤田　晃	藤田　光雄	30,000 円
【匿名】	＊ ＊ ＊	＊ ＊ ＊	30,000 円
高野町	福盛　アヤ子	福盛　節男	10,000 円
美川町	津曲　芙佐子	津曲　二六	30,000 円
高野町	藤田　福美	藤田　リキ子	30,000 円

皆様からのご寄付は、**西岳地区の福祉向上のために**大切に使わせていただいております。故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。
本年度はこのお金を活用して、**８０歳以上を対象としたお弁当配布、人吉市豪雨災害義援金（￥１００，０００）**としても活用させていただきました。
今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

※受付は地区社協もしくは地区公民館にておこなっております。

令和二年 県知事賞を受賞されました。

牛之脛地区の民生委員　深川キヨ子さんが長年に渡り民生委員をされています。地域のために活動をされてきました。
その功績をたたえられ、令和二年十月に県知事賞を受賞されました！おめでとうございます！

西岳地区社会福祉協議会 ふくしなんでも相談室

日頃の生活での困りごと（健康のこと。老後のこと、認知症のこと等）やご提案など…なんでもお寄せください！

毎週水曜日 10：00～15：00
地区公民館内にて事務局開設中

地区社協開設日には、ご自宅で生活され紙おむつが必要な方に、２ヶ月に１回（１袋）、紙おむつを無料配布しています！
お気軽にご相談ください♪
※申込時に受け取り者の印鑑をご持参ください

じゃげな

（地域のあんなことこんなことを紹介していきます！）

今年のボランティアフェスティバルはオンラインで！ということで、１５地区クイズリレーという企画に役員で参加しました。初めてのリモート体験をしました！お相手は横市地区社協の方々！西岳地区の紹介を兼ねたクイズで大変盛り上がりました！３月中旬ごろからまた YouTube（動画配信サイト）にて配信されますのでぜひご覧ください！

ふ　く　し　便　り

誰もが安心して暮らせる中郷地区へ

令和２年８月発行　　中郷地区社会福祉協議会

退任の御挨拶

このたび、令和２年３月 31 日をもって中郷地区社会福祉協議会会長を退任しました。平成 26 年４月から今日まで、６年間に渡り、皆様方に多大なご協力、ご支援、ご指導等をいただき大過なく責務を全うし得ましたことに深く感謝申し上げます。
後任には、副会長の稲元光明氏が就任することになりましたので、どうか今まで同様皆様方のご協力ご支援等をよろしくお願いします。

中郷地区社会福祉協議会　前会長　安藤　高幸

就任の御挨拶

安藤高幸会長の後任として、令和２年度から新会長に就任しました稲元です。
これまで人類が経験したことがないコロナ禍は、様々な産業に影響を及ぼし、私たちの生活様式を一変させました。このような大変厳しい状況下で、私ども地区社会福祉協議会も止む無く総会を書面決議にする等の対応に追われ、現在でもこれまでと同様の事業推進には程遠い状態です。
しかし、このような時だからこそ、誰もが安心して暮らせる中郷地区を目指して知恵を絞って新たなる地域福祉推進の方策を探っていかなければならないと考えます。
皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

中郷地区社会福祉協議会　会長　稲元　光明

就任の御挨拶

令和２年度から新たに副会長に就任しました中村です。人が元気、まちが元気な中郷地区を目指して尽力する所存です。どうか、よろしくお願いいたします。

中郷地区社会福祉協議会　副会長　中村　清朗

御紹介

令和２年４月から中郷地区の福祉活動をお手伝いしていただく、都城市社会福祉協議会地域福祉係の黒木雄一さんです。
本格焼酎霧島が大好きとのことで皆さんとの交流を楽しみにされています。気軽にお声をかけてくださると幸いです。

R2 年度　中郷地区社会福祉協議会　新役員紹介

役職	氏名	所属
会長	稲元　光明	民児協
副会長	井ノ上　浩二	自公連
	中村　清朗	地域ボランティア
	鬼束　利男	高齢者クラブ
事務局長	永山　かゆみ	大薗地区
会計	和田　和子	麓地区
監事	村田　利森	主任児童委員
	久永　聡子	子育て応援隊
顧問	安藤　高幸	協力員

中郷の魅力発見マップについて

※自治会加入全世帯に配布します。
「住み慣れた地域でいつまでも過ごせるように。」
そのような想いを乗せ、中郷地区の福祉施設に御協力いただき作成しました。
中郷の魅力を発見するアイテムとして、地域めぐりなどにもお役立てください。

令和２年度主な取組予定

★いたっみるかい
誰もが参加できるいきいきサロン活動。各自治公民館で開催します。

★福祉ニーズ調査
第４次都城市地域福祉活動計画策定のため、各地区の困りごとを聞き取りに伺います。

★子育ちサロンなかんGO！！
乳児～小学校低学年の親子を対象に毎月１回第４土曜日 10 時～12 時まで地区公民館で実施します。※本年度は９月から活動開始予定です。お楽しみに♪
スタッフ随時募集！！（料理・手芸・学習支援等します）子ども達と一緒に楽しみましょう。

★ボランティア活動の推進
中郷地区ボランティア連絡協議会の力を借りて、納涼まつり、福祉まつり、中学校周辺の花植え、地区での料理作り等のボランティア活動を推進します。

★見守りネットワーク模擬訓練
地域での助け合い体制を充実させるため、災害時訓練や要支援者を見守るための学習会を実施します。

★男の料理教室
男性だけの料理教室。食改善推進員の力を借りて、年３回実施予定です。

★全国協スクール（冬の陣）
小学校３年生を対象とした学習支援事業。
冬休みの数日間実施予定です。

★中郷地区ふれあい福祉まつり
毎年多くの地域住民や施設の参加をいただいています。今年度も 11 月開催予定です。

【お知らせ】
納涼まつりは、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、中止となりました。

忌明け寄付お礼

寄付日	地区名	寄付者氏名	
R2.1.8	大　薗	谷口　ミサ子	様（故人：谷口　信男　様）
R2.1.15	藤　田	北丸　一美	様（故人：北丸　ハルエ様）
R2.1.22	正応寺	平川　隆志	様（故人：平川　兼徳　様）
R2.4.15	下安久	左脇　ミイ子	様（故人：左脇　一夫　様）
R2.6.3	大　薗	谷口　テル	様（故人：谷口　昭夫　様）

中郷地区の地域福祉向上のため大切に使わせていただきます。ありがとうございました。

紙オムツ支給

✿対 象 者　オムツを使用して生活されている方、自宅介護でオムツが必要な方
✿支　　給　２か月に１回１個　無料
✿支給場所　中郷地区社会福祉協議会事務局
✿問合せ先　地区社協（３９－０７１３）又は地区の民生委員の方にお問合わせ下さい。

ふくし便り

～誰もが安心して暮らせる中郷地区へ～

令和３年３月発行　中郷地区社会福祉協議会

活動紹介

コロナ禍でこれまでどおりの地区社協活動が難しい中ではありますが、地域のつながりを継続するために、感染予防をしっかり行い、新しい取り組みにも挑戦しています。

お元気じゃひか？なかんごうぉ

様々な地域の行事が中止される中、「高齢者に地域とのつながりを感じて、元気を出していただきたい」との想いから、急遽、敬老の日にあわせて小学生手書きの絵手紙を届ける「お元気じゃひか？なかんごうぉ」を企画・実施しました。

地区内２つの小学校（梅北小学校及び安久小学校）や地区公民館、生活支援コーディネーター、自治公民館長の協力をいただき、約1,300枚の絵手紙を地区の高齢者に届けることができました。小学校には自治公民館長からのお礼の電話や絵手紙を受け取った地区の高齢者からもお礼の手紙やお電話がある等たくさんの反響があり、新たなつながりが生まれた事業となりました。

男前料理教室（男性料理教室）

中郷地区食生活改善推進員に協力をいただき、男前料理教室と称した男性料理教室を実施しています。例年、調理後に全員で試食会を行っているのですが、本年度は３密を避けるため、お弁当にして持ち帰っていただきました。普段は料理をしない方も、同じ地区の同性と共に料理をすることで、自然と笑顔が溢れ楽しそうに調理をされます。来年度も実施予定としていますので、興味のある方は中郷地区社会福祉協議会まで御連絡ください。

金御岳スクール～冬の陣～（子どもの学習支援事業）

12月25日、26日梅北小学校及び安久小学校３年生児童を対象として実施しました。

２日間で延べ20名の児童が参加し、勉強の後は、１日目はパステルアート、２日目は調理実習の体験活動を行いました。中学校ボランティアのおかげで児童たちも大満足の様子でした。

パステルアートの石原先生

地域福祉に関するアンケート調査

10月から12月にかけて地域福祉に関するアンケートを実施しました。中郷地区では小学校３年生以上の地域住民の皆様（総勢237名）に御協力をいただきました。

本調査結果を基に、第４次都城市地域福祉活動計画や中郷地区社会福祉協議会の事業計画を策定していきます。お忙しい中、御協力くださいました皆様ありがとうございました。

皆様の善意ありがとうございます（匿名寄付）

寄付日	地区名	寄付者氏名
R2.7.29	上安久	匿名

中郷地区の地域福祉向上のため大切に使わせていただきます。

ふくしなんでも相談

毎週水曜日（祝祭日除く）10:00～15:00

中郷地区社会福祉協議会事務局にて受付中。事前予約は必要ありませんので、お気軽に御相談ください。相談はお電話でもお受けします。

TEL：0986-39-0713（中郷地区公民館）

地区社協専用携帯：080-2772-9667

紙おむつ無料配布

在宅で生活されている方で必要な方に、紙おむつを２か月に１回（１個）無料配布しています。

配布場所：中郷地区社会福祉協議会事務局

詳細は、中郷地区社協（39-0713）又は地区の民生委員にお問合せください。

この広報誌は赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。

山之口地区社会福祉協議会広報紙 あじさいだより

令和2年7月1日現在
山之口地区社会福祉協議会
山之口町花木2667番地2
TEL（0986）57-4577
FAX（0986）57-5249

事務所開設日
毎週　火曜日
祝日時は水曜日
10時～3時
シルバーセンターふれあいの里
電話　57-4577

山之口地区社会福祉協議会会長あいさつ

令和2年度の山之口地区社協「あじさいだより」をお届けします。

令和元年度、皆様方からの「山之口地区社協」協力金500円のおかげで、下記掲載の事業のほとんどが行えましたこと、また、今年度も同様にご協力いただいていることに会長として感謝申し上げます。

本年度は右記掲載の役員体制で、昨年同様の活動をしていきたいと思いますが、ご存じのように、新型コロナウイルスの影響のため、実施出来ない事業もあるのではと心配しています。しかし地域のつながりや見守りを、出来るだけ絶やさないように工夫しながら活動していきたいと思っていますので、ご協力、ご理解のほど、よろしくお願い致します。

勉強は今、100年に一度というような、世界的危機に見舞われており、毎日のコロナ感染状況、死者数に一喜一憂している状況です。いつ終息するのか、ワクチンは出来るのか、疑りたくない、知らないうちに人に移したくない、疑ってしまったら、周りの視線も気になるという状況をもたらす『人と人を遠ざける、人のつながりを切る』という厄介なウィルスです。しかし、このような現状だからこそ、地域のつながり、人と人のつながりを大事にしたいと思います。

「山之口地区社会福祉協議会」では、地域の人々、特に高齢者の見守りやつながりを大事にしたいと各地域のいきいきサロン活動、こけない体操などの、地域のつながりを強やすための活動の一つとして協力金を基に、助成金を活用した事業の支援も継続して行っており、毎年少しずつその数も増えてあります。

この困難の時き、弱者を中心に考えて、必ずみんなで立ち上がろうという気持ちで毎日をお過ごしください。

地区社協 役員紹介

＊会　長	有川俊一郎（花木地域隊長）
＊副会長	益　喜　業（梅地域隊長）
＊副会長	川越正美（民生児童委員会長）
＊事務局	蓮城舞子（地域ボランティア）
＊事務局	永野美代子（地域ボランティア）

地区社協の主な事業は……

- ◎いきいきサロン活動支援
- ◎高齢者隙がい者活動支援
- ◎学校花いっぱい活動支援
- ◎兼子ふれあい木工教室
- ◎福祉なんでも相談
- ◎生活おたすけサービス事業
- ◎広報啓発活動

※地域住民のふれあいを目的とした活動に必要な支援を行っております。気軽に相談下さい。

いきいきサロン活動を紹介します

★いきいきサロンって何？

同じ地区に住む住民同士が集まり、交流する「仲間づくり」の場です。

★いつどこでやっているの？

地域の公民館、集会所で、開催日時は、グループで決めて取り組めます。

★費用はかかるの？

地区社協で助成金を出します。個人負担はグループで決めます。

★何をしているの？

レクリエーション、茶話会、料理教室、小物作り、救急法学習会、懐メロ合唱など相談して決めます。

★誰でも参加できるの？

いきいきサロンはどなたでも参加出来ます。グループで代表を決めて申請をしてください。

★地域で愉しみを見つけませんか？
★取組みについては、ご相談下さい。

山之口地区の生活支援コーディネーターを紹介します

民生児童委員　鈴田ムーさん

前民生委員教員　米澤トシエさん

生活支援コーディネーターは別名『地域支え合い推進員』とも言えます。

地域の中で手助けを必要とする、高齢者や障がいのある方が、地域で最後まで生活できるように声かけや地域にある交流の場を訪問し、困りごと・不便なことなど様々な声を聞くとともに、地域にある隣近所の支え合いや交流の場などを発掘して関係機関へ情報をつなぎ、福祉制度のサービスが有効に活用できるつながりを働きかける役割となります。

お二人がお伺いされますので、気軽に声を掛けて話してください。

尿取りパッド配布

支給要件は65歳以上の方で在宅看護を受けておられ、オムツ等を必要とされる方に2ヶ月に1回支給をしております。

希望される方は地区社協開設日　毎週火曜日
10時～3時までにお出で下さい。

広報あじさい

山之口地区社協だより

令和3年2月発行
山之口地区社会福祉協議会
山之口町花木2667番地2
TEL 57-4577 FAX 57-5249

地区社協開設日
毎週火曜日
午前10時～午後4時
事務所
シルバーセンターふれあいの里

新型コロナウイルス感染拡大というこれまでに経験したことのない状況が、昨年2月の発生から続いており、各種行事の中止、外出自粛、会食の制限等の大きな制約を受けて生活に不便を感じております。
山之口地区社会福祉協議会の事業でも、いきいきサロン・雑算の時うち体験・6地域民生委員及び民生児童委員との合同研修会等の事業を中止しております。
令和3年度は、多くの事業に取り組めるようコロナウイルス感染拡大の終息を願うところであります。
令和2年度に、感染対策をしながら開催した事業等を紹介します。

令和2年度 山之口地区社協の開催事業

夏休みふれあい絵画教室

小学校3年生以下8名の参加
8月7日(金)・8日(土)
会場：西文化研究人形浄瑠璃資料館

人形の館資料館内の展示品の説明や浄瑠璃人形の操作方法を学びました

人形浄瑠璃の定期公演に使われる文弥節人形の中から好きな人形を選んで描きました

生活おたすけ援助員・日常生活支援員研修

援助員は研修を受け研鑽して支援を行います
今年は男性援助員さんが活動されました

第4次地域福祉活動計画作成の役員会・理事会での協議

中学校生・3校小学校生にアンケート調査を実施
その結果を基に、役員会・理事会で活動計画の協議を行いました

ふれあいいきいきサロン全体研修

コロナ感染対策をして
クリスマスバージョンのフラワーアレンジの様子

各地域いきいきサロン活動

各サロングラブ活動の様子

いきいきサロン12クラブへ
弗骨健体酒計・湯豆腐を
配布しました

善意のご寄付

鹿の母迎英喜子さん
花木の匿名の方より

山之口地区社協へ5万円の善意ご寄付をいただきました。
地区社協事業で地域活動に活用させていただきます。
善意のご寄付ありがとうございました。

尿取りパッド配布

福祉事業の還元として尿取りパッド配布事業があります。
支給要件は65歳以上の方で在宅看護を受けており、オムツ等を必要とされる方に2ヶ月に1回支給されます。
希望される方は、地区社協開設日毎週火曜日:10時～3時までにおいで下さい。

高城地区社協

桜友会（さくらゆかい）だより

令和３年４月発行
高城地区社会福祉協議会
会長　石田　操

～役員紹介～

令和２年度はコロナ感染症予防の観点から、多くの事業が中止となりました。
コロナ感染症のワクチン接種の時期も、詳細は未定ですが、早く収束できるようになると良いですね。
役員を紹介します。

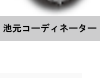
石田会長

役職	氏名	
会　長	石田　操	
副 会 長	坂元　京子	
副 会 長	新原　明義	※新任
事務局長	畠中　和昭	
会　計	道島　多貞子	
生活支援コーディネーター	池元　充（みつる）	※新任

※生活支援コーディネーターは、人とひとをつなぐ地域住民の橋渡し役です。

新任です。よろしくお願いします

新原副会長



池元コーディネーター

～地区社協リレークイズ～

今年度は、みやこんじょボランティアフェスティバルをオンラインで実施することになりました。
15 地区の地区社協のメンバーが、自分達の地区の自慢をクイズにして、オンラインでたたかいます。高城地区社協は、庄内地区社協と対戦しました。この模様は、３月 22 日から YouTube で半年間配信されます。

三恭電設㈱様より 100 万円ご寄附いただきました

5月中旬、高城町石山地区ご出身の瀬戸口香氏が代表取締役を務める三恭電設株式会社（岡山県倉敷市）様より、高城地区社会福祉協議会あてに寄付金100万円をいただきました。厚く感謝申し上げます。
高城地区の地域福祉活動に活用してほしいとのご趣旨です。
ご厚意に感謝の意を表し、6月29日（月）三恭電設㈱様あてに感謝状を高城総合支所において贈呈させていただきました。
いただいた100万円は「三恭電設㈱地域連携支援金」とネーミングし、高城地区内で熱心に活動しているLOKAHI さん、福八さん等 9 団体に助成いたしました。

6月29日感謝状贈呈
石田会長より
瀬戸口香氏にお渡ししました

放課後等デイサービス
「LOKAHI（ろかひ）」
さん看板を作成しました

一般社団法人
「福八」さん
トイレを改修しました

フードバンク事業

昨年 2 月号にて呼びかけさせていただきましたフードバンク事業につきましては、住民のみなさまより
缶詰、お菓子、お茶などの寄贈をいただきました。

ありがとうございました。

さっそく、支援を必要とされているご家庭へ、配布させていただきました。
引き続き、ご家庭の余っている食品（お米、缶詰、レトルト食品等）がありましたら、ご寄付をお願いします。

❤福祉なんでも相談❤

◆開設日　火曜日　10：00～15：30
◆場　所　高城老人福祉館
◆連絡先　☎58－3279　080－2772-9669

秘密は厳守します

❤おむつ給付事業❤

対 象 者：在宅で生活されている方
支給頻度：２ヶ月に１回
※保険証と印鑑をお持ちください

令和3年3月［第27号］

～山田福祉だより～

発行：山田地区社会福祉協議会

ふだんのくらしのしあわせづくり

山田地区社会福祉協議会では「安らぎとふれあいの中で、ともに支え合い、だれもが役割を担える福祉のまちづくり」の実現を目指して地域福祉事業の推進に取り組んでいます。

～山田地区社会福祉協議会の主な事業～

山田地区社会福祉協議会　事務局
「福祉なんでも相談」
- 開設日：毎週月・火曜日9：00～16：00
- 場　所：山田総合福祉センター（けねじゅ苑）
- TEL　0986-2772-9670
または　0986-64-2200（社協山田サテライト）

山田地区子育て応援事業「つくしんぼ」事務局
- 開設日：毎月第1、第3・木曜日　10：00～12：00
- 場　所：山田総合福祉センター（けねじゅ苑）

サポーターさんも募集してます！

紙オムツ支給事業
- 対象者：在宅で紙オムツの必要な方
- 回　数：2か月に1回（毎奇月・1袋）　無料
- 時　間：9：00～16：00
- 場　所：山田総合福祉センター（けねじゅ苑）
- 申込用：印鑑をご持参ください。

～詳細があります。詳しくはけねじゅ苑へ～
※皆様の善意寄付を財源としています。

その他の事業（随時）
- いきいきサロンの推進
- 地域見守り・子どもボランティアの育成
- 介護者のつどい
- 福祉協力員活動　・生活支援サービス事業
- ふれあい交流事業・子育て応援事業
- 学習支援事業
- 各種講座や研修会の開催

コロナに負けないぞ!!　～子どもボランティア「ひまわり隊」の取り組み～

コロナ禍で様々な活動が制限される中、子どもボランティア「ひまわり隊」では間接的なボランティア活動を行い、地域とのつながりを絶やさないように工夫しながらボランティア活動に取り組んでいます。環境美化活動も兼ね、"フラワーアレンジメント"に挑戦して福祉施設にプレゼントをしたり、交流活動が出来ない代わりに、誕生日を祝う"はがき"や"手紙"を高齢者施設送り、つながりを絶やすことのないような活動をしています。

地域の取り組み紹介

地域ボランティア　民生委員を中心に草刈りや花植えなど環境整備をおこないました！

読み聞かせボランティアドロップス　音楽を用いて町内の学校や児童施設で活動しています。

ドロップスの皆さん　　本之川内小6年生

ドロップスというグループ名は色々な味（個性）のメンバーを連想しています。
楽しい音楽と読み聞かせの総合で、子ども達は本の世界へと引き込まれていきます。

調理ボランティア

各事業の食事提供や、調理実習の補助、食の支援事業で活躍されています。毎日栄養満点の美味しい料理を提供してくださいます。

愛情たっぷり手作りお弁当

調理実習（上）と学習会（右）の様子

支援員募集！　住民参加型福祉サービス事業「たすけ愛隊」

地域住民一人一人が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、支援が必要な方の日常生活のお手伝いをする活動です。

有償ボランティア
1時間800円支給します

（内容）
・掃除、洗濯、ゴミ出し、買い物、病院の付き添い、話し相手・・・等

※資格はいりません。あなたの「熱意」と福祉に対する優しい心が必須です。出来ることを、出来る時間に！！

できることから始めませんか？

～withコロナの地域支援～

新型コロナウイルスの感染拡大が長期化する中、地区社協の事業も縮小や自粛など満足な活動ができません。厳しい状況ではありますが、皆様方のご協力を得て、様々なアイディアと工夫で地域福祉推進活動を行って参ります。今後とも皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

～地区社協事務局一同～

コロナに負けないぞ!!

山田地区社会福祉協議会　事務局
「福祉なんでも相談」
- 開設日：毎週月・火曜日9：00～16：00
- 場　所：山田総合福祉センター（けねじゅ苑）
- TEL　0986-2772-9670
または　0986-64-2200（社協山田サテライト）

※住民の皆様へ　住民の皆様からの社協会費が山田地区社会福祉協議会を支えております。これからもご協力をお願いいたします。

山田地区社会福祉協議会　「ひまわり隊」令和3年4月　特集号

子どもボランティア「ひまわり隊」

できるときに　できることを！

コロナ禍の中で日頃できていたボランティア活動。生活様式も変わり何ができるかを考えました。

隊長　山田小学校6年　北山煌興

ひまわり隊の活動を紹介します。現在、山田地区内の小・中学生26名が登録しています。昨年は、新型コロナウィルスの影響で集まる機会やイベントも少なかったです。例年なら地域ボランティアの方々と一緒に手作りや子どもフェスティバルへの参加、かかし祭りなどで募金活動などをしていましたが、残念ながらいろいろなイベントが中止となりました。僕は、1年生から活動をしてきてたくさんの人が「頑張ってね！」と、言ってくださるのがとても嬉しいです。昨年は、募金活動などができなくてとても残念でしたが、山田町の老人ホームのおじいちゃん、おばあちゃんにお誕生日のお手紙や年賀状、ランチョンマットなどを作って送りました。「嬉しかった」という思いがけない返事を頂いて僕も嬉しかったです。これからもいろいろなボランティア活動をしてだれかのために役に立つといいなと思います。そしてたくさんの人と一緒にボランティア活動を続けたいと思います。

《発会式　熊崎副隊長　玉利先生の話》

《高齢者の方々と交流をしています。》

大きな年賀状寄せ書き

脇子先生のアコーディオンに合わせて自己紹介

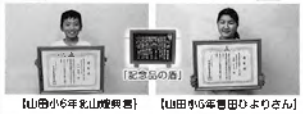
バースデイカードでお祝いしよう

ランチョンマットをプレゼント

山田中の生徒さんも作ってくれました

可愛くしようね

【奨励賞を受賞しました】



【山田小6年北山煌興君】　【山田小6年吉田ひより君】

6年間子どもボランティア「ひまわり隊」に所属し、地域でボランティア活動をして児童の模範となりました。
学習会や環境美化、募金活動では下級生のリーダーとして模範になりました。今年度は、コロナ関係で出来ない活動でしたが工夫して行いました。

山田地区子どもボランティア多年活動表彰

子どもボランティア様として活動に参加し、地域の担い手として頑張ってくれました。
この一年はリーダーとしても大きな役割を担い下級生を引っ張ってくれました。中学生になっても継続に、継活動に、ボランティア活動に頑いつぱい頑張ってくれることを期待します。有難う。

山田小5年　新留 璃華さん　坂元 伯仁さん　吉田 ひよりさん　北山 煌興さん
本之川内小6年　黒 涼介さん　黒木 蒼馬さん

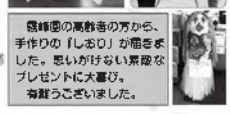
《音声ボランティア》
家族のメッセージをビデオレターに

少しずつ頑張るなぁ～。

毎月のお誕生日にバースデイカードを送っています。101歳のおばあちゃんから返事をいただきびっくり！
まだ見ないおじいちゃん、おばあちゃんに会ってみたい。

年賀状
木小3年米吉望乃さんの寄字
みんなで寄せ書きしました。

いつか会えるかな！



熊崎園の高齢者の方から、手作りの「しおり」が届きました。思いがけない素敵なプレゼントに大喜び。
有難うございました。

環境美化活動

生け花って結構おもしろいね・・。

う～ん。これでいいかな・・。

お花を活けて学校や公共施設などに飾ってもらいました。

＝ひまわり隊員募集中!!＝

小学生以上誰でも参加できます。活動は平日夕方や学校休業日など送迎のできない人は相談してください。

申し込み先
山田地区社会福祉協議会事務局
℡：080-2772-9670（新妻）

サンタさんからのプレゼント

お楽しみクリスマス会

この活動は共同募金の配分金で実施しています。

自治公民館 福祉部 設置事業

自治公民館組織に福祉部を設置し、福祉活動を実施する自治公民館に対して助成金を交付しました。1公民館30,000円　令和2年度は31館に助成しました。（一部紹介）

花壇の花植え（荒場）

グランドゴルフ（徳元）

道路清掃（木下）

福祉協力員 令和3年度改選（3年任期）

福祉協力員は、地域住民と共に福祉のまちづくりを推進するために自治公民館長や民生児童委員の良き協力者として活動を援助し、地域住民の相談相手となって、地域の福祉活動に積極的に参加し、福祉の向上に寄与していただいています。令和3年度は改選の年です。現時点では、78名の方が委嘱されています。

地域福祉研修会と共催して研修会を開催しました。（令和元年度分）

有償ボランティア ぽかぽかサービス

高崎地区内に居住する高齢者、障害者等支援が必要な方で、食事のしたくや掃除洗濯・買い物等をお願いしたいな…など思ったことはありませんか？高崎地区社会福祉協議会では、日常生活でお困りの方に手助けができればと「ぽかぽかサービス」を実施しています。また、支援ボランティアも同時募集中です。詳しくは事務局へお電話ください。

■サービス内容　家事手伝い　1時間700円（車での送迎はしていません。）

＜事務局＞高崎地区社会福祉協議会　開設日：毎週水曜日 10:00 ～ 15:00
〒889-4505 都城市高崎町大牟田 1326-21　さわやか館内
電話 080-2772-9671 又は 62-3422（社協高崎サテライト）

高崎地区社会福祉協議会だより

発　行：高崎地区社会福祉協議会　発行日：令和3年3月31日　No. 22

高崎地区社会福祉協議会の事業推進につきまして、日頃より多大なご支援ご協力をいただき心よりお礼申し上げます。また、本年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため様々な事業、行事が中止あるいは縮小になりましたことをお詫び申し上げます。

令和3年度は、生活様式の変容がある中で、地域での支え合い・助け合い等地域の皆さまの協力を得ながら引き続き地域福祉活動に取り組んで行きたいと思います。よろしくお願いいたします。

― 事業紹介 ―

福祉なんでも相談

高崎地区社会福祉協議会では、「福祉なんでも相談」を開設しています。
お気軽にご相談ください。
■電　話　080-2772-9671 又は 0986-62-3422（社協高崎サテライト）

地区社協研修会

令和2年12月9日（水）に研修会を開催しました。毎年実施していた視察研修を感染症予防のため自粛し、その代替として認知症研修会を開催しました。

高崎地区においても高齢化が進む中で、全国的に大きな課題となっている認知症について住民が正しく理解し、誰もが住み慣れたところで暮らし続けることができることを目指して開催しました。

■講演「認知症を理解しよう」
■講師　都城フォレスト・クリニック脳神経外科　原田健一院長

植垣会長あいさつ

原田院長による講話

質疑応答

たかざき昔物語～昔を語る会～ 高崎小3年生

令和2年10月28日（水）高崎小学校3年生45名と地域ボランティア9名が6班に分かれて、昔の生活様式の話や遊びを体験、交流を深めました。

児童代表の言葉

1班　お手玉

2班　コマ回し

3班　竹馬

4班　缶ぽっくり

5班　おはじき・あやとり

6班　昔の話

認知症サポーター養成講座 高崎小5年生

令和2年11月11日(水)高崎小学校5年生46名を対象に認知症サポーター養成講座を開催しました。講座終了後、サポーターのしるしの「オレンジリング」が渡されました。

包括支援センター職員による説明

認知症キャラバンメイトによる講座

在宅介護者の集い　フラワーアレンジメント

令和2年11月25日（水）介護者の人が、介護での悩みや体験を話しながら交流を深め、リフレッシュの場としてふれあい交流を図りました。

■講師　フラワーアレンジメント　田中裕子（ひろこ）さん

田中さんあいさつ

作品を作成中です。

健康づくりふれあい交流サロン

各地域で健康づくりふれあい交流サロンを開催中です。

令和2年12月16日（水）縄瀬地域公民館では、縄瀬多目的集会所市民広場にてグランドゴルフを実施しました。参加者からは「身体を動かし、笑いありで心身共に元気になりました。」との声が聞かれました。

準備運動

ナイスショット！

みやこんじょボランティアフェスティバル わがまち自慢リレークイズ参加　Zoom対決

例年、みやこんじょボランティアフェスティバルは、多くの関係団体が一堂に会して開催していましたが、今年度は、動画をインターネット配信することになりました。

様々な催しの一つに「わがまち自慢リレークイズ」があり、対抗でわがまちの自慢対決をしました。相手は、妻ケ丘地区社会福祉協議会さんです。

■実施日　2月24日（水）
■内　容　各地区問題を3つだし、正解数の多い地区が勝ち

結果3対2で負けてしまいました。シュン…。

顔合わせ
問題です。
正解です。
解答中

『都城市の地域福祉2020』

～都城市地域福祉実践報告書～

編　集　社会福祉法人都城市社会福祉協議会地域福祉課
住　所　〒885-0077 都城市松元町４街区17号
tel 0986-25-2123　fax 0986-25-8894
http://www.m-syakyo.or.jp/
info@m-syakyo.or.jp
発行日　令和３年３月31日

社会福祉法人都城市社会福祉協議会